

令和6年度（繰越）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事

令和7年度

株式会社 翁長設計

図 面 リ ス ト														
工事分類	項 目	番 号	図 面 名 称	縮 尺	工事分類	項 目	番 号	図 面 名 称	縮 尺	工事分類	項 目	番 号	図 面 名 称	縮 尺
建築工事	意匠図	A-00	表紙	—	建築工事	構造図	S-01	標準仕様書（1）	—	設備工事	設備図	E-01	特記仕様書・照明器具姿図・分電盤図	—
		A-00	図面リスト	—			S-02	標準仕様書（2）	—			E-02	電灯設備平面図	1/60
		A-01-1	特記仕様書-1	—			S-03	標準仕様書（3）	—			E-03	コンセント設備平面図	1/60
		A-01-2	特記仕様書-2	—			S-04	標準仕様書（4）	—					
		A-01-3	特記仕様書-3	—			S-05	標準仕様書（5）	—			M-01	特記仕様書・空調機器表	—
		A-01-4	特記仕様書-4	—			S-06	標準仕様書（6）	—			M-02	空調設備平面図	1/60
		A-01-5	特記仕様書-5	—			S-07	標準仕様書（7）	—					
		A-01-6	特記仕様書-6	—			S-08	標準仕様書（8）	—					
		A-01-7	特記仕様書-7	—			S-09	標準仕様書（9）	—					
		A-02	建築概要・工事範囲・案内図・面積表	—			S-10	標準仕様書（10）	—					
		A-03	配置図	1/400			S-11	表層地盤改良工法地業特記仕様書	—					
		A-04	仕上表	—			S-12	基礎伏図	1/50					
		A-05	平面図	1/100			S-13	土台伏図	1/50					
		A-06	平面詳細図	1/60			S-14	小屋伏図	1/50					
		A-07	立面図 1	1/60			S-15	屋根伏図	1/50					
		A-08	立面図 2	1/60			S-16	柱壁伏図	1/50					
		A-09	断面図	1/60			S-17	軸組図	1/100					
		A-10	天井伏図	1/60										
		A-11	建具表	1/60										
		A-12	階段詳細図	1/40										
		A-13	既設解体建物	1/100										

工事名称		令和6年度（補正）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事			工事年度		令和7年度	
工事場所		沖縄県国頭郡国頭村比地263-1			図面名称		図面リスト	
発注機関		沖縄電美自然環境事務所			縮 尺		—	
摘 要					図面番号		A-00	
検 印		管理建築士		設 計	製 図		設 名 称	(株) 翁長設計
							資格者氏名	一級建築士 吉田 康平
							登録番号	大臣登録 第376384号
							所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201

9

防水工事（つづき）

屋内防水

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・ 設ける（※図示 ・ ） ・ 設けない

防水層の地下の立上り
※コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種 ・
押え金物の材質及び形状と寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
防水層の地下のモルタル塗り ・適用する（施工範囲 ※図示 ・ ） ・適用しない

屋根排水溝 ※図示 ・

(9.3.2～3) (表9.3.1～3)

改質アスファルトシート防水

防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材	防水層	仕上塗料		高日射反射率防水の適用
				種類	使用量	
・AS-T1		標準仕様書9.3.2(3)(WU+FF73) (種類) (厚さ) ・25mm ・50mm	・ 設ける (改質アスファルトシートの製造所の仕様による) ・ 設けない	・改質アスファルトシートの製造の仕様	・改質アスファルトシートの製造の仕様	・
・AS-T2				・	・	・
・AS-T3				・	・	・
・AS-T4				・	・	・
・AS-U1				・	・	・
・AS1-T1						・
・AS1-U1						・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ mm以上
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁加熱工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ・
設置数量 個 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
※改質アスファルトシートの製造所の指定

(9.4.2～4) (表9.4.1～3)

種別	施工箇所	絶縁用シート の材質	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用
				種類	使用量	
・S-F1	・	・	標準仕様書9.4.2(3)(WU+FF74) (種類) (厚さ)	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・
・S-F2	・	※発泡ポリエチレンシート		・	・	・
・S-M1	・	・	標準仕様書9.4.2(3)(WU+FF74)(a) (種類) (厚さ)	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・
・S-M2	・	・		・	・	・
・S-M3	・	・		・	・	・
・S1-F1	・	※発泡ポリエチレンシート	標準仕様書9.4.2(3)(WU+FF74)(a) (種類) (厚さ)	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・
・S1-F2	・	・		・	・	・
・S1-M1	・	・	標準仕様書9.4.2(3)(WU+FF74)(a) (種類) (厚さ)	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・ルーフイングシートの製造所の仕様	・
・S1-M2	・	※発泡ポリエチレンシート		・	・	・

S1-F1、S1-F2、S1-M1及びS1-M2における防湿用フィルムの設置
・ 設ける
・ 設けない
S-M2またはS1-M2の立上り部の工法
・ 接着工法 立上り面のシート厚さ ※1.5mm
・ 機械的固定方法

屋内防水

防水層の種類

種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護 モルタル塗厚
		平場のモルタル塗り 塗厚		
・S-C1	・	・床塗り工法 ・下地モルタル塗り		※7mm以下

10

石工事

石材の割付け

平場のモルタル塗りの目地 ・種類 ・目地材 ・図示

ルーフイングシートの種類及び厚さ
種類 ・
厚さ ・
※標準仕様書表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による ・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ・
※ルーフイングシートの製造所の仕様
設置数量 ・
※ルーフイングシートの製造所の仕様
固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板

接着工法においてプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・ 行う（・図示 ・ ）
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S1-F1の場合）
・ 行う（・図示 ・ ）

機械的固定工法の場合の一般部のルーフイングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

(9.5.3) (表9.5.1、2)

防水層の種類

種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	高日射反射率防水の適用
		種類	使用量		
・X-1		・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様		・
・X-2	・勾配屋根 ・陸屋根	・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様		・
・Y-1	※地下外壁防水				
・Y-2	※屋内防水			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※主材料の製造所の仕様
設置数量 ・ 個
※ルーフイングシートの製造所の仕様
ゴムアスファルト系塗膜防水Y-1、Y-2
工程数及び各工程の使用量 ・
※主材料の製造所の仕様

(9.6.1、3、4) (表9.6.1、2)

防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C-U1		・C-U-P	

防水層の地下
壁（・ ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）
天井部（・ ※コンクリート打放し仕上げ（表6.2.4 B種）

下地処理
コンクリートの打継ぎ面の処理
・
・図示
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mmにV形にはつり、水洗い清掃した後、防水材の製造所の指定する材料を充填
型枠締付け材にコーンが使用されている部分及び防水材の塗布面以外の下地処理
・
・図示

(9.7.2、3、5) (表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
○サッシ回り	

シーリング材の目地寸法
・
・図示
※標準仕様書9.7.3(1)(WU+FF71)～(WU+FF73)による

接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

(10.1.3、5)

石材の割付け
図面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ
・図示
図面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ
・図示
室内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・ 行う（適用場所 ・すべて ・ ）
・ 行わない

(10.2.1、3) (表10.2.1、2)

天然石

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法 寸法(mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ の種類	備考
・床石 トイレ小便器前		◎2等品	○750x600	13		
			※正方形に近い矩形 (石材1枚の面積が 0.8㎡以下)			
・トイレイニング			○D:150	20		

テラズブロック

施工箇所	種石の種類	種石の 大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面 による区分	寸法 (mm)	仕上げの 種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

外壁湿式工法

内装空工工法

乾式工法

床及び階段の石張り

アーチ、上げ裏等の石張り

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の 大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型		

取付け用モルタル
・ ※専門工事業者の指定する製品
既調合の目地モルタル
・ ※専門工事業者の指定する製品
石裏面処理材
・ ※専門工事業者の指定する製品
裏打ち処理材
・ ※専門工事業者の指定する製品
金物の固定に使用する充填材料等
・ ※専門工事業者の指定する製品

(10.2.2、3) (10.3.2、3)

受金物 材質 ・ ※SUS304
形状及び寸法
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm

アンカーの材質及び径 ・ ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法等（・ ）
ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー・横筋流し工法

目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地
位置 ・図示 ※標準仕様書11.1.1による
シーリング材の目地寸法
・図示 ※幅・深さ共10mm以上

(10.2.2) (10.4.2、3)

受金物 材質 ・ ※SUS304
形状及び寸法
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ150mm

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法等（・ ）
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
シーリング材 ・適用する ・適用しない

伸縮調整目地
位置 ※6m程度ごと ・図示
シーリング材の目地寸法
・ 図示 ※幅・深さとも10mm

(10.2.2) (10.5.2、3) (表10.2.4)

乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等（・ ）
取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス（SUS304）M10
あと施工アンカーの材質及び寸法等（・ ）
だぼ用の穴の位置 ・図示 ※標準仕様書10.5.2(2)(WU+FF71)による
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・図示 ※標準仕様書9.7による

(10.6.2、3)

床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・
・ 屋外4以上 ・ 屋内3～6
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地
位置
・図示
※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6㎡程度ごと及び他の部材と取り合う箇所
シーリング材の目地寸法
・ 図示 ※幅・深さ共10mm

(10.2.2) (10.7.1、2)

取付け工法 ・内装空工工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(3)
材質 ※ステンレス（SUS304）
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受金物 ・
ファスナーの方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
吊金物及び化粧吊りボルト
・ 設ける 吊金物 ※ステンレス（SUS304）径6mm長さ80mm（加工物）
・ 設ける 吊りボルト ※ステンレス（SUS304）M10化粧ナット付き
・ 設けない

あと施工アンカーの材質及び寸法（・ ）
取付け工法 ・内装空工工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(3)
材質 ※SUS304
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受金物 ・
ファスナーの方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法（・ ）
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ・ ※70mm程度
石材の表面の補修用モルタル ・適用する ・適用しない

(11.2.2、7) (表11.2.1、1)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示
目地寸法 ・ ※標準仕様書9.7.3による

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、7)

施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の 適用	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考	
			I類 II類 III類	面吹う	面吹う	有	無	有	無	
外部 エントランス	300x300	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トイレ	300x300	-	-	-	-	-	-	-	-	-

標準的な面がりの役物は一体成形とする
試験張り ・ 行う ・ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・ 目尻し工法（高圧水洗処理） ・ MCR工法
壁・タイル張りの工法
内装タイル ・ 密着張り ・ 改良積上げ張り ・ 改良圧着張り ・ ユニットタイル
外装タイル ・ 密着張り ・ 改良積上げ張り ・ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

・既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質・性能・試験方法)
別表による
・既製調合目地材
(品質・性能・試験方法)
別表による

(11.3.2～4、7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の 適用	吸水率による区分	うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	備考
			I類 II類 III類	面吹う	面吹う	有	無	有	無
		-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-

標準的な面がりの役物は一体成形とする
試験張り ・ 行う ・ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材
下地調整材塗りを行うコンクリート素地面の処理
・ MCR工法 ・ 目尻し工法（高圧水洗処理） ・

令和2年3月（改）

工事名称 令和7年度（補正）やんばる世界遺産センター作業事務所新設工事

工事年度 令和7年度

工事場所 沖縄県国頭郡国頭村比地263-1

図面名称 建築工事特記仕様書（その2）

発注機関 沖縄奄美自然環境事務所

図面番号 A-01-2

描 要

管理建築士 設 計 製 図

設 名 称 (株) 総長設計

設計者 実務者氏名 一級建築士 吉田康平

登録番号 大臣登録 第376384号

所在地 浦添市勢理客3-2-24 (改)

12木工工事

○ 表面仕上げ

○ 製材

○ 造作用集成材

(12.1.4) (表12.1.1)						
表面仕上げの種類		適用箇所				
機械加工	・ A種					
	○ B種					
	・ C種					
手加工	・ H-A種					
	・ H-B種					
	・ H-C種					

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理 間伐材等の適用
外壁下地			※ 2 級		※ A種・B種	・
			※ 2 級		※ A種・B種	・
			※ 2 級		※ A種・B種	・

○「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理 間伐材等の適用
見え掛り面			※上小節		※A種・B種	・
			※小節以上		※A種・B種	・
見え掛り面以外					※A種・B種	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存処理 間伐材等の適用
			※ 1 等		※10%以下 ・ A種・B種	・
			・		※10%以下 ・ A種・B種	・
			※ 1 等		※10%以下 ・ A種・B種	・
			※ 1 等		※10%以下 ・ A種・B種	・

「製材の日本農林規格」以外の製材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			() ・ 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種・B種 ・	・
			() ・ 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種・B種 ・	・
			() ・ 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種・B種 ・	・

(12.2.1)						
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・						
○「集成材の日本農林規格」による造作用集成材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用	
構造図による	図示	図示	構造図による	※1等 ・ 2等	・	
				※1等 ・ 2等	・	
・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板: 芯材:				※ 1 等 ・ 2 等	・
					※ 1 等 ・ 2 等	・
	化粧薄板: 芯材:				※ 1 等 ・ 2 等	・
					※ 1 等 ・ 2 等	・
・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用	
	化粧薄板: 芯材:				・	・
					・	・
	化粧薄板: 芯材:				・	・
					・	・
・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用	
				※15%以下 ・	・	
				※15%以下 ・	・	
				※15%以下 ・	・	
・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下 ・	・
					※15%以下 ・	・
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下 ・	・
					※15%以下 ・	・
・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱						
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下 ・	・
					※15%以下 ・	・
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下 ・	・
					※15%以下 ・	・

○ 接着剤

(12.2.1)						
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・						
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材						
施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用		
		・ 有り (加工・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級:)	・ 適用する ・ 適用しない	・		
		・ 有り (加工・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級:)	・ 適用する ・ 適用しない	・		
		・ 無し ()	・ 適用する ・ 適用しない	・		
「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材						
施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理	間伐材等の適用	
		・ 有り (加工・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し ()	・ 14%以下	・ 適用する ・ 適用しない	・	
		・ 有り (加工・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し ()	・ 14%以下	・ 適用する ・ 適用しない	・	
		・ 無し ()	・ 14%以下	・ 適用する ・ 適用しない	・	
・ CLT (直交集成板)						
施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種類	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)

(12.2.1)						
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・						
・普通合板						
施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	・ ※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ・ ※C-D以上	・ 適用する ・ 適用しない	

・構造用合板						
施工箇所	厚さ (mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	・ ※12	・ 1 級 ※2級以上		※1類 ・特類	・ 適用する ・ 適用しない	・ 適用する ・ 適用しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板						
施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用	
			※ 1 類 ・ 特類		・	
					・	
					・	

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板						
施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用	
			※ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ()	・	

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板						
施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		※ 1 類 ・ 特類			・ 適用する ()	・
						・

・パーティクルボード						
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	耐水性 による区分	難燃性 による区分	
	・ ※20 ※15		※13タイプ	※P又はM		

・構造用パネル						
施工箇所	厚さ (mm)	等級				
		・ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級				
		・ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級				

・MDF						
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	接着剤 による区分	難燃性 による区分	間伐材等の適用

(12.2.2, 3)

接着剤は可塑剤(難燃剤の可塑剤を除く)が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ ○★★★★

○ 防蟻・防蟻 処理

○ 長尺金属板葺

・ 折板葺

・ 粘土瓦葺

・ とい

(12.3.1, 2)						
・ 防蟻、防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位: ()						
○薬剤の加压注入による防蟻・防蟻処理		保存処理性能区分				
適用部位		・ K 2 ・ K 3 ・ K 4				
○作業事務所の構造材 (垂木含む)		・ K 2 ・ K 3 ・ K 4				
○作業事務所の造作材		・ K 2 ・ K 3 ・ K 4				
○薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理						
適用部位	処理の方法	薬剤の方法				
・	・	※JIS K 1571に適合 又は同等品				
・	※標準仕様書12.3.1(d) ①～④による					
・	・					
・ 薬剤の接着剤への混入による防蟻、防蟻処理 適用部位 ()						

※作業事務所の防水は本項目による						
(13.2.2, 3)						
施工箇所	板及び材の種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺き形式	備考	
	※JIS S 3020 屋根用材 ○耐熱性ガルバリウム鋼板 マダニウム鋼板		○ 40	・ 心木なし瓦葺葺 ○瓦ハゼ葺・破葺葺 ・ 破葺葺		

下葺材料 ・ アスファルトルーフィング 940
○ 改質アスファルトルーフィング下葺材
(・一般材・複層材材・粘着層付材)

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・3) 倍の風圧力に対応した工法
雪止め・設置する (施工場所・図示・)

(13.2.2) (13.3.2) (表 13.2.1)						
施工箇所	形式	山高、山びつによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	耐火性能
	・ 重ね形 ・ はげ継形 ・ かん合形 ・		() 種	※鋼板製 ・7A21M 合金板製	・ 有り ・ 無し	・ 30分 ・ 無し

材料 板及びコイルの種類 ()
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 ()
タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けないで屋内で使用する場合は表面処理 (標準仕様書14.2.2)による (・ E 種
・ F 種)
断熱材 ・ 有り (種別: 厚さ(mm): 防火性能: 時間)
・ 無し

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法

(13.4.2, 3)						
施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			・ 適用する ・ 適用しない ・ 適用しない

JIS A5208に基づく凍害試験等
行う
行わない
瓦葺木 材質 ※杉
寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上
金物等 材質、形状、寸法及び留付け方法 ※図示
棟補強用心材 材質 ※杉
寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力に対応した工法
瓦葺木の留付け工法 ※図示
棟の工法 標準仕様書13.4.3(4) (H47F71) (H47F72)

(13.5.2, 3) (表 13.5.5)						
とい	その他材料	・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管				
とい	受金物	※溶融亜鉛めっきを行ったもの				
材料	形状	※市販品 (とい径 100 以下) 25×4.5 (とい径 100 を超えるもの)				
取付け間隔	足金物	※溶融亜鉛めっきを行ったもの				
材料	形状	※市販品				
取付け間隔						

14金属工事

○ ステンレスの表面仕上げ

・ アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

○ 鉄鋼の亜鉛めっき

・ 軽量鉄骨天井下地

・ 軽量鉄骨壁下地

・ 金属成形板張り

○ 手すり及びタラップ

(14.2.1)						
種類		施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)				
※ H 1 程度 ・ 表面仕上げ 程度 ・ Na2B 程度						

(14.2.2) (表 14.2.1)						
種別	色合い等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)				
	標準色 () 特注色 ()					

陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・ 三次電解着色

(14.2.3) (表 14.2.2)						
表面処理方法		種 別	施工箇所			
溶融亜鉛めっき		・ A 種				
		・ B 種				
		○ C 種	階段手すり			
電気亜鉛めっき		・ D 種				
		・ E 種				
		・ F 種				

(14.4.2~4) (表 14.4.1)						
野縁等の種類 屋外 (※ 25 形 ・ 19 形) 屋内 (※ 19 形 ・ 25 形) ・ 屋外の軒天井、ビロテイ天井等 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・ 図示 周辺部の隙からの間隔 ・ 図示 野縁の間隔 ・ 図示 ・ 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※図示 ・ 天井のふところがあるが、5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※標準仕様書14.4.4(8)による ・ 図示 ・ 天井のふところがあるが、3.0mを超える場合 補強方法 ※図示 ・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ・ 図示 補強方法 ※図示						
(14.5.3) (表 14.5.1)						
スタッド、ランナーの種類 ※標準仕様書14.5.1によるスタッドの高さによる 区分に応じた種類 ・ 図示 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ・ ※標準仕様書14.5.4(5)による。						

(14.6.2, 3) (表 14.2.1)						
種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理	
					種別	色合い等
・7A21M	・押出し	30×148形				
	・ロール					
	・プレス	パネル形				

取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・ 図示
伸縮調整継手 ・ 設ける (施工箇所 ・ 図示 ・) ・ 設けない

(14.7.2, 3) (表 14.2.1) (表 14.7.1)						
種類	・ 250 形 ・ 300 形 ・ 350 形					
表面処理	種別 () 種 () 色合い等 ・ 標準色 () ・ 特注色 ()					
笠木の固定金具の工法等	建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力に対応した工法					

(14.8.2, 3)						
○ 外部階段手摺						
手すり	③JIS304 (表面処理 ・ ※HL程度) ④製 表面処理 溶融亜鉛めっき種別 C種の上、フッ素樹脂焼付塗装 ※標準仕様書14.2.2による。					
タラップ	・ JIS304 (表面処理 ・ 研磨なし ・ HL程度) ・ 鋼製 (表面処理 ※溶融亜鉛めっきC種 ・)					

令和2年3月 (改)

工事名称	令和年度 (国) かんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	建築工事特記仕様書 (その3)
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	—
備 要		図面番号	A-01-3
検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称 (株) 翁長設計 資格者氏名 一級建築士 吉田康平 登録番号 大臣登録 第376384号 所 在 地 浦添市勢理客3-2-24 201		

16

建具工事

ガラス

オーバーヘッドドア

セクション材料による区分

耐風圧性能区分(Pa)

開閉方式による区分

収納形式による区分

ガイドレールの材料

※スチールタイプ

・アルミニウムタイプ

・ファイバーグラスタイプ

・125 (1250)

・100 (1000)

・75 (750)

・50 (500)

※バランス式

・チェーン式

・電動式

・スタンダード形

・ローヘッド形

・ハイリフト形

・パーチャカル形

※溶融亜鉛めっき鋼板

・ステンレス鋼板

障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所

・図示

・(9.7) (16.14.2~4) (表16.14.1)

○フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類

・建具表による

・型板ガラスの厚さによる種類

・建具表による

・網入板ガラス及び輸入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類

・建具表による

・合わせガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ

・建具表による

形状による種類

・平面合わせガラス

・曲面合わせガラス

落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類

・Ⅰ類

・Ⅱ-Ⅰ類

・Ⅱ-2類

・Ⅲ類

・部位：

・強化ガラス

形状による種類、材料板ガラスの種類による名称

・建具表による

破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類

・Ⅰ類

・Ⅲ類

・熱線吸収ガラス

板ガラスによる種類、厚さによる種類

・建具表による

性能による種類

・1種

・2種

・適用建具：

・複層ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ

・建具表による

断熱性による区分

・TⅠ

・TⅡ

・TⅢ

・TⅣ

・TⅤ

・TⅥ

日射取得性、日射遮蔽性による区分

・G

・S

乾燥気体の種類

・空気

・アルゴン

・熱線反射ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類

・建具表による

日射熱透過率による区分

・1種

・2種

・3種

耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)

・A類

・B類

映像調整

・行わない

・行う

・増強度ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類

・建具表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガasket ○グレイジングチャンネル形	・図示 ・建具の製造所の仕様による
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による
ステンレス製	・シーリング材	・図示 ・建具の製造所の仕様による
樹脂製	・シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル形	・図示 ・建具の製造所の仕様による

ガラスブロック

17

カーテンウォール工事

取付方法、性能等

(16.13.2.3)

取付方法

・層間方式

・柱・梁方式

・方立方式

・スパンドレル方式

性能

耐震性能

水平方向 (kN)

垂直方向 (kN)

・1.0

・0.5

水密性

気密性

遮音性

断熱性

耐火性能

・30分

・1時間

耐温度差性 (℃)

・80

・70

・60

耐風圧性能

建築基準法に基づき定まる風圧力 (・Ⅰ・Ⅰ.15・Ⅰ.3) 値の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く)

支点間距離 (h)

4m以下

・たわみ量が± (1/150) ×h かつ絶対量20mm以下であること

4mを超える

層間変位追従性

建築物の構造種別

層間変位量 (h=支点間距離)

鉄骨造

鉄筋コンクリート造

鉄骨鉄筋コンクリート造

構造用ガasket

・適用する (施工箇所・図示)

材質

・クロロフレン系

・EPM系

・シリコーン系

形状

・H型

・V型

・C型

寸法 (mm)

ガラス板厚 ()

・支持枠の厚さ ()

・ウェブの寸法 ()

・適用しない

断熱材

種類 ()

厚さ (mm)

施工箇所

図示

耐火材料

施工部位

種別

規格等

・ファスナー部

・取付けブラケット

・パネル目地部

・層間ふさぎ

金属材料の種類

・鋼材

・ステンレス鋼材

・アルミニウム材 (アルミニウム材の場合)

規格等

標準仕様書16.2.3による

種類

着色

・標準色

・特注色

映像調整

・行う

・行わない

形状及び仕上げ

製品の寸法許容差

見え掛かり部の仕上げ

ガラス溝の寸法、形状等

※標準仕様書表17.2.1による

※カーテンウォールの製造所の仕様

取付け

躯体取付け金物の取付け位置の寸法許容差

鉛直方向

・±10mm

水平方向

・±25mm

カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差

目地の幅

・±3

目地の心の通り

・±2

目地両側の隙差

・±2

各間の基準値から各部材までの距離

・±3

シーリング材の種類

ガラスの取付け材料

・シーリング

種類

構造ガasket

形状・寸法等

図示による

断熱材

種類 ()

材料

コンクリート

種類 ()

品質

設計基準強度 (F_c)

・

※ 30N/mm2

スランブ

・

※ 12cm

気乾単位容積質量

・

普通コンクリートの場合

2.1t/m3を超え2.5t/m3以下

単位水量の最大値

・

※185kg/m³

鉄筋

種類の記号

※SD295A ()

補強鉄線

径 (mm)

・3.2

・4.0

・5.0

・6.0

網目寸法

・

シーリング材の種類

耐火目地材

断熱材

種類 ()

ガラスの取付け材料

・シーリング

種類

構造ガasket

形状・寸法等

図示による

先付けの材料

・表面仕上材

・磁器質タイル

・石材 (・花こう岩

・大理石

・)

18

塗装工事

塗料

・建具枠

・ゴンドラ用ガイドレール

形状及び仕上げ

製品の見え掛り部の寸法許容差

・辺長

対角線長の差

板厚

開口部内寸法

・わねれ、そり

曲がり

面の凹凸

先付け金物の位置

カーテンウォールの仕上げ

構造ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)

・躯体取付け金物の取付け位置の寸法許容差

※標準仕様書表17.3.2による

・材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

○ F★★★★

・防火材料

※室内の壁、天井仕上げは防火材料とする。

・次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：)

・素地ごしらえ

・錆止め塗料塗り

・塗装

部位：内壁

部位：外壁

部位：外部堅壁等

軒天・堅壁等

内壁等

木部構造部等

・内装工事

・ビニル床シート

・接着剤

・ビニル床シート

接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外

○ F★★★★

接着剤は可塑剤 (難揮発性の可塑剤を除く) が添付されていないものとする

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類

・図示

種類の記号

色柄

厚さ (mm)

備考

◎FS (標準仕様床シート)

・無地

・タタキ柄

○柄物

目地処理する場合の工法

※ 熱溶接工法

19

内装工事

内装

・ビニル床タイル

・特殊機能床

・ビニル幅木

・ゴム床タイル

・カーペット敷き

・ビニル床タイル

・色柄

・寸法 (mm)

・厚さ (mm)

備考

・TⅠ (標準仕様床シート)

・FⅡ (標準仕様床シート)

※KT (30kg/㎡仕様床シート)

・FOA (置敷き床シート)

・FOB (薄型置敷き床シート)

・帯電防止床シート

種類 ()

性能 ()

厚さ (mm)

・帯電防止床タイル

種類 ()

性能 ()

寸法

厚さ (mm)

・視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による

種類 ()

形状 ()

・耐動所着性床シート

種類 ()

厚さ (mm)

・防滑性床シート

種類 ()

厚さ (mm)

・防滑性床タイル

種類 ()

寸法

厚さ (mm)

・ビニル巾木

材質の種類

○敷貫

・硬質

高さ (mm)

◎90

・75

・100

厚さ (mm)

◎5以上

種類

・単層品

・複層品

色柄 ()

厚さ (mm)

・3.0

・4.5

・6.0

・9.0

寸法 (mm)

・織じゅうたん

・縫り方

・バイル形状

・ウィルトンカーベット

・ダブルフェースカーベット

・アキスミンスターカーベット

色柄 ()

※模様のない無地

バイル糸の種類等

・

※無地の織りじゅうたんの種類 (・A種

・B種

・C種)

・帯電性

WJ4FF65適用する

・適用しない

織じゅうたんの接合方法

※ヒートボンド工法

下敷き材

※反モフェルト (JIS L 3204) の第2種2号

呼び厚さ 8mm

・タフテッドカーベット

バイル形状

バイル長さ (mm)

工法

帯電性

備考

・カットバイル

・5~7

・

※全面接着工法

・適用する

・ループバイル

・4~6

・

・ギリギリ工法

・適用しない

・カット、ループ併用

・

下敷き材 (グリッパー工法の場合)

※反モフェルト (JIS L 3204) の第2種2号

呼び厚さ 8mm

・ニードルバンテカーベット

厚さ (mm)

・

帯電性

・適用する

・適用しない

備考 ()

・タイルカーベット

・部位：

バイル形状

種別

施工箇所

寸法 (mm)

総厚さ (mm)

備考

※ループバイル

※第一種

・第二種

※500×500

・

※6.5

・

・カットバイル

・第一種

・第二種

※500×500

・

※6.5

・

・カット、ループ併用

・第一種

・第二種

※500×500

・

※6.5

・

タイルカーベットの敷き方

平

場

※市松敷き

・模様流し

・階段部分

※模様流し

・市松敷き

・

見切り、押え金物

材質 ()

種類 ()

形状等

※図示

令和2年3月 (改)

工事名称

令和2年度 (補正) やまがはる世界遺産センター作業事務所新築工事

工事年度

令和7年度

工事場所

沖縄県国頭郡国頭村比地263-1

図面名称

縮尺

建築工事設計仕様書 (その5)

発注機関

沖縄奄美自然環境事務所

図面番号

A-01-5

摘要

管理建築士

設計

製図

設計者

資格者氏名

一級建築士 吉田康平

登録番号

大臣登録 第376384号

所在地

浦添市勢理客3-2-24 201

⑳

ユニット及びその他の工事

つづき

プレキャスト
コンクリート

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m を満足する割合強度
・ 図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・ 図示
取付け方法
※図示

(20. 3. 3.、4)

材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	
・コンクリート 間知ブロック	-	・ A ・ B	

積み方 ※谷積み ・布積み
目塗り ・図示
伸縮調整目地 材種 ・図示
厚さ ・図示

(20. 4. 2.、3)

種 類	規格等	JISによる種類
・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種 ・ 2 種 ・ 3 種
・ 鋼製物品棚		・ 4 種 ・ 5 種 ・ 6 種

枠の材質 ※ アルミニウム製
表面の材質 ※ 塩ビ発泡シート張り

材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材） ・人工大理石
奥行き(mm) ・約 450 ・約 600

・固定式

材 質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備 考
※ 網入り腐板ガラス ・ 網入り腐板ガラス	※ 6.8 ・	※ 500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種 類	材 質	高 さ(mm)	備 考
・垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	※ 500 ・ 800 ・	ガイドレール ※ 固定式(壁埋込型) ・ 可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

照明器具 ※ 有り ・ 無し
施 錠 ※ 有り ・ 無し
製造所

材質、形状、寸法 ※ 図示 ○柵柱：スガツネ工業（株） SP型程度
合板類、WDF 及びパーティクルボードホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ○ F★★★★

・ 材質：コンクリート製 ・ 寸法：300x300 t=30mm

・ 材質：磁器質タイル製 ・ 寸法：300x300 t=12mm

(21. 2. 1、2)(表 21.2.1、2)

材料	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・Ｂ形管	※図示	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ RP-VP [G] ・ RS-VU [G] ・ VP ・ VU	※図示 ※図示 ※図示 ※図示		

基礎の厚さ及び種類 ・図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤
側溝の形状及び寸法 ・図示
排水樹の種類 ・図示
砂地業に用いる材料
・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシュラン [H]切込砂利又は切込砕石

・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ・ ※18N/mm2
・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※S295A
・現場打ちの場合の足金物 ※標準仕様書21.2.2(6)(付)
材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・行う
・行わない

(21. 2. 1)

名 称	種類	適用荷重	鍵	備考
鉄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 （パッキン式） ・密閉形 （テーパー・パッキン式） ・中ふた付き密閉形 （テーパー・パッキン式）	・ T－２ 用 ・ T－６ 用 ・ T－２ ０ 用 ・	・有リ ・無し	左記以外の品質等は（公社） 空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

(21. 2. 1)

材質	形式	用途	適用荷重	バパー チフ	蓋輪めつき (付着量)	上面形状
・鋼製	・受持付き、ボルト固定	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・樹ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・細目 ・普通目 ・細目	・（ ） ・（ ） ・	・凹凸形 ・平形 ・	

(21. 2. 1)

種 別	規格	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※3種1号	融解	粉体状	・白	・150	・1.0
・1種 [G]	常温	液状	・	・100	・
・2種 [G]	加熱				

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

寒冷地の縁部立下り寸法等 ・図示
材料
・コンクリートの種類
・設計基準強度
所定のスラップ ※8
粗骨材の最大寸法
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.11による
早強ポルトランドセメント ・使用する
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ

・ ステンレス製
ボルト固定

・ 溝ふた（横断用）
・ 溝ふた（側溝用）
・ 樹ふた用
・ Ｕ字溝用

・ 歩行用
・ 1-2用
・ 1-6用
・ 1-14用
・ 1-20用

・ 凹凸形
・ 平形
・

(21. 3. 1、2)(表21.3.1)

街きよ、緑石、側溝

種類	形状、寸法
・緑石	・図示
・Ｌ形側溝	・図示
・Ｕ形側溝	・図示
・Ｕ形側溝ふた	・図示
・	・図示

地業の材料
・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシュラン ・切込砂利 ・切込砕石
砂利地業の厚さ ※100 (mm) ・図示
・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※18N/mm2
凍上抑制層に用いる材料 ・
砂の粒度試験 ・行う
・行わない

(21. 2. 1)

※ B 種

(22. 2. 2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシュラン [G]・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂	・図示 ・
・フィルター層	・砂	・図示 ・

・路床安定処理
安定処理の方法 ・置き換え工法 ・安定処理工法

路床安定化処理用添加材料
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G]
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（ ） ・消石灰（ ）
添加量 kg/m3 (目標CBR ・3以上)

・ジオテキスタイル
単位面積質量 ・60g/m 以上
厚さ(mm) ・0.5～1.0
引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上
透水係数 ・1.5×10 cm/sec以上

試験
砂の粒度試験 ・行う ・行わない
路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う ・行わない
現場CBR試験 ・行う ・行わない

(22. 2. 2、3、5)(表 22.3.1)

路盤の厚さ ・図示
路盤材料
種類
砕石
・クラッシュラン
・粒度調整砕石
再生材
・クラッシュラン [G]
・粒度調整砕石 [G]
・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G]
・粒度調整鉄鋼スラグ [G]
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]
路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない

(22. 4. 2～6)(表 22.4.4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示
材料及び種類
アスファルト ・再生アスファルト [G](・60～80 ・80～100)
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 [G]

加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(I3)
・細粒度アスファルト混合物(I3)
・密粒度アスファルト混合物(I3F)

シーリングの薬剤の種類
・PK-1
・PK-2

試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度

(22. 5. 2～4、6)(表22.5.、3)

1

コンクリート舗装の構成及び厚さ
舗装の種類 部位 構成 厚さ(mm)
コンクリート舗装 車道及び駐車場 ・図示
歩行者用通路 ・図示 ※70

寒冷地の縁部立下り寸法等 ・図示
材料
・コンクリートの種類
・設計基準強度
所定のスラップ ※8
粗骨材の最大寸法
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.11による
早強ポルトランドセメント ・使用する
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ

・ カラー舗装

・ 透水性
アスファルト舗装

・ ブロック系舗装

目的地

種類
開闢
・ m程度ごと
開闢
構造 ・図示
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による

試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平坦性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

(22. 6. 2～4)

・加熱系カラー舗装
構成・厚さ ・図示
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物 顔料の添加量 (%)
着色骨材 ()
自然石 ()

・常温系カラー舗装
工法 ・ノード工法 ・塗布工法
着色部の下部 ・アスファルト舗装

植栽地の確認等

(23. 1. 3)

土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・行う ・行わない
電気伝導度 (EC) の試験 ・行う ・行わない

(23. 2. 2、4)

・ 植栽基礎の整備

樹木の植栽基礎の整備
下適用する 適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高12m以上 (※100 ・120 ・150) 樹高7m以上～12m未満 (※80 ・100) 樹高3m以上～7m未満 (※60 ・80) 樹高3m未満 (※50 ・60)	・渠張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・渠張り部分 ・適用しない ・適用する ・適用しない

※芝、地被類 ※B 種
・

植栽基礎の排水設備 ・設ける (※図示 ・) ・設けない

・現場発生土の良質土 ・客土

・ 植込み用土

・ 土壌改良材

土壌改良材の適用
・適用する
・適用しない

種別及び指定数量等
・パーク堆肥 [G]
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基礎面積1m あたり (・50L ・)
・汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) [G]
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基礎面積1m あたり (・10L ・)
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を
使用したもので、植栽試験の調査の結果、害が認められないものとする

(23. 3. 2)

樹種、寸法、株立数等 ※図示 ・

(23. 3. 2、3)

支柱材 ※丸太（間伐材） [G] ・真竹 ・
防蝕処理方法 ※加圧式防蝕処理丸太材
形式 ・図示 ・

(23. 3. 2)

材料
※ 幹巻きテープ ・ わら及びこも

(23. 4. 2、3)

種類 ※ コウライシバ ・ノシバ ・
芝張りの工法
平地 ※目地張り ・べた張り
法面 ・目地張り ※べた張り

(23. 4. 2)

	種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m) ²	備考
※洋芝類（採取後2年以内）		※発芽率80%以上		

(23. 4. 2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・			

(23. 3. 4、6) (23. 4. 7)

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の植補償の期間
※引渡しの日から1年 ・無し
移植樹木の植補償期を行う期間
※引渡しの日から1年 ・無し

(23. 5. 2～4)

植栽基礎及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示
排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成型品
植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示

(品質・性能・試験方法)
別表による

・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示

(品質・性能・試験方法)
別表による

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱 ・設置する（形式 ・図示 ・）
かん水装置 ・設置する（種類 ・）

令和2年9月（改）

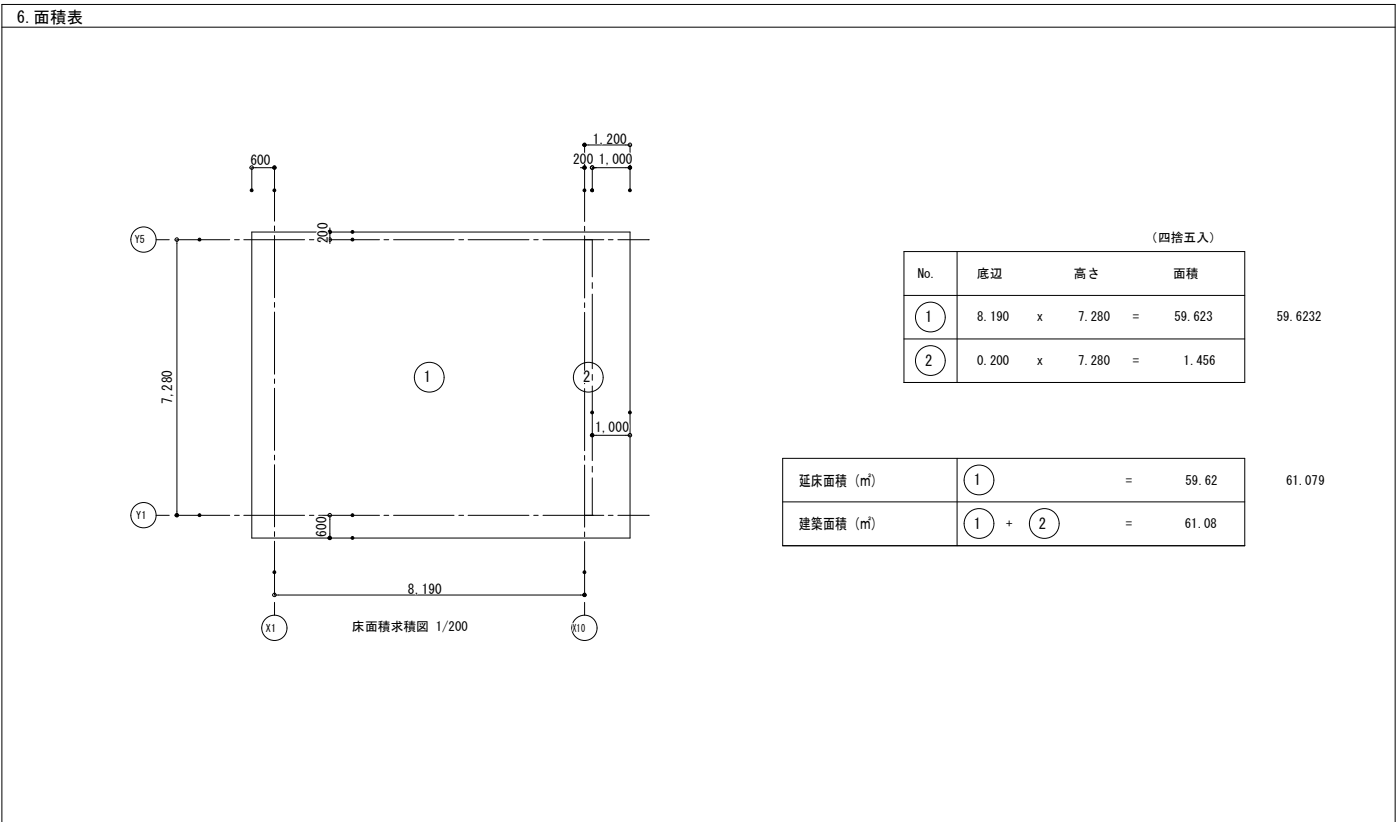
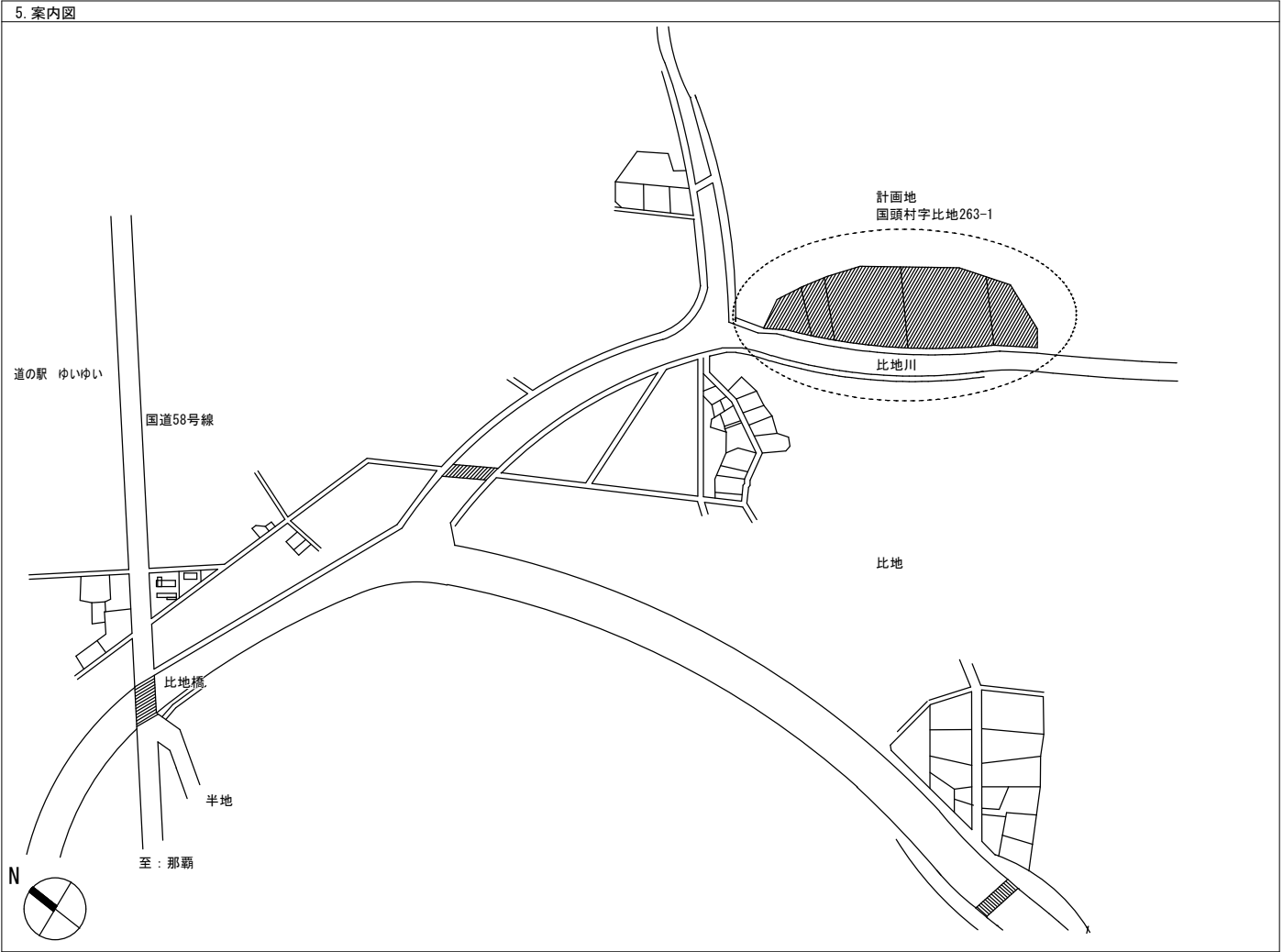
工事名称	令和年度（前期）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	建築工事特記様書（その7）
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	—
図面番号	A-01-7	設計者	(株) 鈴長設計
検 印	管理建築士 設 計 製 図	計 者	資格氏名 一級建築士 吉田康平
			登録番号 大臣登録 第376384号
			所在地 浦添市勢理客3-2-24 201

1. 工事名称				建築主	
工事名称		令和6年度（繰越）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事		環境省九州地方環境事務所沖縄奄美自然環境事務所長	
建設地		沖縄県国頭郡国頭村比地263-1		郵便番号 〒900-0022	
				住所 沖縄県那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎1階	
				電話番号 098-836-6400	
主要用途		事務所・倉庫	工事種別	新築工事	

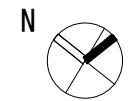
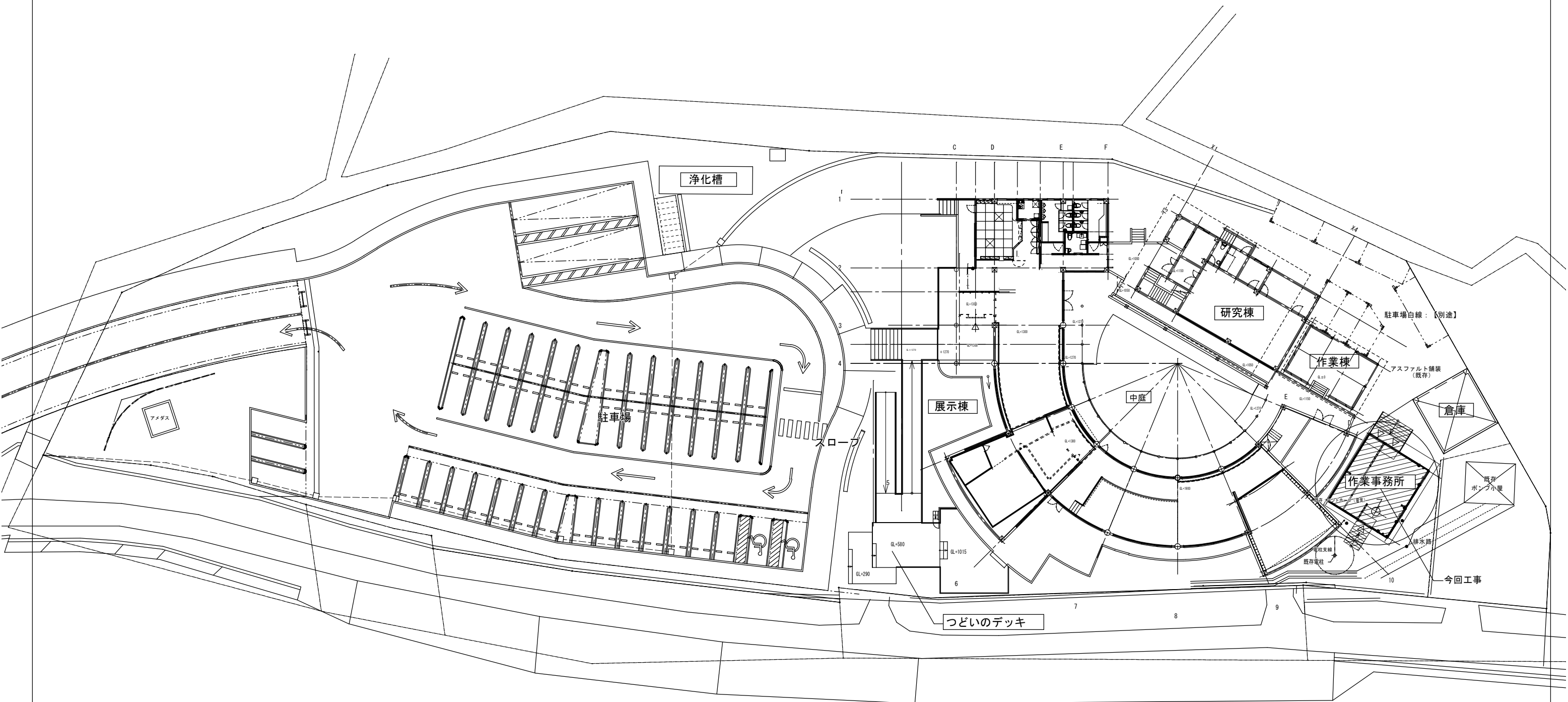
2. 敷地概要					
敷地面積	5732.93㎡			建ぺイ率	指定なし
用途地域	都市計画区域外			容積率	指定なし
防火地域	指定なし			壁面後退	
地域地区	指定なし			日影規制	
高度地区	指定なし			道路斜線	
入口前道路	現況幅員 10.0M			備考	

3. 建物用途・面積概要・構造規模						
◆展示棟						
主要用途	展示場		構造	RC造	階数	地上1階
延床面積	621.36㎡（改修後）	605.88㎡（現況）	構造形式	ラーメン構造	最高高さ	7.350mm
建築面積	775.160㎡（改修後）	775.160㎡（現況）	基礎	杭基礎	最高軒高	5.900mm
新築・増改築対象面積	563.381㎡（内部）	320.341㎡（外部）				
※外壁：再塗装、屋根：赤瓦撤去＋断熱＋板金屋根葺き替、内部増築・改修						
◆アマダキアブローチ						
主要用途	外部通路：建築物		構造	S造	階数	地上1階
延床面積	――㎡（改修後）		構造形式	－	最高高さ	3.850mm
建築面積	――㎡（改修後）		基礎	べた基礎	最高軒高	3.850mm
新築・増改築対象面積	――㎡（内部）	103.969㎡（外部）				
※屋根のない通路のため延床面積、建築面積共に0㎡						
◆作業棟						
主要用途	外部作業場		構造	RC造・一部木造	階数	地上1階
延床面積	43.740㎡（新築）		構造形式	－	最高高さ	4.155mm
建築面積	43.740㎡（新築）		基礎	べた基礎	最高軒高	3.745mm
新築・増改築対象面積	――㎡（内部）	43.740㎡（外部）				
増築対象面積は通芯＝柱芯で計上						
◆作業事務所（作業事務所・倉庫）						
主要用途	倉庫・事務所		構造	木造	階数	地上1階
延床面積	59.62㎡（新築）		構造形式	在来工法	最高高さ	4.937mm
建築面積	61.08㎡（新築）		基礎	布基礎	最高軒高	4.780mm
◆研究棟						
主要用途	事務所		構造	RC造	階数	地上2階
延床面積	264.200㎡（改修後）	264.200㎡（現況）	構造形式	ラーメン構造	最高高さ	9.630mm
建築面積	170.100㎡（改修後）	170.100㎡（現況）	基礎	杭基礎	最高軒高	7.800mm
新築・増改築対象面積	――㎡（内部）	――㎡（外部）				
※外壁：再塗装、屋根：赤瓦撤去＋断熱＋板金屋根葺き替え						

4. 工事範囲									
種 別	工 事 有	備 考	種 別	工 事 有	備 考	種 別	工 事 有	備 考	
整地造成	整地造成		付属備品	表札		電気	【電気設備工事】		
	整地	○		サイン			電力引込工事		
	擁壁			黒板・掲示板			幹線設備工事	○	
	排水			ポスト			受変電		
	道路			定礎板			自家発VU+FF65蓄電		
	橋梁			可動家具			動力		
撤去工事	護岸		補償	造作家具		給排水	電灯コンセント	○	
	盛土・切土			カーテン			照明器具	○	
	在来基礎撤去			ブラインド	○		電話機器		
	埋設物撤去			什器備品			電話配管	○	配管のみ
	工作物撤去			敷物・マット			インターホン		
							テレビ	○	
移設工事	建物移設		冷暖房	日照影響			火災報知器	○	
	工作物移設			電波障害			避雷針		
	樹木移設			騒音			煙感知連動		
	解体工事	○		風害			LAN配管	○	配管のみ
	樹木造園			近隣工作物					
	外構工事			隣家補償					
工作物	舗装	○	昇降機	【機械設備工事】		給排水	【機械設備工事】		
	路面駐車場			冷房	○		給水		
	門・塀			暖房	○		給湯		
	盛土			換気	○		衛生機器		
	フェンス			排煙			防災（消火栓等）	○	消火器のみ
	外灯						ガス		
工作物	テラス		昇降機	【機械設備工事】			受水槽		
	看板			エレベーター			高架水槽		
	避難器具						浄化槽		
	――						排水通気		
	――						厨房器具		
	――								



		工事名称	令和6年度（繰越）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事		工事年度	令和7年度		
		工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1		図面名称	建築概要・工事範囲・案内図・面積表		
		発注機関	沖縄奄美自然環境事務所		縮 尺	――		
		摘 要			図面番号	A-02		
検 印		管理建築士	設 計	製 図	設 名 称	(株)翁長設計		
						資格者氏名	一級建築士 吉田康平	
						登録番号	大臣登録 第376384号	
						所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201	



工事名称	令和6年度（補正）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事			工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1			図面名称	配置図
発注機関	沖縄電美自然環境事務所			縮尺	A1:1/200 A3:1/400
摘要				図面番号	A-03
設計者	管理建築士	設計	製図	名称	(株)鈴長設計
				資格者氏名	一級建築士 吉田康平
				登録番号	大臣登録 第376384号
				所在地	浦添市勢理客3-2-24 201

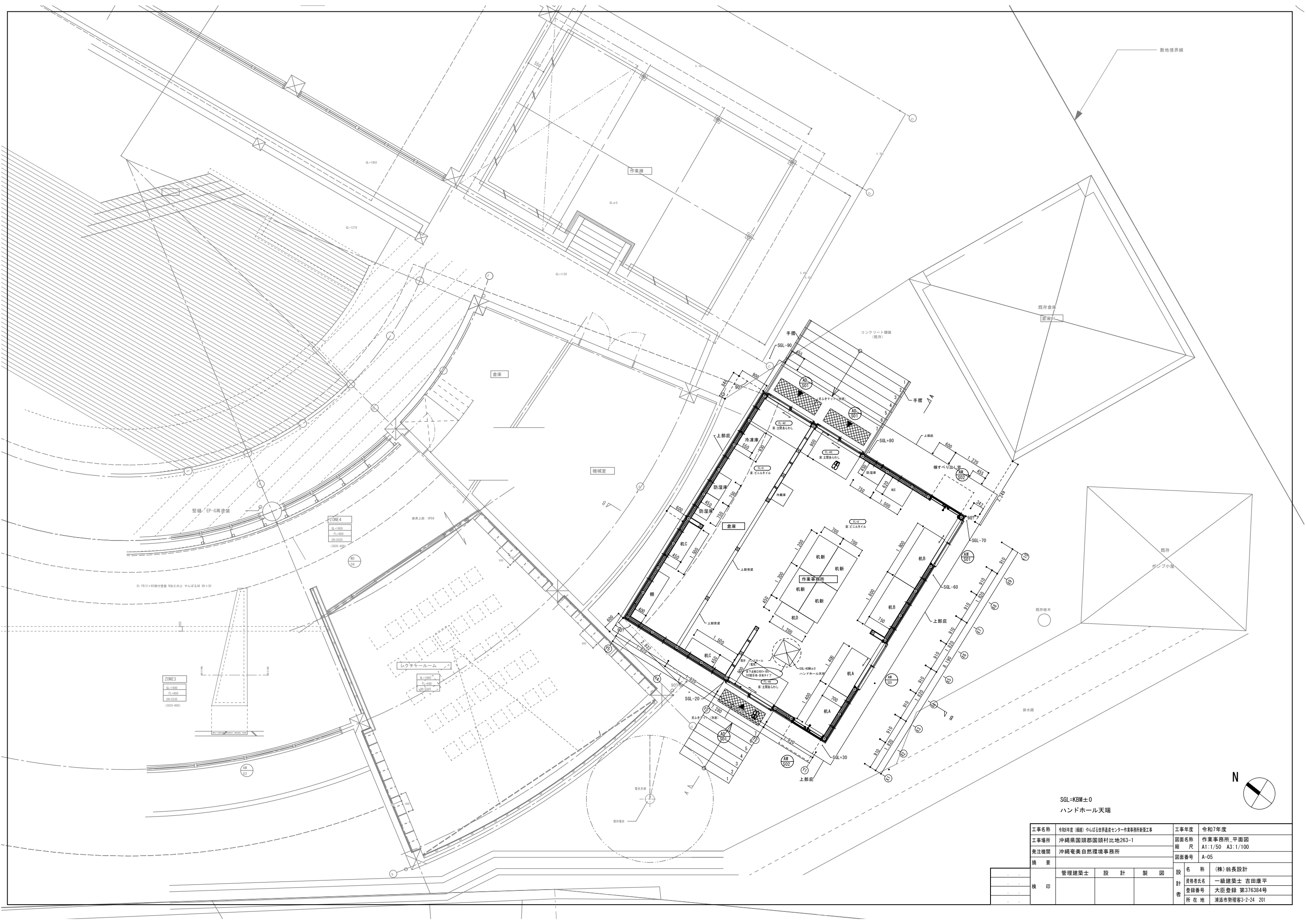
外部仕上げ表	仕 上 げ		下 地	防水	構造	断熱	備考・その他
	仕上		材料	防水			
外 壁	窯業系サイディング横張りt16の上 吹付塗装		通気胴縁18×45@455	透湿防水シート	柱・間柱の上構造用合板t9	高性能グラスウール16kg/ t90 m ³	無塗装品 ニチハ（株）モエンエクセラード16 ※同等品以上 フラットウォール程度の上吹付塗装 （既存建物と色合わせ）
屋 根	ガルバリウム鋼板t0.5 縦ハゼ葺き		構造用合板t12	改質アスファルトルーフィング 940g/m ² (22kg)	垂木45×90@350	高性能グラスウール16kg/ t90 m ³	
開口部・サッシ	【建具表参照】						（株）YKK AP EXIMA31シリーズ程度 S-5仕様
玄関前ポーチ・階段	土間コンクリート直均し						手摺：St-φ34×2.3 手摺子：FB-12×32 横棧：FB-12×32 中2段 上記全て溶融亜鉛メッキ どぶ付け
室外機置場	土間コンクリート直均し						室外機置場：場所は設備図参照
軒天井	吹付塗装		ケイ酸カルシウム板 t8+t8二重貼り				母屋 木部露出 オスモ ウッドステインプロテクター 木造工事標準仕様書JASS18塗装工事M-307 (WP塗り) 品質適合品 塗装 ※同等品以上
基礎立上り	コンクリート打放補修の上 水性保護塗装						セラミクリートプライマー： 水性浸透性吸水防止剤 セラミクリートSi： 水性アクリルシリコン樹脂

参考メーカーリスト	
部位・素材	メーカー名・連絡先
ビニル床シート	東リ（株）ワックスビニル床シート 単層 HTE2001～2016 ヒトエ ファイン程度

内部仕上げ表	床			巾 木		壁	不燃・準不燃	天 井	不燃・準不燃	CH 天井高	廻り縁	造り付け造作	その他・設備・金物
	仕上	仕上厚	基準床レベル からの 床レベル		H	仕上		仕上					
作業事務所	ビニル床シート	2mm	±0	ビニル巾木	75	PBt12.5の上 EP塗装	不燃	PBt9.5の上 EP塗装 野縁組 30×15 @455 スギ材 梁・束・母屋は現しの上クリア塗装	不燃 （木部以外）	図示	なし	ステンレス製棚柱 L＝1000×12ヶ所	棚柱：スガツネ工業（株） SP型程度 オスモ オスモカラー ノーマルクリアー（3分ツヤ）#3101 塗装
倉庫	ビニル床シート	2mm	±0	ビニル巾木	75	PBt12.5の上 EP塗装	不燃	PBt9.5の上 EP塗装 野縁組 30×15 @455 スギ材 梁・束・母屋は現しの上クリア塗装	不燃 （木部以外）	図示	なし	ステンレス製棚柱 L＝1000×12ヶ所	棚柱：スガツネ工業（株） SP型程度 オスモ オスモカラー ノーマルクリアー（3分ツヤ）#3101 塗装

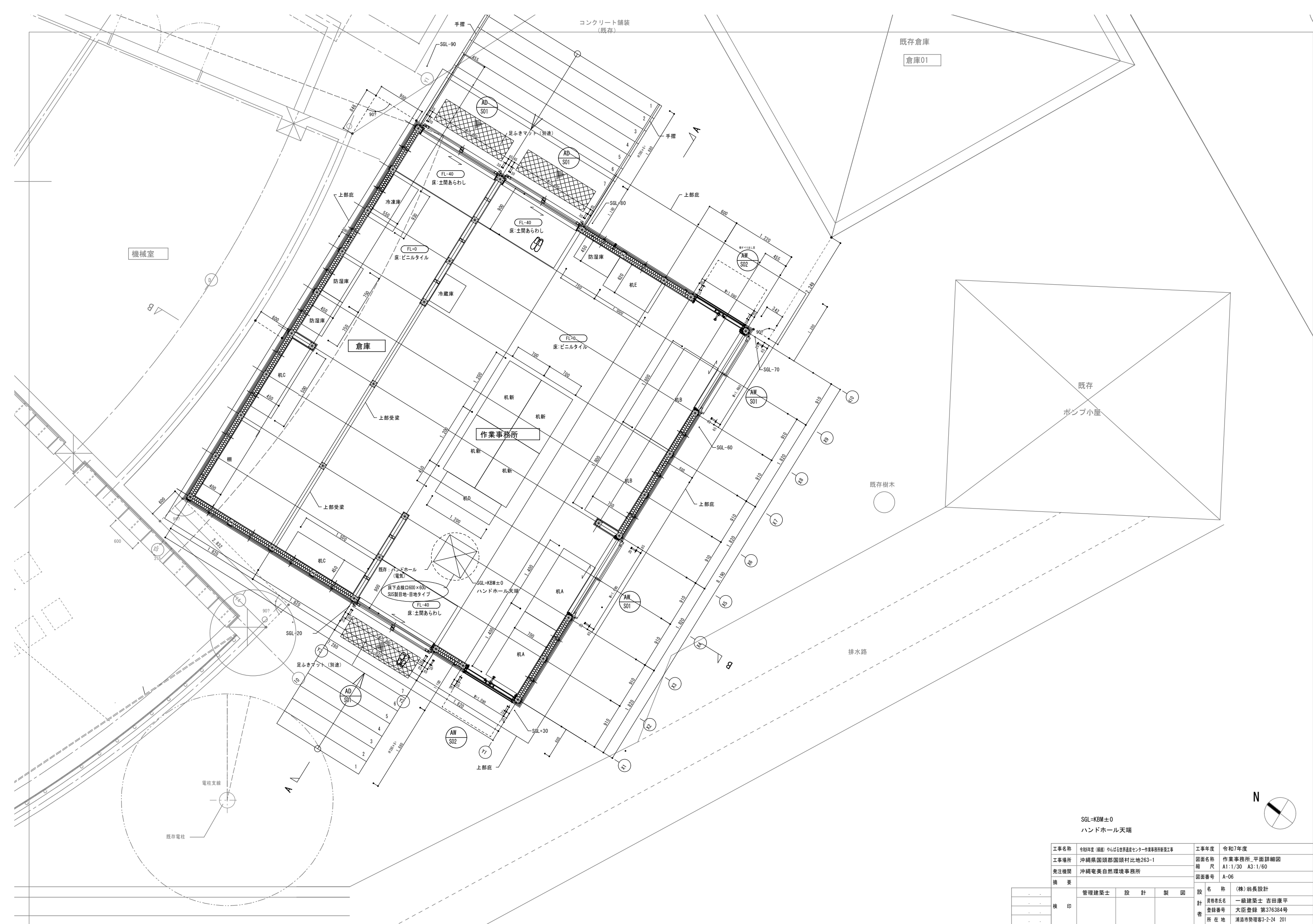
備考

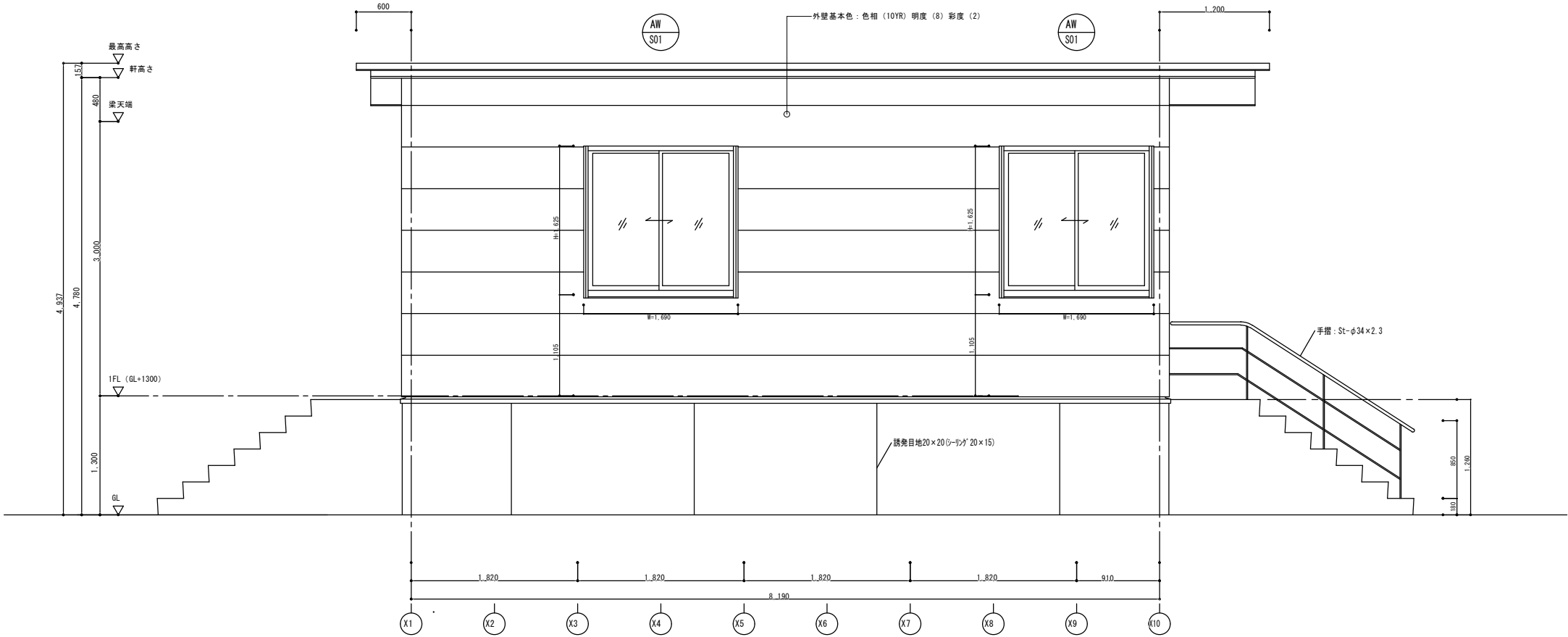
工事名称	やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	仕上表
発注機関	沖縄電美自然環境事務所	縮 尺	-
備 要		図面番号	A-04
検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称 資格者氏名 登録番号 所 在 地	(株)翁長設計 一級建築士 吉田康平 大臣登録 第376384号 浦添市勢理客3-2-24 201	



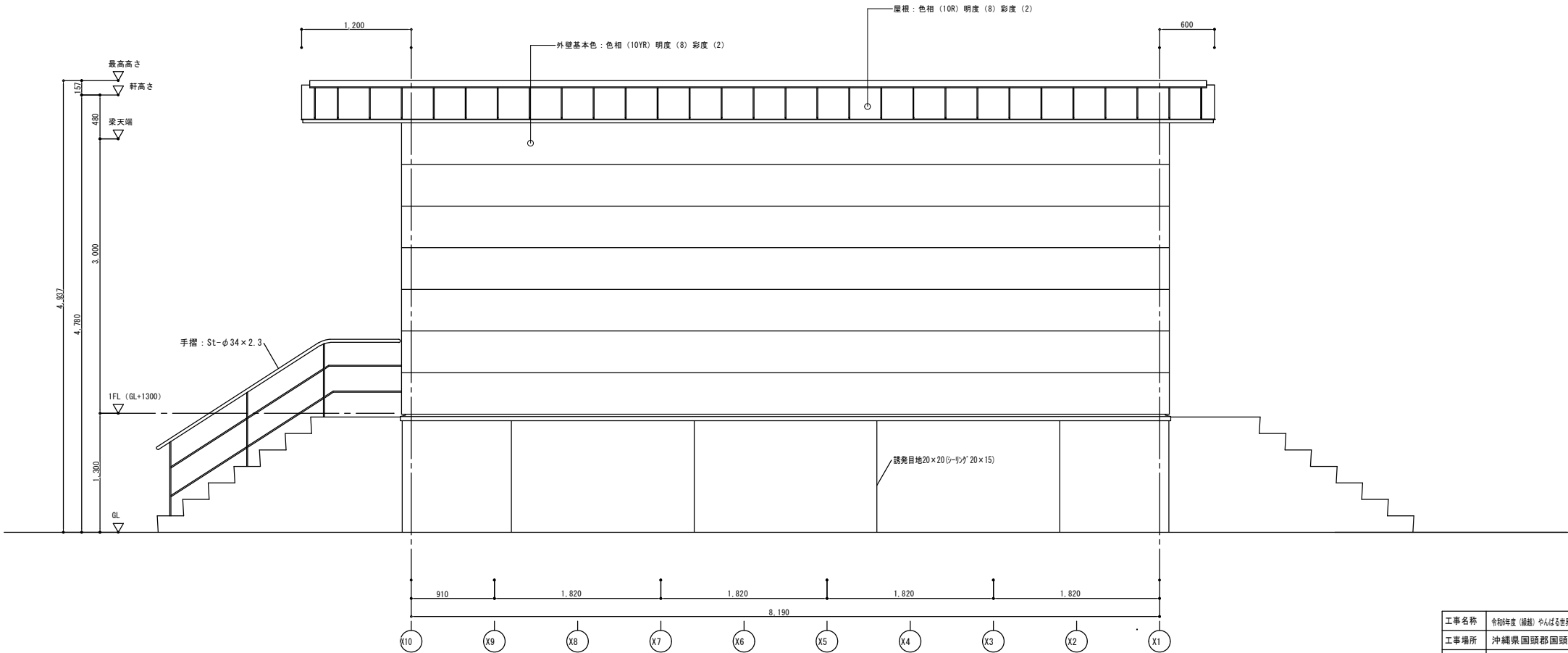
SGL=KBM±0
ハンドホール天端

工事名称	令和7年度（補修）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	作業事務所_平面図
発注機関	沖縄電美自然環境事務所	縮 尺	A1:1/50 A3:1/100
摘 要		図面番号	A-05
機 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	（株）翁長設計	名 称	一級建築士 吉田康平
登 録 番 号	大臣登録 第376384号	資格者氏名	
所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201	登録番号	



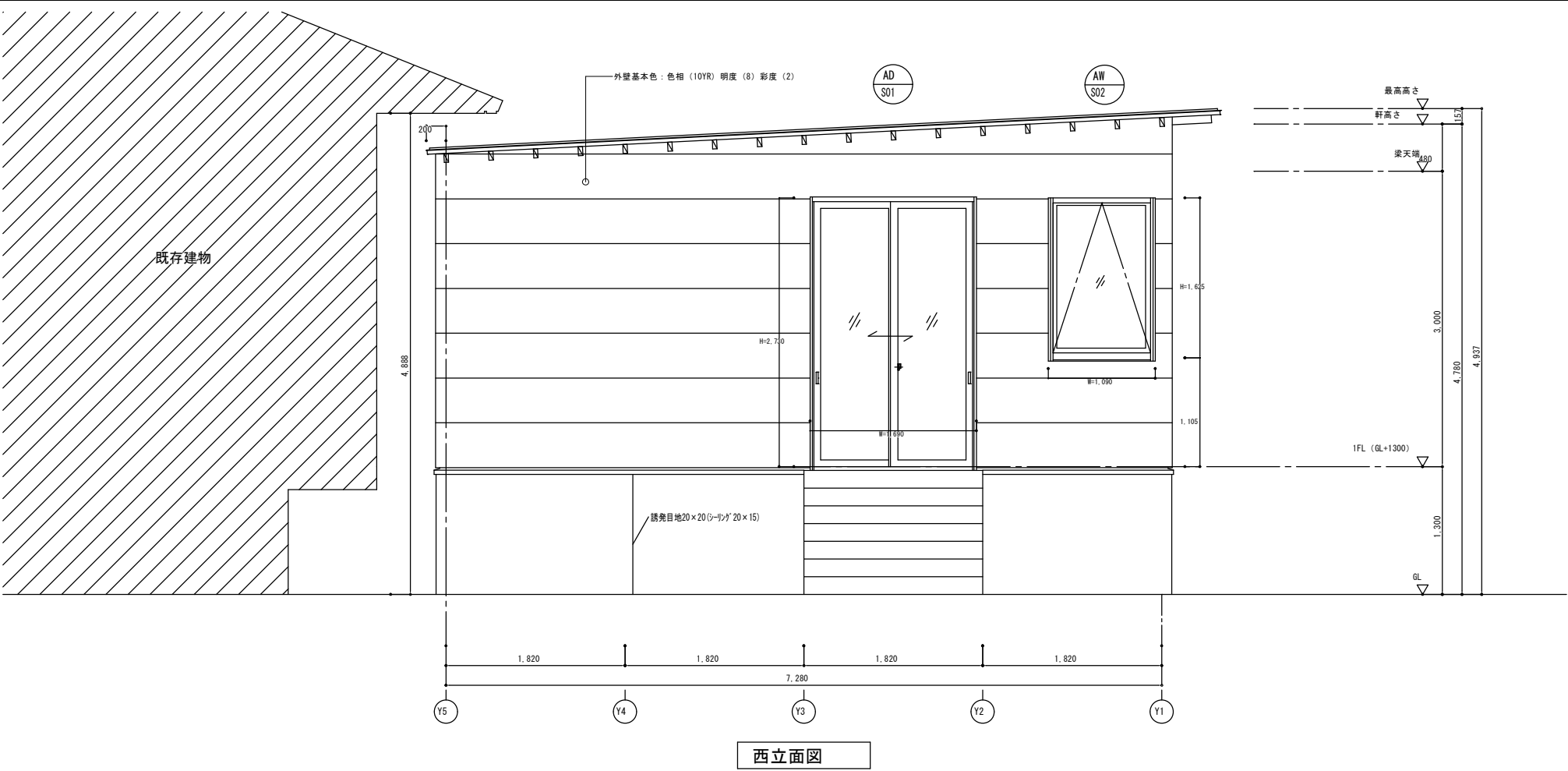


南立面図

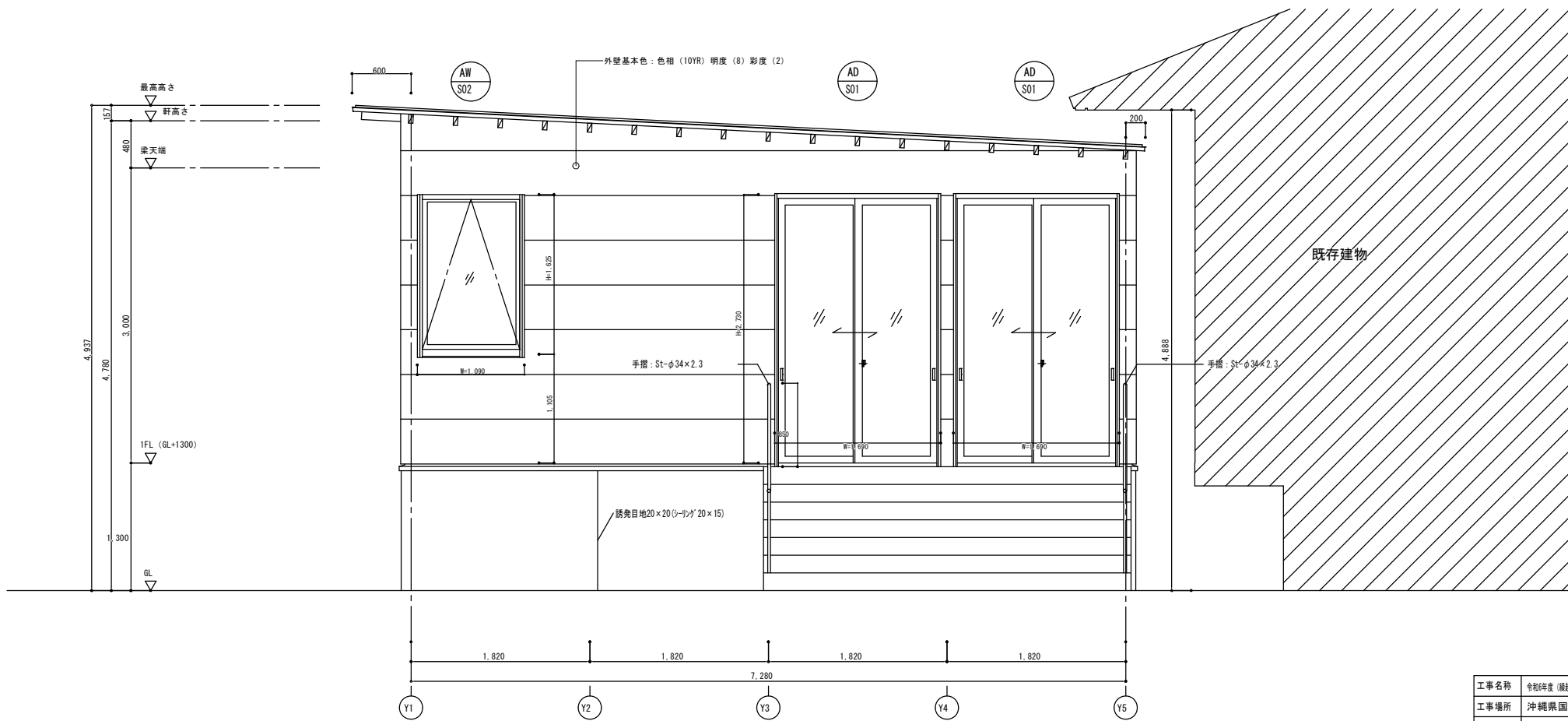


北立面図

工事名称	令和7年度 (継続) やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	作業事務所_立面図1
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮尺	A1:1/30 A3:1/60
摘要		図面番号	A-07
名称	(株)翁長設計	資格者氏名	一級建築士 吉田康平
設計		登録番号	大臣登録 第376384号
所在地	浦添市勢理客3-2-24 201		

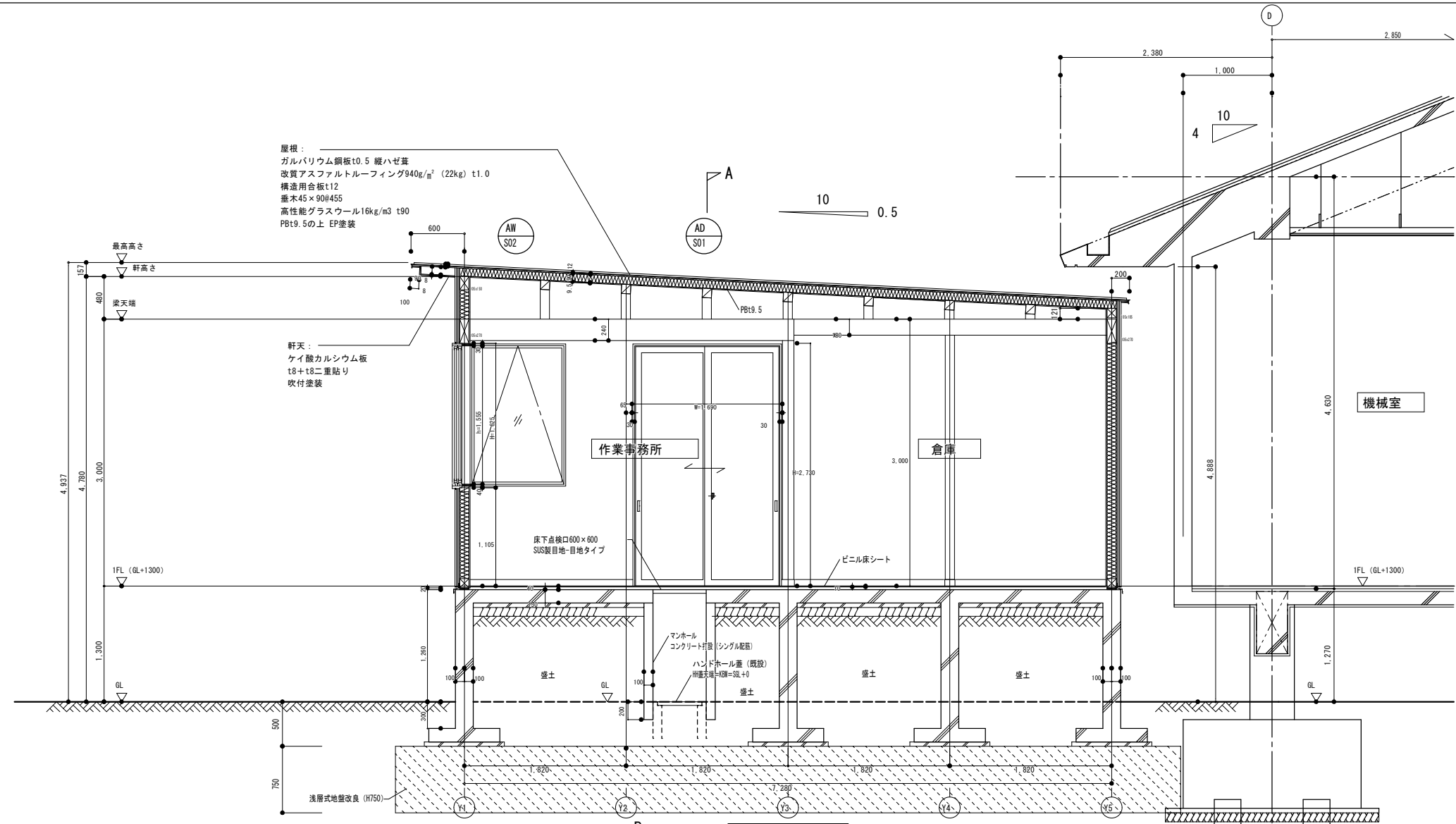


西立面図

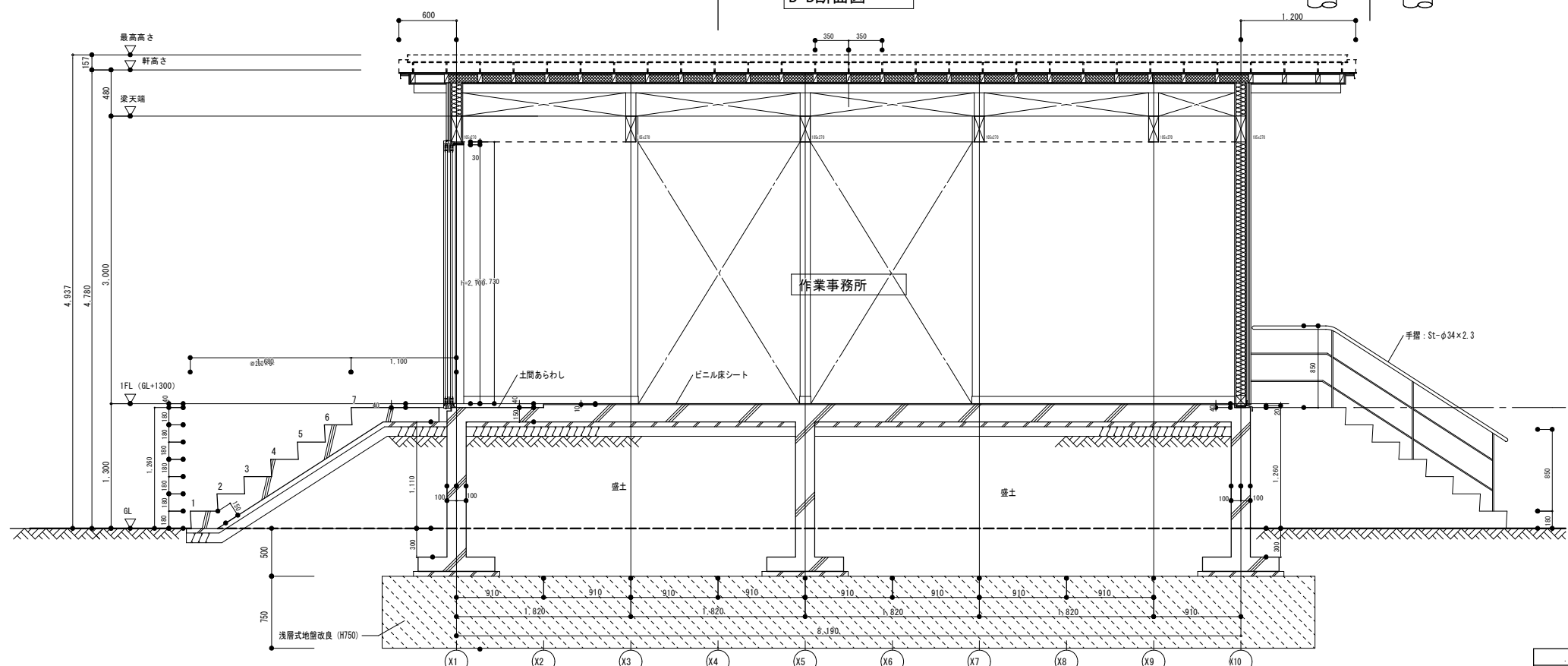


東立面図

工事名称	令和6年度（補遺）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	作業事務所_立面図2
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	施 尺	A1:1/30 A3:1/60
摘 要		図面番号	A-08
検 印	管理建築士	設 計	製 図
		設 計 者	名 称 (株) 総長設計
			資格者氏名 一級建築士 吉田 康平
			登録番号 大臣登録 第376384号
			所 在 地 浦添市勢理客3-2-24 201

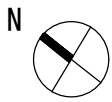
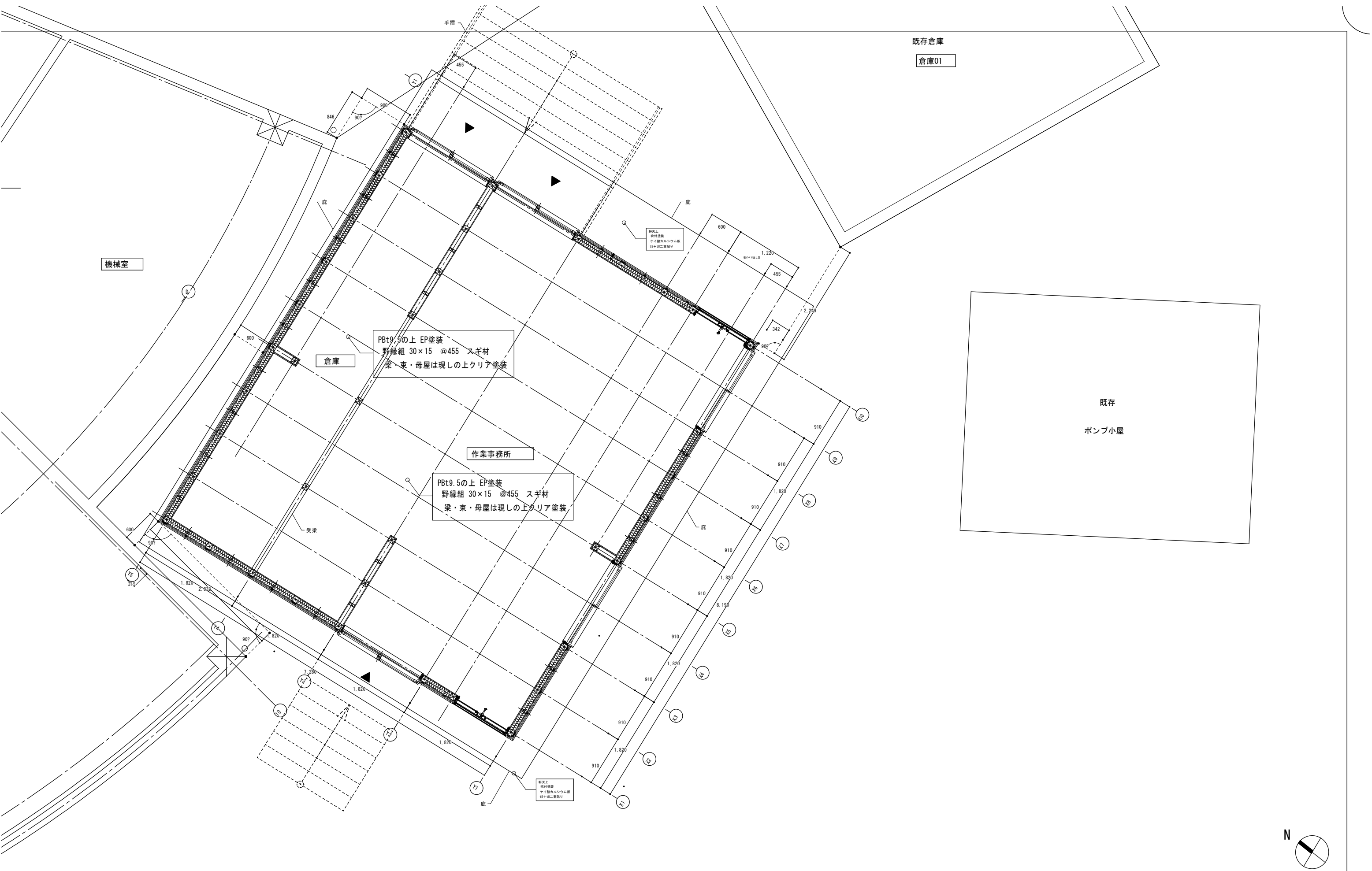


B-B断面図



A-A断面図

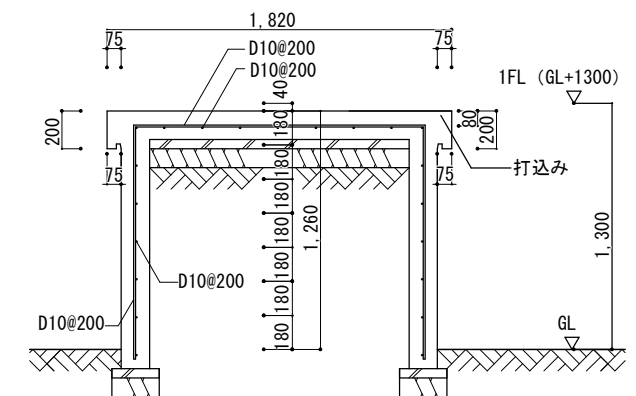
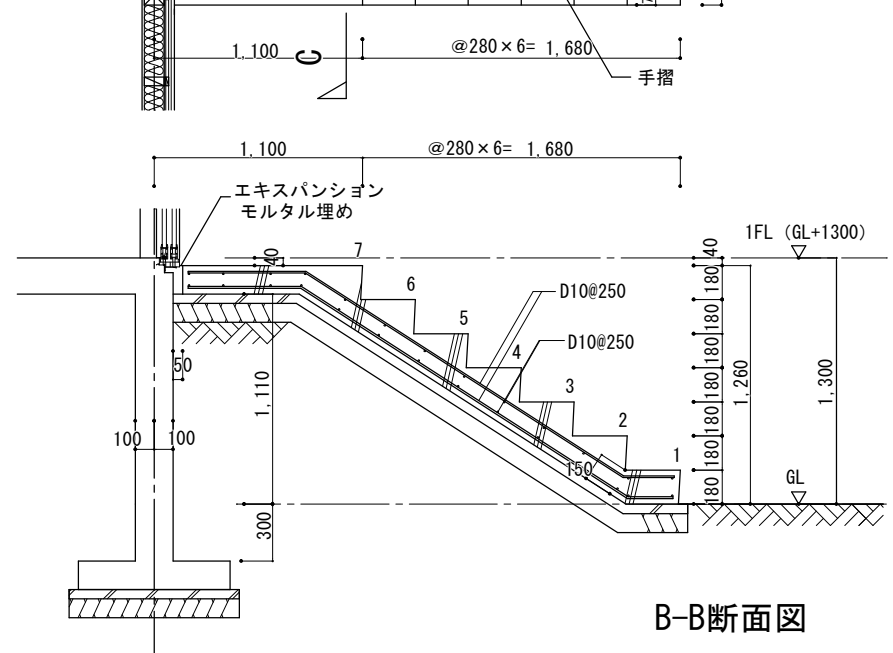
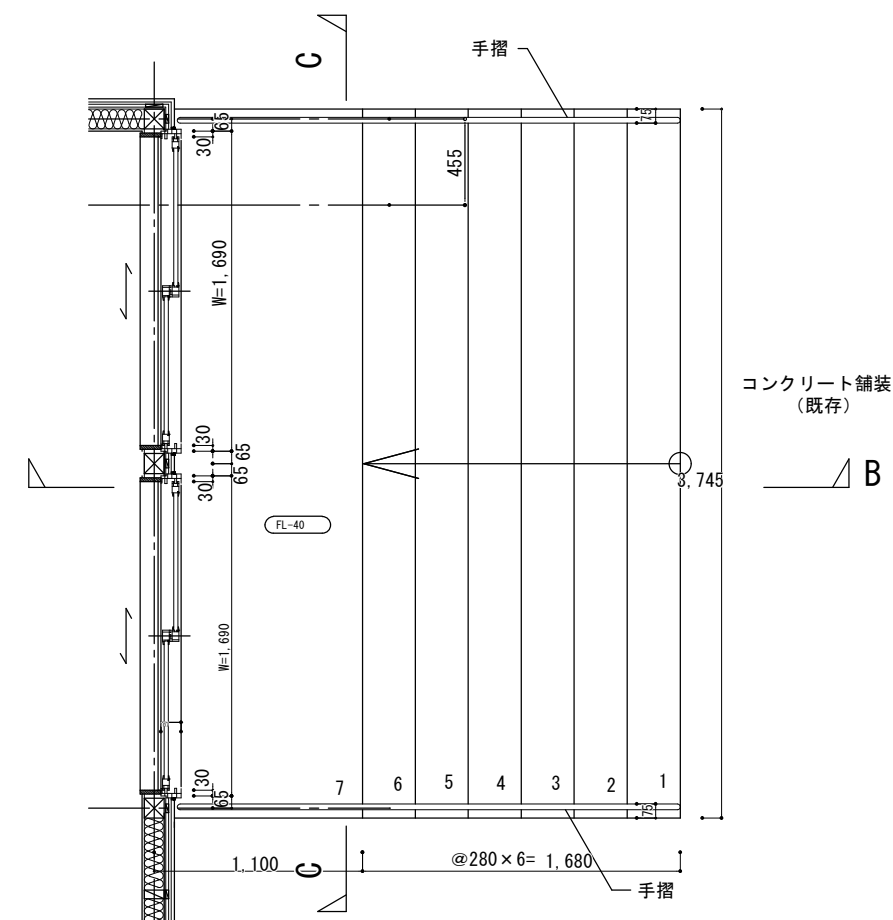
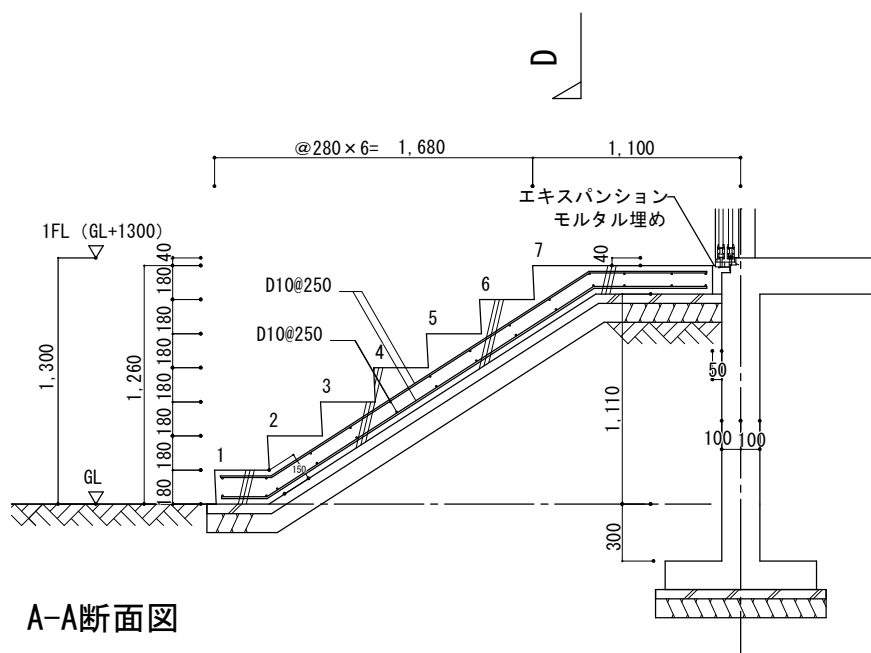
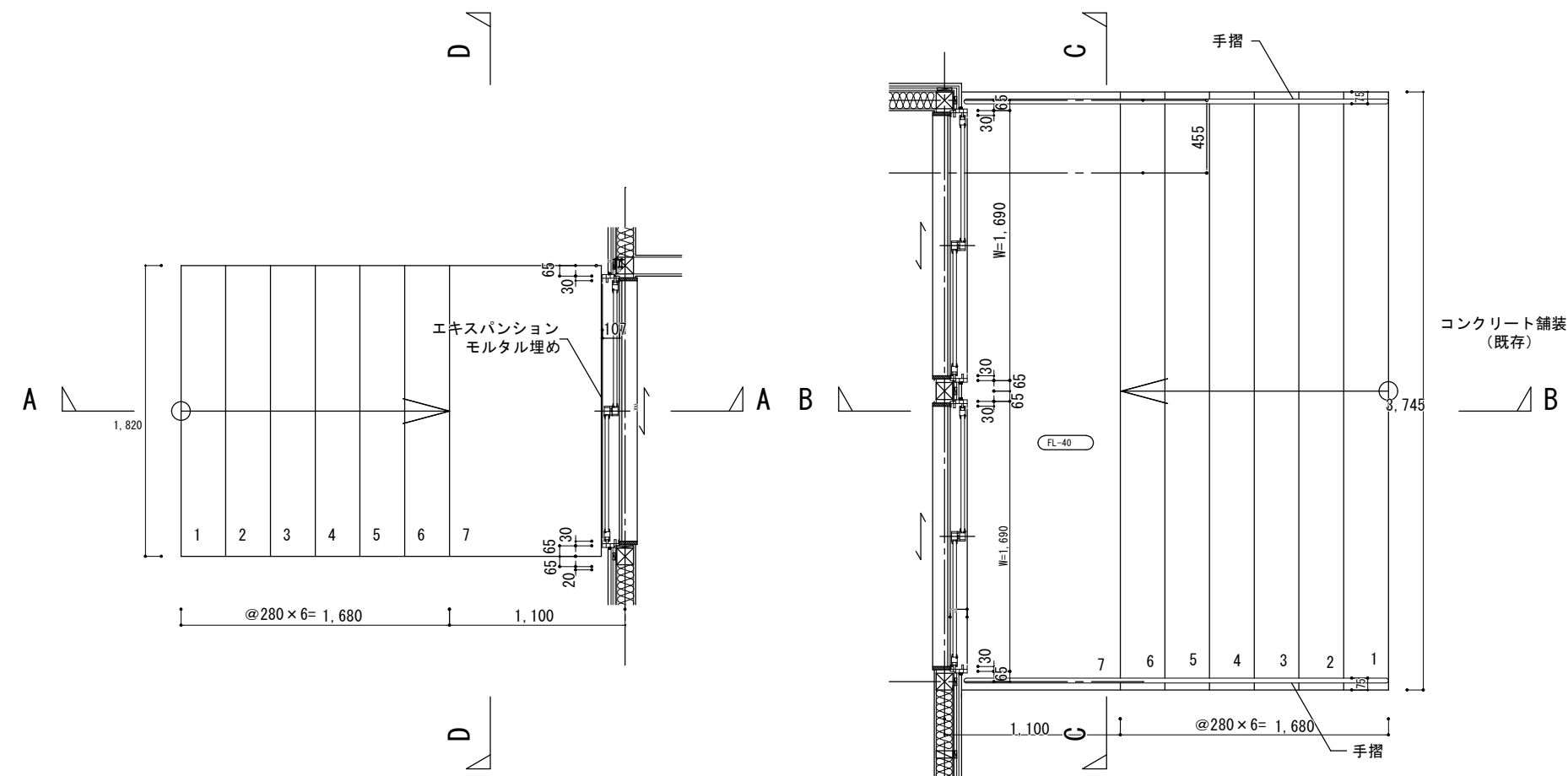
工事名称		令和7年度（国庫）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事		工事年度		令和7年度	
工事場所		沖縄県国頭郡国頭村比地263-1		図面名称		作業事務所断面図	
発注機関		沖縄奄美自然環境事務所		縮尺		A1:1/30 A3:1/60	
摘要				図面番号		A-09	
検印		管理建築士		設計		製図	
				設計者		(株)翁長設計	
				資格者氏名		一級建築士 吉田康平	
				登録番号		大臣登録 第376384号	
				所在地		浦添市勢理客3-2-24 201	



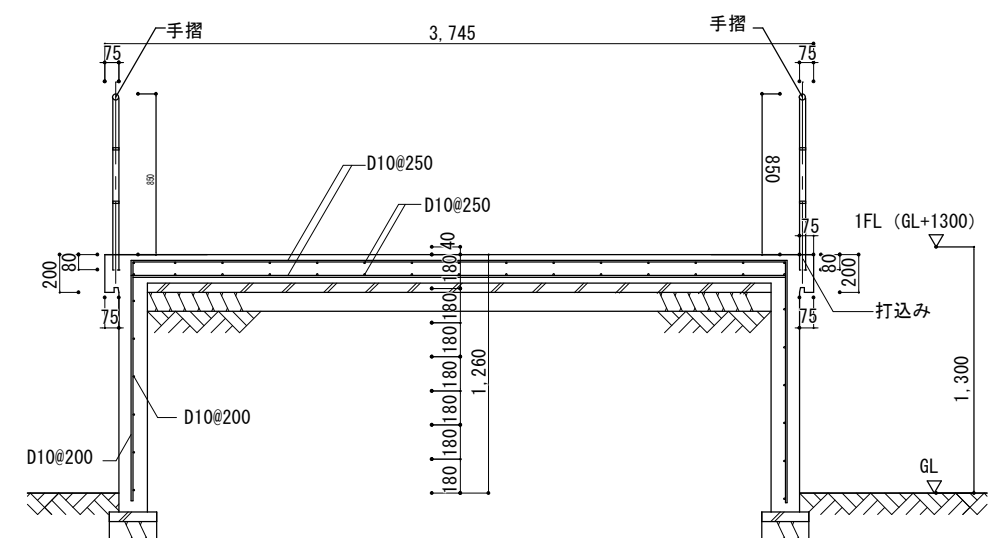
工事名称		令和6年度（補正）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事			工事年度		令和7年度	
工事場所		沖縄県国頭郡国頭村比地263-1			図面名称		作業事務所・天井伏図	
発注機関		沖縄奄美自然環境事務所			縮 尺		A1:1/30 A3:1/60	
摘 要					図面番号		A-10	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 計 者	名 称 (株)翁長設計			
					資格者氏名 一級建築士 吉田康平			
					登録番号 大臣登録 第376384号			
					所在地 鹿児島市熱海2-2-74 201			

記号/型式/数量	AD S01	アルミ引き違い戸	3箇所			
姿 図						
室 名	倉庫・作業事務所					
仕 上	アルミ：シルバー標準品					
見 込	室内額縁 ｽﾗｲﾄﾞ 100×30 CL塗装					
硝 子	フロート板ガラス 透明 6mm					
金 物	網戸付き					
	...					
	...					
	...					
備 考	YKK AP（株） EXIMA31シリーズ程度 S-5仕様					
記号/型式/数量	AW S01	アルミ引き違い窓	2箇所	AW S02	アルミ横滑り出し窓	2箇所
姿 図						
室 名	作業事務所			作業事務所		
仕 上	アルミ：シルバー標準品			アルミ：シルバー標準品		
見 込	室内額縁 ｽﾗｲﾄﾞ 100×30 CL塗装			室内額縁 ｽﾗｲﾄﾞ 100×30 CL塗装		
硝 子	フロート板ガラス 透明 5mm			フロート板ガラス 透明 5mm		
金 物	網戸付き			網戸付き		
	...			...		
	...			...		
	...			...		
備 考	YKK AP（株） EXIMA31シリーズ程度 S-5仕様			YKK AP（株） EXIMA31シリーズ程度 S-5仕様		

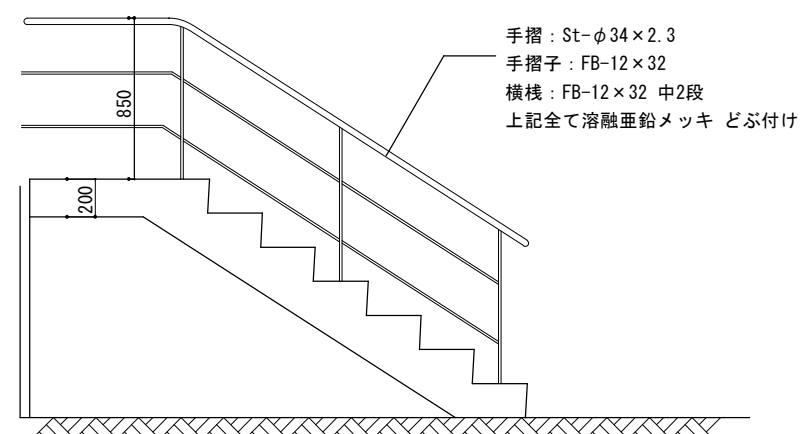
工事名称	令和6年度（前期）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事			工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1			図面名称	建具表
発注機関	沖縄電美自然環境事務所			縮 尺	A1:1/30 A3:1/60
摘 要				図面番号	A-11
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 名 称	(株)総長設計
				資格者氏名	一級建築士 吉田 康平
				登録番号	大臣登録 第376384号
				所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201



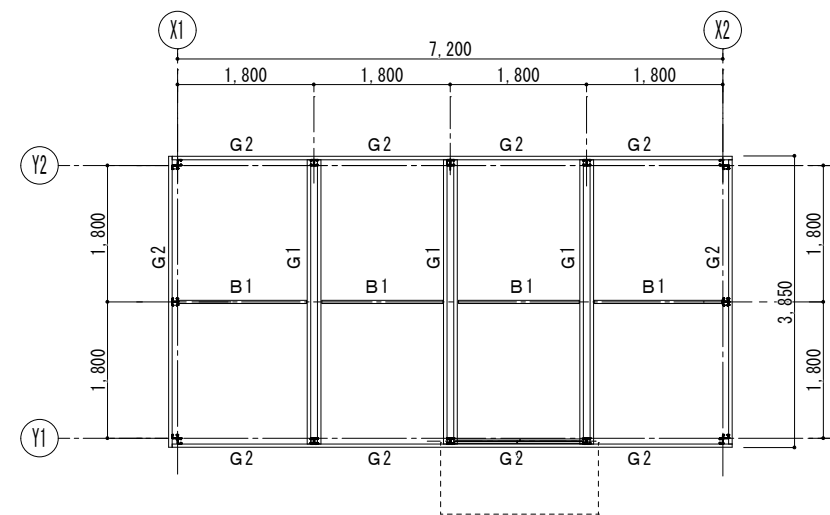
D-D断面图



C-C断面図

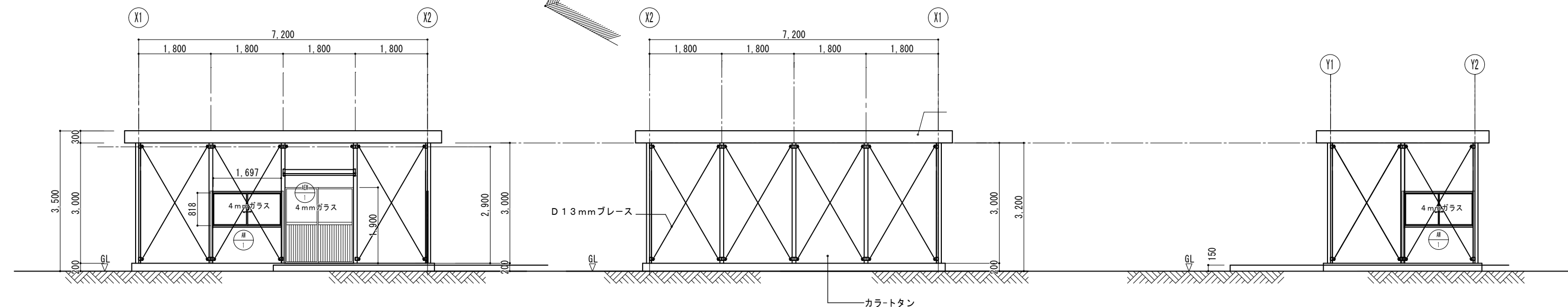


工事名称	令和年度（継続）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村地比263-1	図面名称	階段詳細図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	輪 尺	A1 : 1/20 A3 : 1/40
摘 要		図面番号	A-12
検 印	管理建築士	設 計	製 国
		設 計 者	名 称 (株) 翁長設計 資格者氏名 一級建築士 吉田康平 登録番号 大臣登録 第376384号 所在地 浦添市勢理客3-2-24 201



C1 ㄣ 20-2. 3x75x45x15
C2 ㄩ 20-2. 3x75x45x15
G1 ㄩ 20-2. 3x75x45x15
G2 ㄩ 0-2. 3x75x45x15
B1 ㄩ 20-2. 3x75x45x15
BP PL-4
D1 3mm ブレース

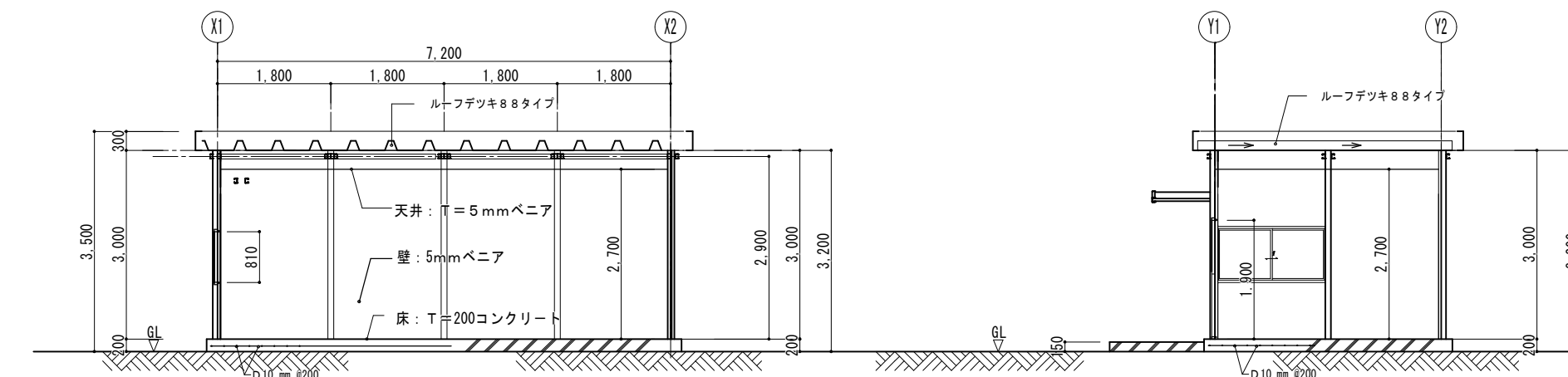
土間解体面積	50.96	m2
土間解体体積	$50.96 \times 0.2 = 10.19$	m3



E 立面图	A3:S=1/100
	A1:S=1/50

E 立面图	A3:S=1/100
	A1:S=1/50

E 立面图	A3:S=1/100
	A1:S=1/50



a-基本断面图	A3:S=1/100
	A1:S=1/50

b-基本断面图	A3:S=1/100
	A1:S=1/50

木躯体工事 標準仕様書－2

[illegible]

VIII. 基礎

VIII-1. 一般事項

1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。
2. 基礎の構造は、次のいずれかとする。
 - 1) 布基礎
 - 2) 腰壁と一体となった布基礎
 - 3) ベタ基礎
3. 構造体は、一体の鉄筋コンクリート造とする。
4. 基礎の深さは、設計地耐力の地盤まで掘り下げるとともに、建設地域の凍結深度より深くする。
5. 立上り部分の高さは、地盤面より300mm以上高くする。
6. 立上り部分の巾は、120mm以上でかつ土台幅より大きくする。
7. 基礎の寸法及び配筋は特記による。
8. 本標準図に明記なき場合は、公共建築協会仕様書及び日本建築学会「JASS（2009）」および「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。

VIII-2. 鉄筋コンクリート

1. 本標準図に明記なき場合は、公共建築協会仕様書及び日本建築学会「JASS（2009）」および「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
2. コンクリートは令第72条の規定又は、JISA5308「レディミクストコンクリート」の規定に適合していること。
3. コンクリート養生は令第75条の規定に適合していること。
4. 型枠の脱型は令第76条の規定に適合していること。
5. 鉄筋の継手及び定着の長さ。

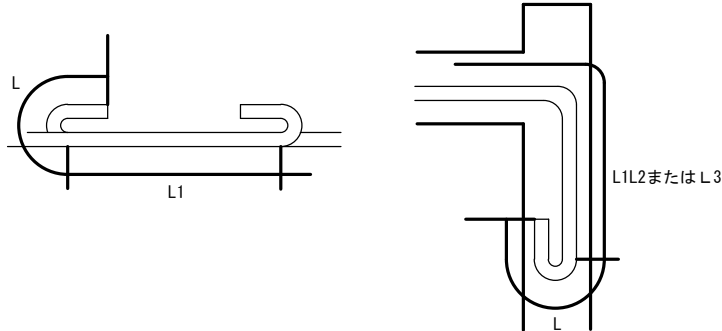
鉄筋の 種 別	設計基準 強度 F0(N/mm2)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3		L1	L2	L3	
				小はり	床板			小はり	床板
SR235	21以上	—	—	—	—	35d	35d	25d	150mm
SR235	27未満	—	—	—	—	35d	35d	25d	150mm
SD295	21以上 27未満	40d	40d	25d	10d かつ 150mm 以上	40d	40d	15d	—
SD345									
SDR295									
SDR345									
SD390	21以上 27未満	40d	40d	25d	10d かつ 150mm 以上	40d	40d	15d	—

(注) 1. L1: 継手並びに下記2.、及び3.、以外の定着長さ。

2. L2: 異形鉄筋で、割裂破壊の恐れのない箇所の定着長さ。

3. L3: 小ばり及びスラブの下端筋の定着の長さ。但し、基礎耐圧版、
これを受ける小梁などを除く。

4. フックのある場合の、L1、L2及びL3は下図の示すようにフックの
部分Lを含まない。



VIII-3. 鉄筋材料及び加工

1. 鉄筋は J I S G 3 1 1 2 又は J I S G 3 1 1 7 の J I S マーク表示品とし、その種類及び径は特記による。
2. 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
3. 鉄筋の継手は、D 1 6 以下では重ね継手、D 1 9 以上はガス圧接継手とする。
4. 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。
5. 鉄筋の最小かぶり厚さは、基礎の立上り部分においては 5 0 m m 以上、底盤においては 7 0 m m 以上とする。

VIII-4. アンカーボルト

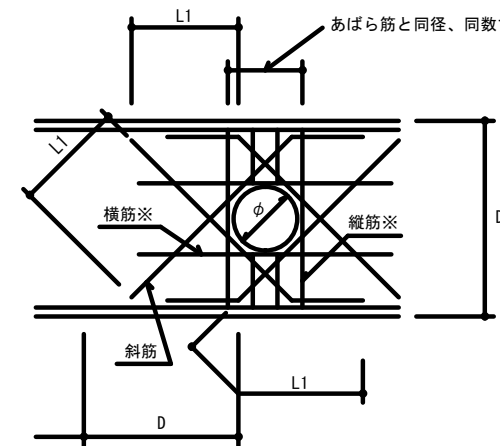
1. アンカーボルト及び座金は、Zマーク表示金物のM12アンカーボルト、座金とする。
2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。
 - 1) 構造耐力壁の部分は、その両端の柱心から150mm内外の位置に埋設する。
 - 2) 土台の切れ箇所、土台の継手及び仕口箇所の土台端部
 - 3) 上記以外の部分においては、間隔1.8m以内の位置に埋設する。
3. アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは240mm以上とし、ボルトネジ部の先端は、土台の上端においてナットの外にネジ山が3山以上出るようにする。
4. アンカーボルトの保持及び埋込み工法は、特記が無ければアンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠に固定しコンクリートの打込みを行うものとする。

VIII-5. ホールダウン専用

1. ホールダウン専用アンカーボルト及び座金は、Zマーク表示金物のM16アンカーボルト、座金とする。
2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設位置は設計図書の特記による。
3. ホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは360mm以上とする。
4. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は、取り付く柱の位置に専用工具を用い正確に埋め込むこと。

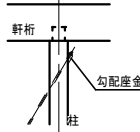
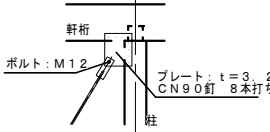
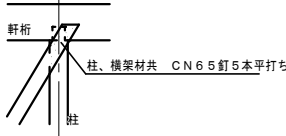
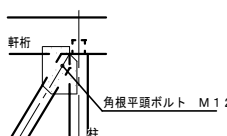
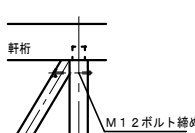
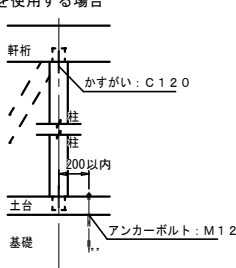
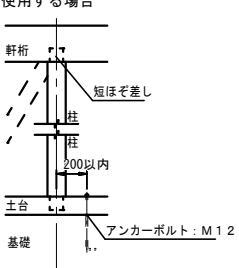
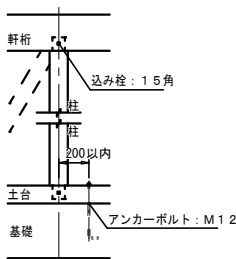
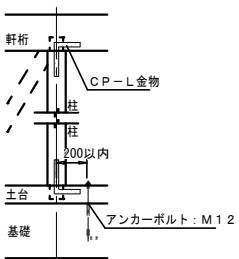
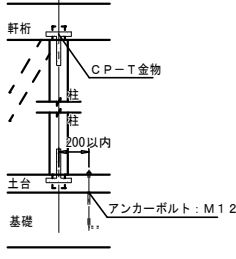
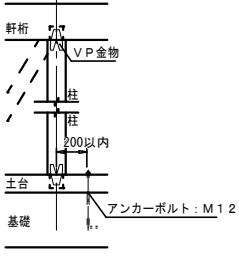
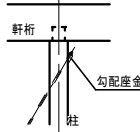
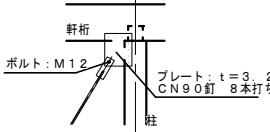
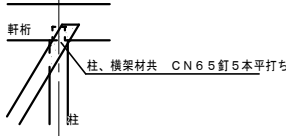
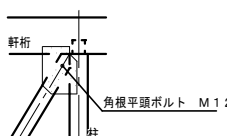
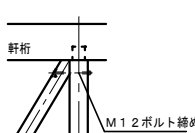
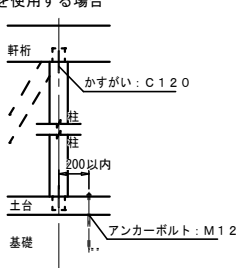
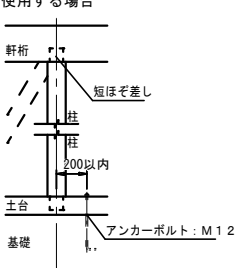
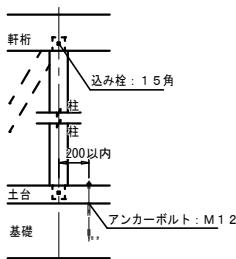
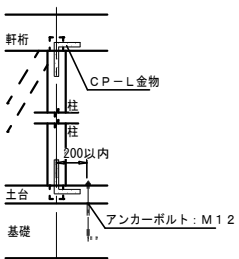
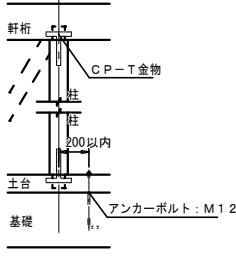
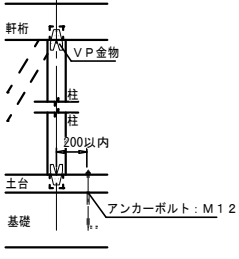
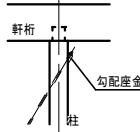
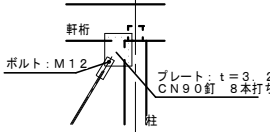
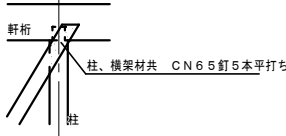
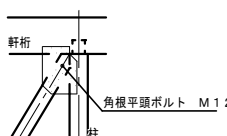
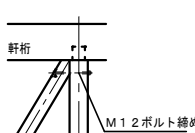
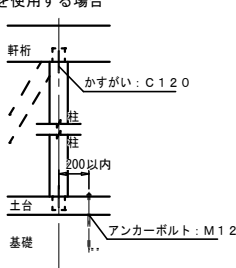
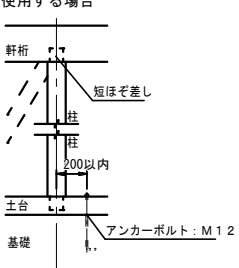
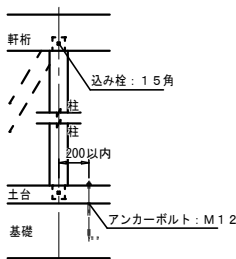
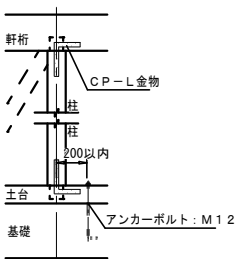
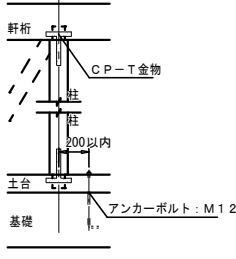
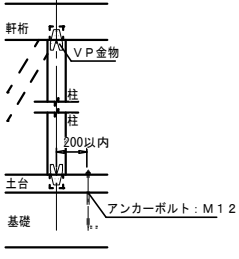
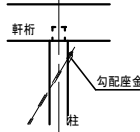
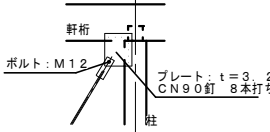
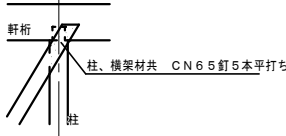
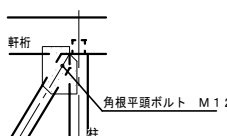
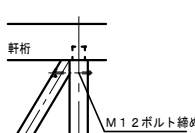
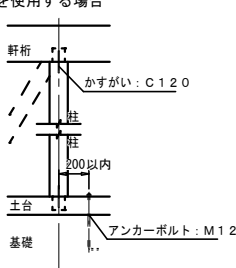
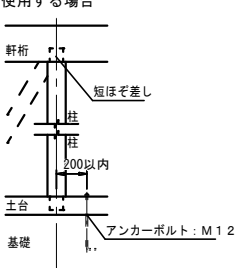
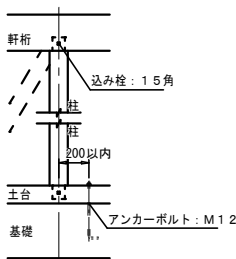
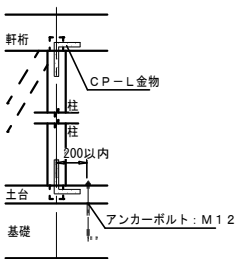
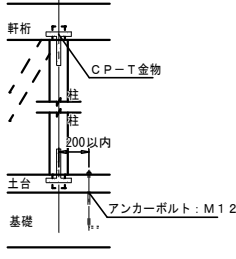
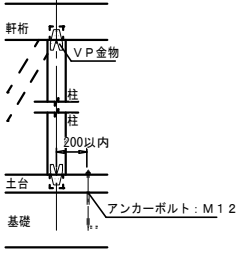
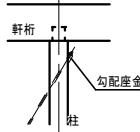
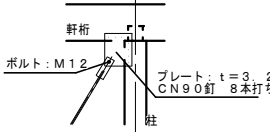
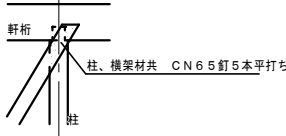
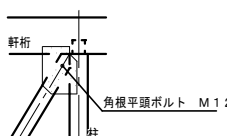
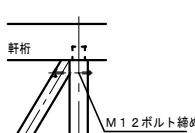
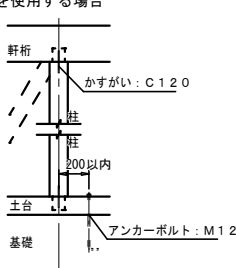
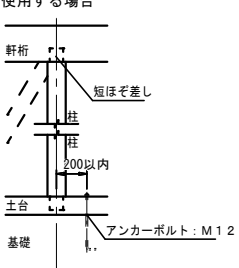
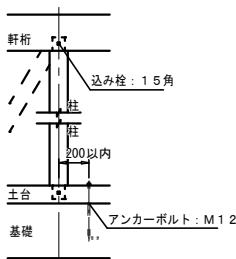
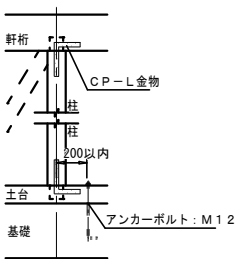
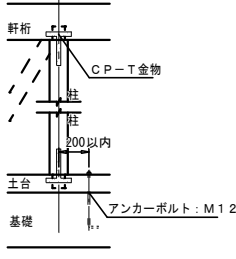
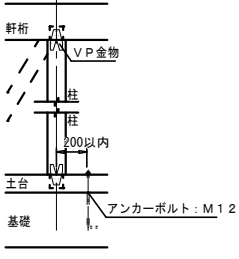
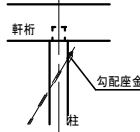
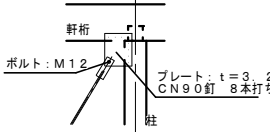
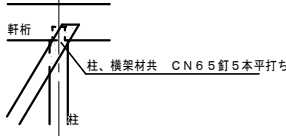
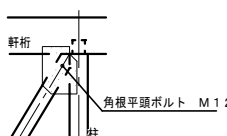
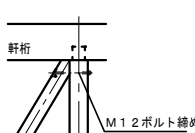
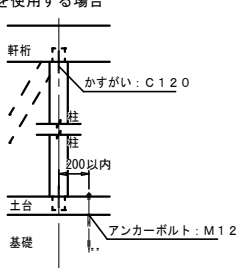
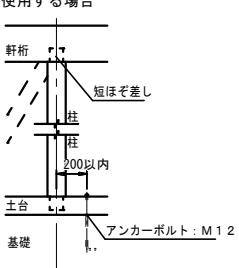
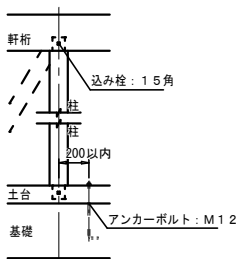
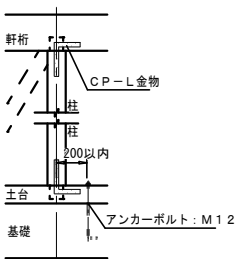
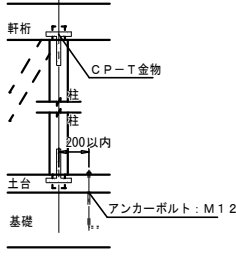
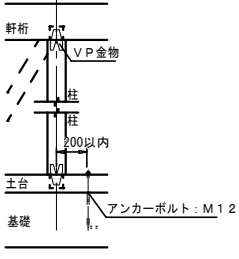
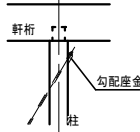
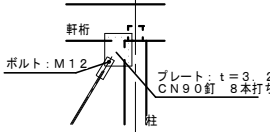
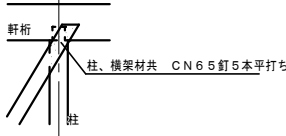
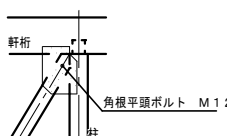
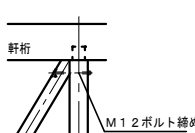
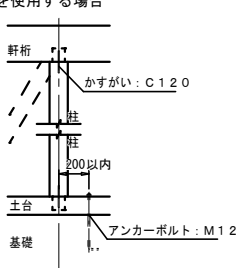
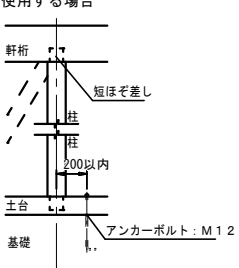
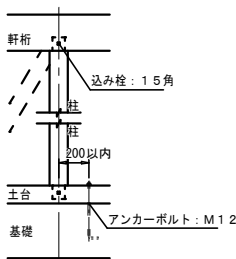
VIII-6. 基礎梁の
貫通補強

1. 補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。
2. 認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



- 1) 梁貫通孔は梁成の1/3以下とする。
- 2) 孔が複数の場合は中心間隔を径(ϕ)の3倍以上とする。
また位置は原則として柱面から梁成D以上はなし、
梁成の中央D/2の範囲内とする。
- 3) ϕ が100かつD/10以下のとき、補強を必要としないが、
あばら筋を切断してはならない。
- 4) 縦筋はあばら筋加工とする。

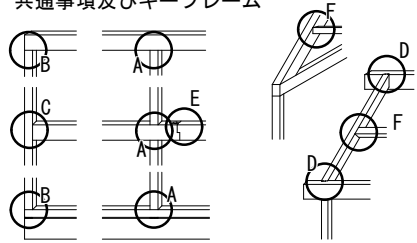
		工事名称	令和6年度（平成）環境省世界遺産センター作業部会所管指定工事		工事年度	令和7年度	
		工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1		図面名称	標準仕様書（4）	
		発注機関	沖縄電美自然環境事務所		縮 尺		
		摘 要			図面番号	S-04	
2025	10	検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 名 称	(株)鈴長設計
-	-					計 資格者氏名	一級建築士 吉田康平
-	-					登録番号	大臣登録 第376384号
-	-					所 在 地	浦添市勢理客2-24 201

木躯体工事 標準仕様書－4											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											
			①CP－T金物を使用する場合		②山形プレート (VP) 金物を使用する場合						
											
国土交通省告示 第1460号	壁筋かい端部仕口例	・1号－イ 9mm以上の鉄筋	①勾配座金を使用する場合		②仕口プレートを使用する場合		国土交通省告示 第1460号	柱と横架材との仕口	・表三－ニ		
											
			①釘を平打ちする場合								
											
	・1号－ロ 1.5×9.0cm 以上の木材		①BPプレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
			①BP－2プレートを使用する場合		②BOX金物を使用する場合						
											
	・1号－ハ 3.0×9.0cm 以上の木材		①M12ボルトを使用する場合								
											
			①かすがいを使用する場合		②かすがいを使用する場合						
											
	柱と横架材との仕口	・表三－イ	①短ほぞ差し込み栓打ちの場合		②CP－L金物を使用する場合						
											

木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図

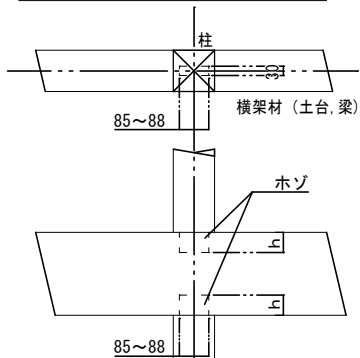
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキーフレーム

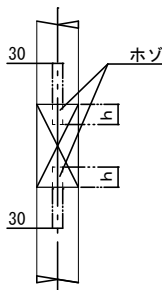


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

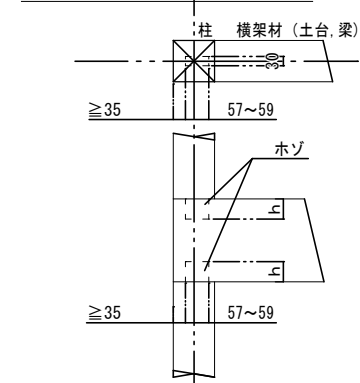
A 柱-横架材仕口：一般部（土台共通）



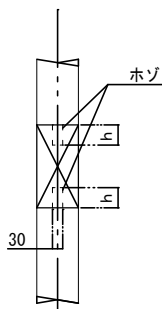
h：ホゾ長さ □ 短ホゾ 45～60 mm
□ 長ホゾ 90 mm
□ 上記以外（ ） mm



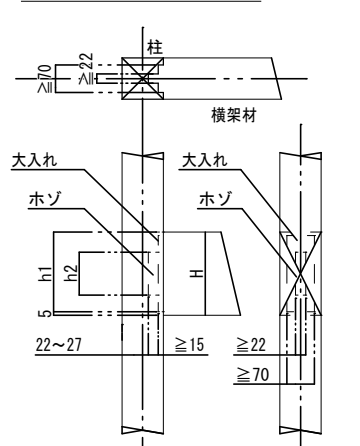
B 柱-横架材仕口：出隅部（土台共通）



h：ホゾ長さ □ 短ホゾ 45～60 mm
□ 長ホゾ 90 mm
□ 上記以外（ ） mm

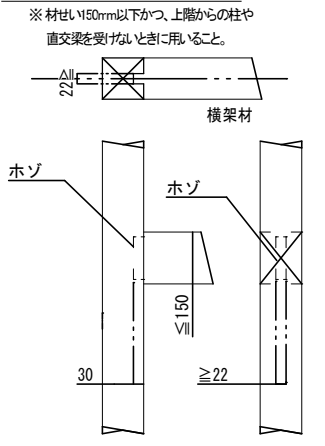


C 通柱-横架材仕口：胴差し

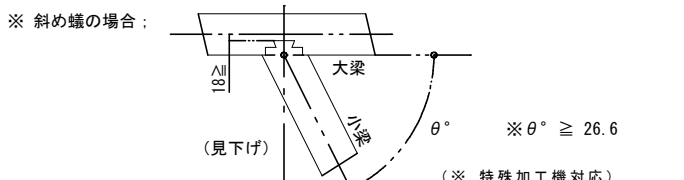
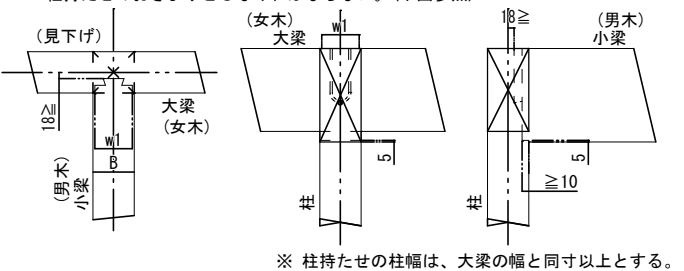
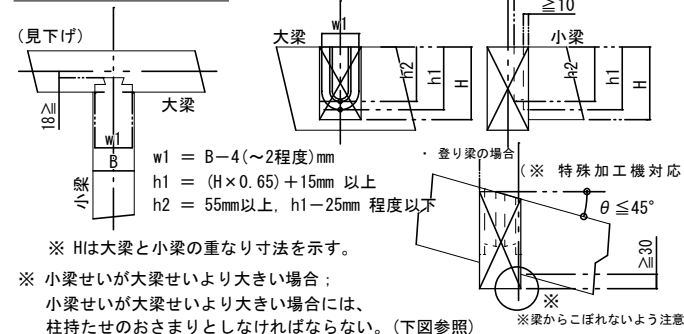


h1 = H-5 mm 程度
※ 胴差しで通し柱に取り付く方向は、2方向までとする。

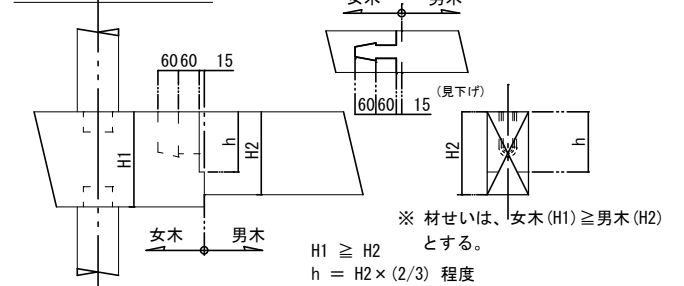
C 通柱-横架材仕口：桁差し



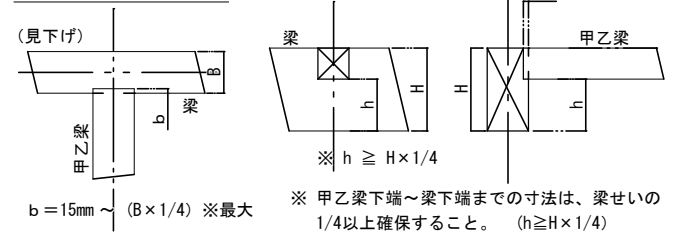
D 大梁-小梁仕口：蟻仕口



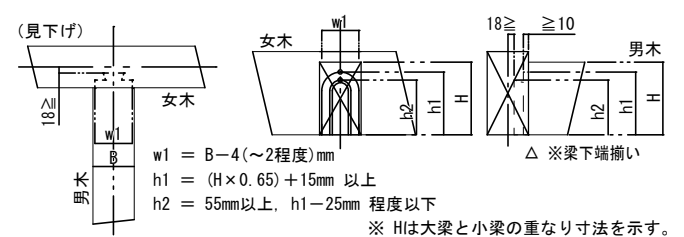
E 梁-梁継手：腰掛継ぎ



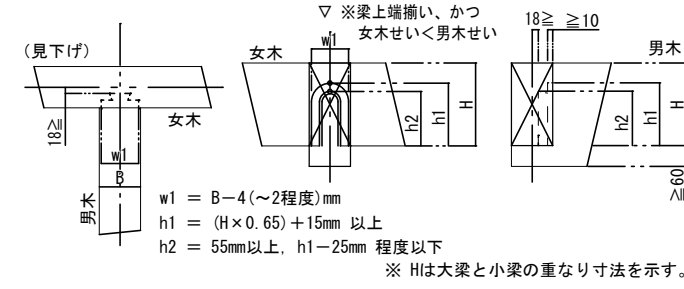
F 梁-甲乙梁仕口：大入れ



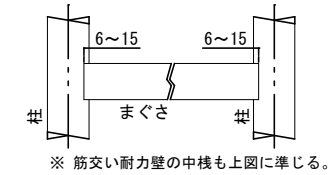
G 梁-梁仕口：逆蟻仕口



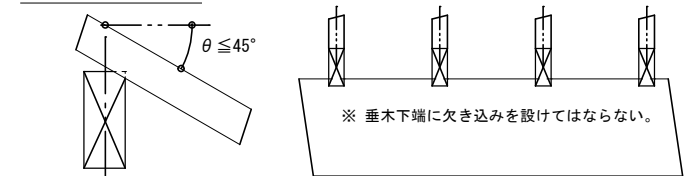
H 梁-梁仕口：茶臼仕口



I その他：まぐさ欠き



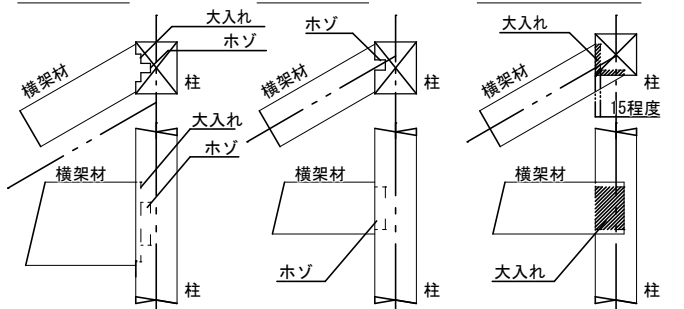
K その他：垂木欠き



(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

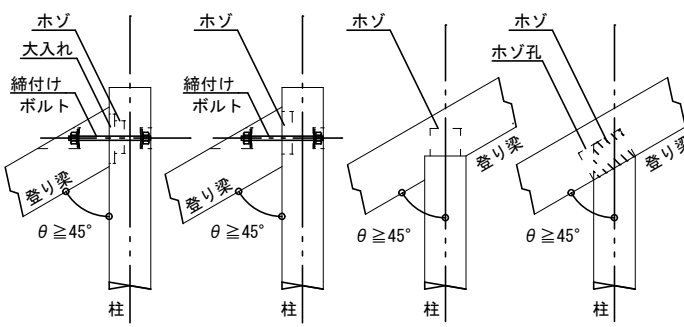
特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

L 斜め胴差し

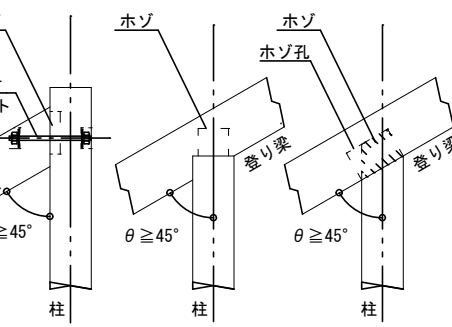


※ L、Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L、Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

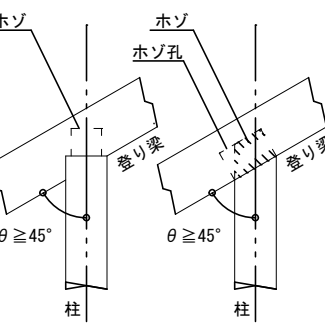
O 登り胴差し



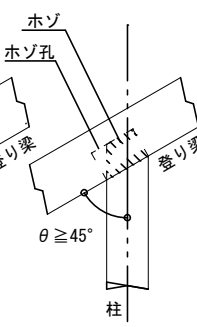
P 登り桁差し



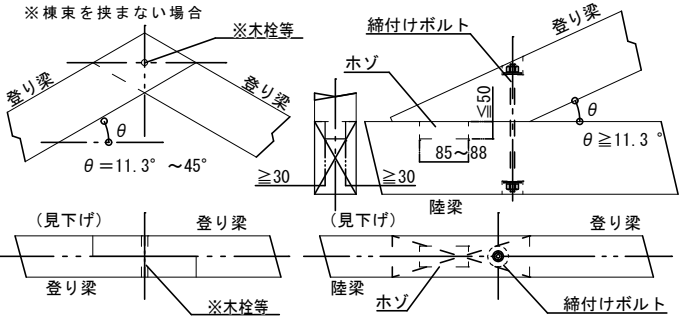
Q 登り斜めホゾ



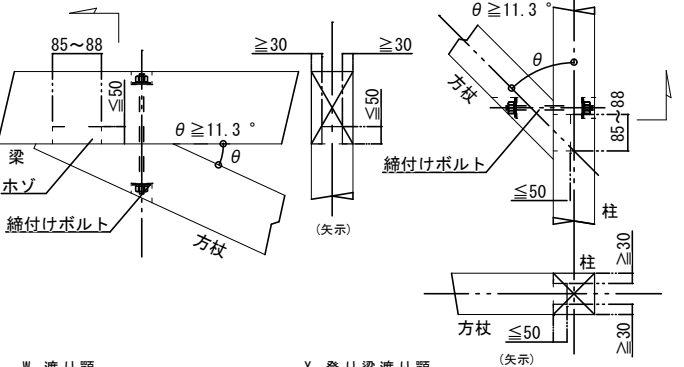
R 登り座付きホゾ



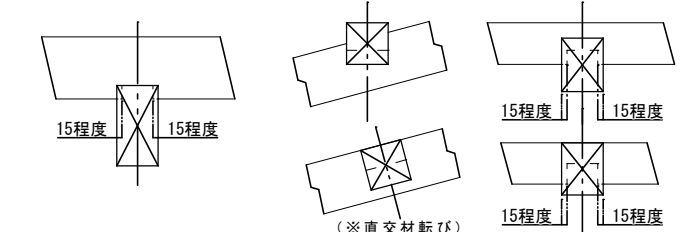
S 登り梁合掌部



U 方杖-梁仕口

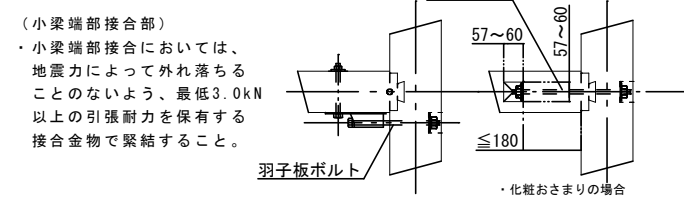
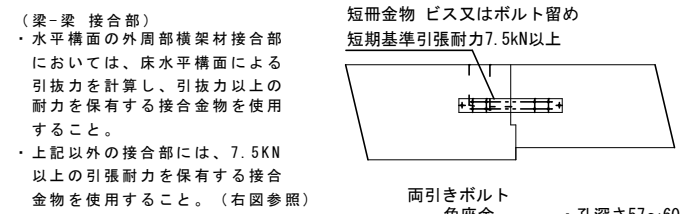
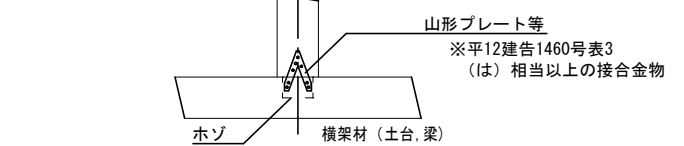


W 渡り頭



(4) 継手・仕口の補強金物

・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1kN以上の引張耐力を保有する接合金物（平12建告1460号表3に対応する表符号の“は”相当以上）を使用すること。



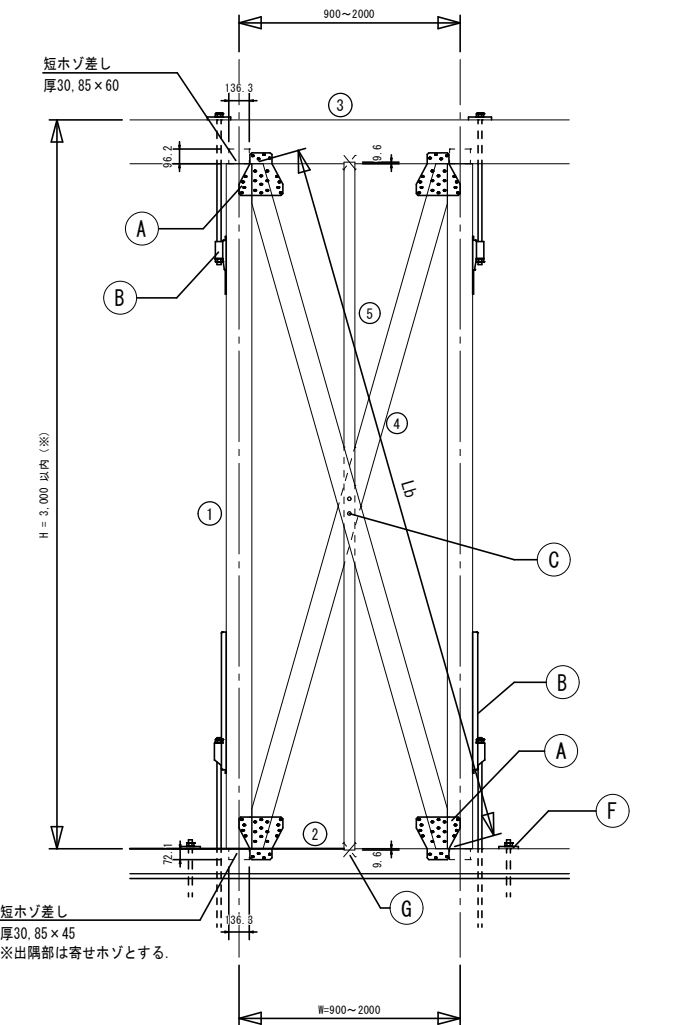
構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

工事名称	令和7年度（第1期）やんばる世界遺産センター作業事務所新設工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	標準仕様書(6)
発注機関	沖縄電美自然環境事務所	縮 尺	
構 要	管理建築士	図面番号	S-06
検 印	設 計	設 計 者	名 称 (株) 翁長設計
	製 図	資 格 者 氏 名	一級建築士 吉田康平
		登 録 番 号	大臣登録 第376384号
		所 在 地	浦添市勢理家3-2-24 201

木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図

1. 令46条に定められた仕様に準じ、かつ実験で性能が確認された筋かい耐力壁

A. 45×90以上の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率：4.0



部材断面

- ① 柱：105×105,または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
② 土台：105×105,または120×120 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
③ 横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
④ 筋かい：Lbに応じて断面を選択

Lb≤2700 → 45×90以上
Lb≤3000 → 45×120以上
Lb≤3300 → 45×150以上
Lb≤2850 → 45×105以上
Lb≤3150 → 45×135以上

- ⑤ 間柱：45×105,または45×120以上

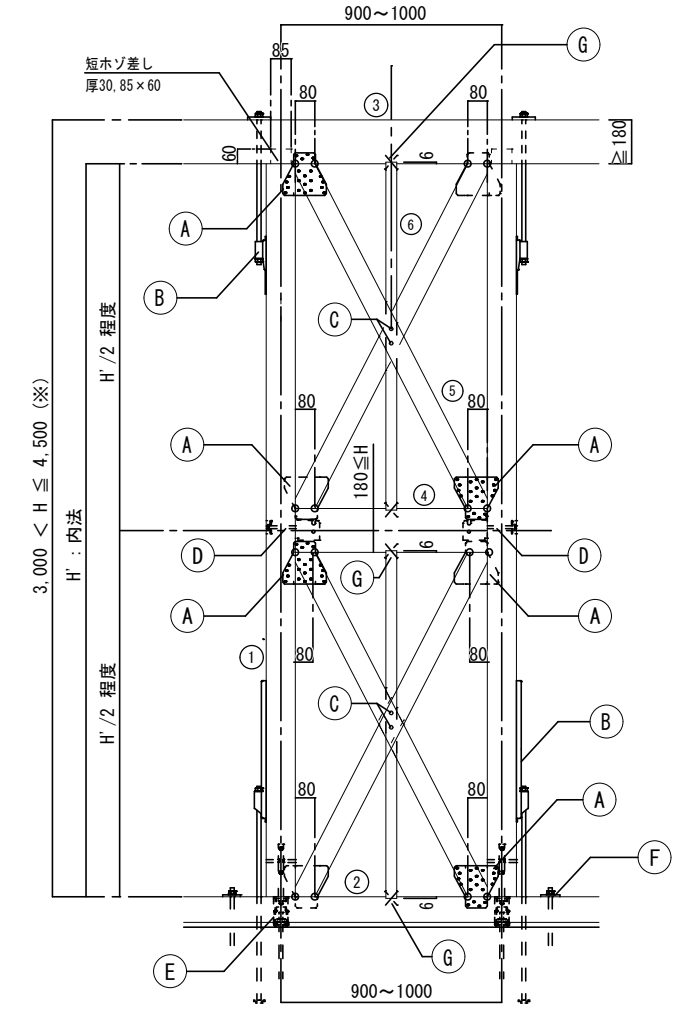
金物例示仕様

木質構造用ねじφ6-L100
(片面2本×両面、計4本)

- ① 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいブレイク (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、
ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
② 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
③ 筋かい-間柱接合：木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本)
Xポイントビス_DXP6100 (若井産業)
パネリードⅡ_P6×100Ⅱ+ (シネジック) (ア詳細図参照)
④ 土台固定用アンカーボルト：M12
⑤ 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち

ア詳細図

B. 二つ割：45×90の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率：4.0



部材断面

- ① 柱：120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
② 土台：120×120以上 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く
③ 横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする
④ 中間横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上
⑤ 筋かい：45×90以上 ※ E70相当以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、80mm程度とする。

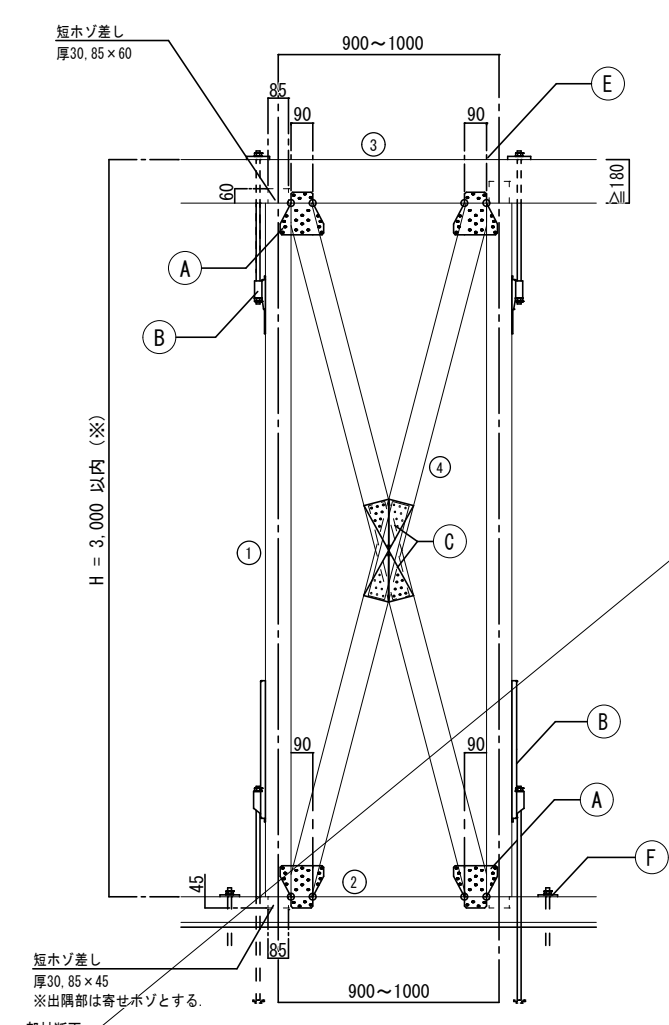
- ⑥ 間柱：45×120以上

金物例示仕様

- ① 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいブレイク (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
② 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
③ 筋かい-間柱接合：木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本) (ア詳細図参照)
④ 中間横架材端部梁受金物：金物工法用梁受け金物 ※ h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力：引張8.0kN以上、せん断および逆せん断5.5kN以上)
⑤ 柱-基礎直結型柱脚金物：PS-OP_120角用 (BXカネシン)
⑥ 土台固定用アンカーボルト：M12
⑦ 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち

イ詳細図

C. 柱同寸：柱と同等の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率：5.0



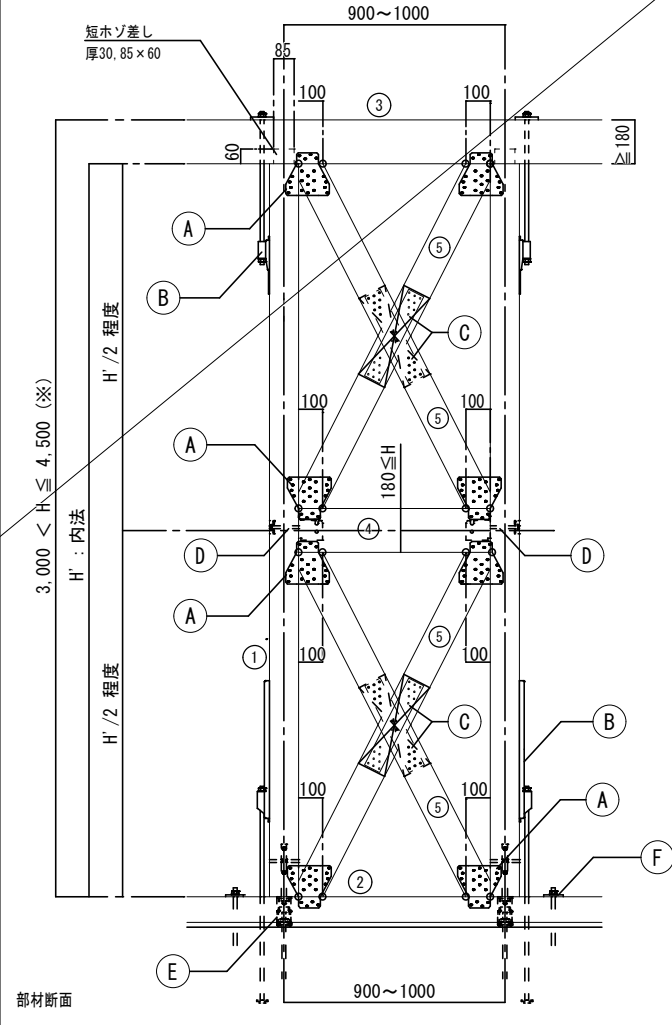
部材断面

- ① 柱：105×105,または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
② 土台：105×105,または120×120 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
③ 横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
④ 筋かい：105×105,または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、90mm程度とする。

金物例示仕様 (※C、D、共通)

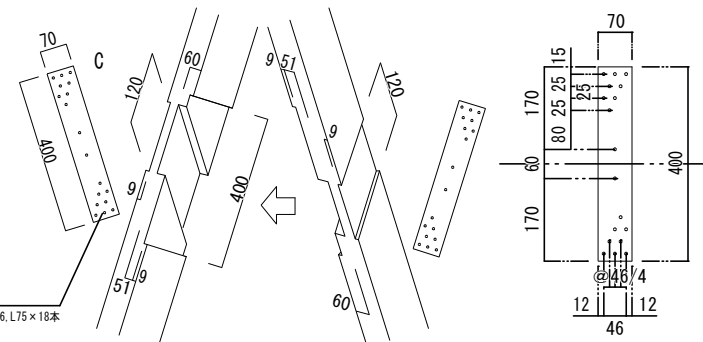
- ① 筋かい金物：柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かいブレイク (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
② 柱頭・柱脚金物：※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
③ 筋かい交差部：柱同筋交い交点補強金物 (ウ詳細図参照)
_PL-4.5x70x400 (使用鋼材：S4400) ビスφ6x75-18本/枚 ※ 両面張り
※補強金物の取付面は、筋交い全幅に9mm影込みとする。
※補強金物は、タナカまたはカネシンBXで製作可能。
④ 中間横架材端部梁受金物：金物工法用梁受け金物 ※ h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力：引張8.0kN以上、せん断および逆せん断5.5kN以上)
⑤ 柱-基礎直結型柱脚金物：PS-OP_120角用 (BXカネシン) ※ D. に適用
⑥ 土台固定用アンカーボルト：M12

D. 柱同寸：柱と同等の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率：5.0



部材断面

- ① 柱：120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
② 土台：120×120以上 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
③ 横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
④ 中間横架材：梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上
⑤ 筋かい：120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、100mm程度とする。



ウ詳細図

※ 柱同筋交い交点補強金物詳細

構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

工事名称	令和7年度 国庫 かんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	標準仕様書 (8)
発注機関	沖縄電業自然環境事務所	図面番号	S-08
備考		設計者	(株)翁長設計
2025.10.	管理建築士	設計	設計者氏名 一級建築士 吉田康平
		製図	登録番号 大臣登録 第376384号
		校印	所在地 浦添市勢理客3-2-24 201

新・つくば耐力壁<K型> 参考標準納まり例図

(単位: mm)

□ 105角 - 105角(105×150)

筋かい<K型>

中棧 105

□ 120角 - 120角(120×150)

筋かい<K型>

中棧 120

□ 105角 - 120角(120×150)

筋かい<K型>

中棧 105

□ 105角 - 120角

筋かい<K型>

中棧 105

①

構造用面材

筋かい<K型>

筋かい金物

HD金物

②

構造用面材 (非耐力壁)

筋かい金物

筋かい<K型>

③

筋かい金物

筋かい<K型>

④

筋かい金物

筋かい<K型>

構造用面材

受材

面材

⑤

筋かい金物

筋かい<K型>

構造用面材

受材

面材

⑥

筋かい金物

筋かい<K型>

構造用面材

受材

面材

BCJ評定-LV0104-03

【 K 型 筋かい仕様 】

【 K 型 筋かい面材2枚張り仕様 】

【 K 型 筋かい面材1枚張り仕様 】

筋かい 45×105

筋かい仕様

筋かい面材仕様

模架材間内寸法

1mあたり相当壁倍率
【 許容せん断耐力 】

1mあたり相当壁倍率
【 許容せん断耐力 】

S 1950以上～2250未満

5. 09倍
【 9. 09 k N/m 】

6. 91倍
【 13. 56 k N/m 】

M 2250以上～2550以下

4. 61倍
【 9. 05 k N/m 】

6. 37倍
【 12. 50 k N/m 】

H 2550超～2850以下

4. 13倍
【 8. 11 k N/m 】

5. 83倍
【 11. 44 k N/m 】

・新・つくば耐力壁のせん断耐力は左右の方向性が無く、反転設置が可能である。

・反転設置は「2段筋かい新・つくば耐力壁施工手順書」を参照した上で、設計者または施工管理者の指示に従い実施する。

工事名称	令和7年度 国選 かんばる自然環境センター事業所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	標準仕様書 (9)
発注機関	沖縄電業自然環境事務所	縮 尺	
備 考		図面番号	S-09
検 印	管理建築士	設 計	設 名 称 (株)翁長設計
		製 図	責任者氏名 一級建築士 吉田康平
			登録番号 大臣登録 第376384号
			所 在 地 浦添市勢理客3-2-24 201

構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

木造軸組接合部標準図

7. 水平構面

(注) (単位)mm

7.1 共通事項

- ・各部仕口形状は、(3) 高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2) 5. 軸組標準接合部に準ずる。
- ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

(a) 日の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m

(b) 川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m

※ 合板は、横架材に対し
直交方向に長辺を配置

1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 甲乙梁：幅 45mm 以上 $\times$ せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑦ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ、N75 1本斜め打ち

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
 - ⑧ 構造用合板はN75@150mm川の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ※ 構造用合板は、実付きとする。

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする
 2mm を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、
境み等にご注意する事

告示耐力壁-床納まり
大壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

真壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

筋違耐力壁-床構面
(筋違勝)

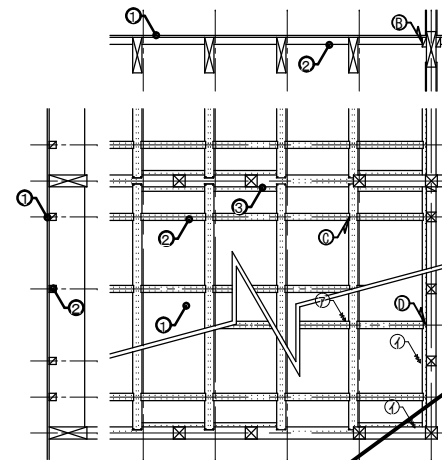
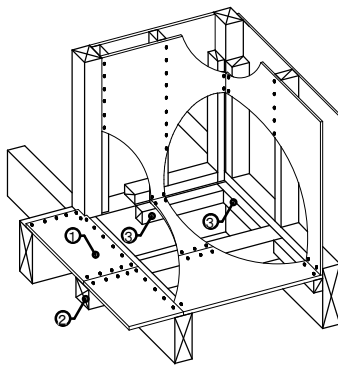
認定仕様例示) 日合連(JPMA)仕様耐力壁-床勝納まり
大壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0296

真壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0298

筋違金物による床勝納まり
筋違耐力壁-床構面
(床勝：大臣認定仕様)
会社名()
認定番号()

7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

(1) 2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
- ② 甲乙梁： $90\text{mm} \times 90\text{mm}$ の正角材又は幅 $75\text{mm} \times$ 成 120mm 製材を平使い
- ③ 大梁側面に取り付ける床受材：幅 $55\text{mm} \sim 75\text{mm} \times$ 成 120mm の製材

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ $15\text{mm} \times$ 成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材勝ちの納まりとする

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@75mm日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ⑧ 大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビス $\phi 6$ 、L130~150を 150mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)

面材
側面図

立面図

側面図

1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
- ② 母屋：幅 $120\text{mm} \times$ 成 120mm の製材
多雪区域(3級及び4級)の場合は幅 $120\text{mm} \times$ 成 150mm の製材
- ③ 軒先転び止め：幅 $105\text{mm} \times$ 成 300mm の製材を用い、天端は屋根根元に合わせ切り欠く
- ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板： $t=12\text{mm}$

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
- ⑤ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ

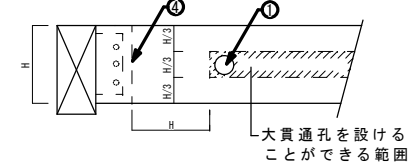
3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
- ⑧ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス $\phi 5$ 、L150(頭部径 $\phi 12.5$ 以上ねじ部長さ50以上)1本を斜め打ちとする
- ⑨ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50くぎを 50mm ピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔： $d \leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔： $d \leq 30\text{mm}$ (隣り合う孔は $3d$ 以上離す)
- ③ 縦小貫通孔： $d \leq b/6$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



大貫通孔を設けることができる範囲



梁の側面に小貫通孔を設けることのできる範囲



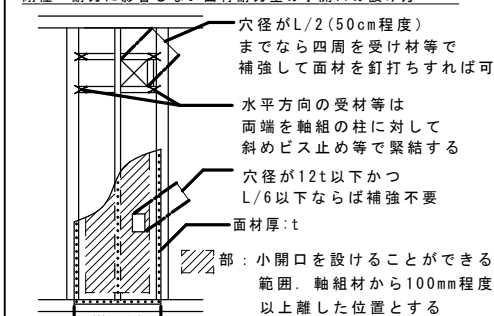
梁の上下面に小貫通孔を設けることのできる範囲(大貫通孔は不可)

8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)

※壁倍率7倍までの孔開けルール

剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方



部：小開口を設けることができる範囲

(2) 高耐力仕様合板貼耐力壁(JISA3301標準仕様)

※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール(JISA3301仕様)

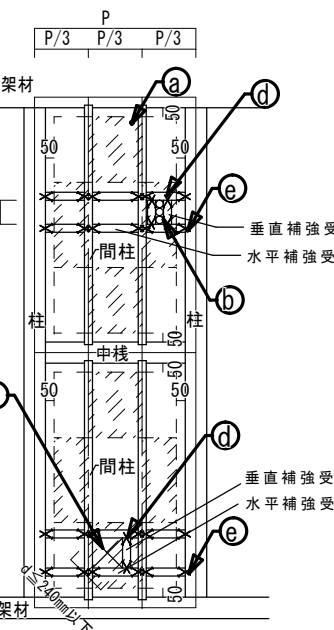
a) 貫通孔基準

- ① 小貫通孔($d \leq 30\text{mm}$)
1区画につき1か所までなら補強不要
- ② 小貫通孔 $\times 3$ (外接円の径 $d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- ③ 大貫通孔($d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可

b) 釘打ち及び断面

- ① 合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち
補強受材は間柱と同寸以上の断面
- ② 補強受材の留め付けは斜めビス2本止め

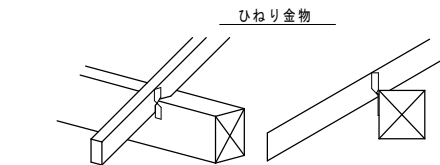
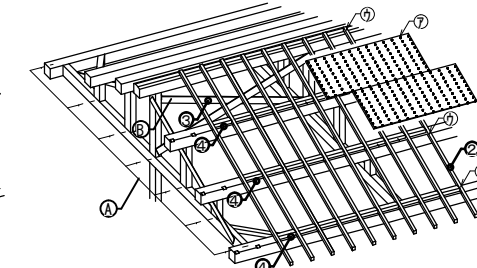
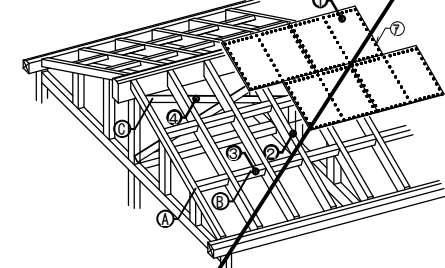
部：小開口を設けることができる範囲



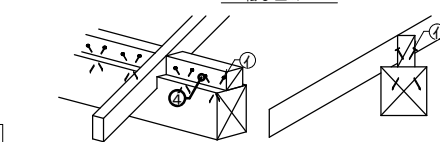
(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

(a) 登梁-厚合板
短期許容せん断耐力
7.84kN/m(勾配面に対して)

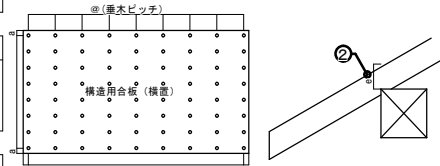
(b) 垂木-合板
短期許容せん断耐力
1.96kN/m(勾配面に対して)



注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する



注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する
N75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)斜め打ち



a: 面材上下端まで 10mm
b: 面材左右端まで 10mm
c: 軸材端まで(最小値) 12.5mm

- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 登梁：幅 105mm 以上 $\times$ せい 105mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ③ 甲乙梁：幅 45mm 以上・せい 45mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ④ 小屋耐力壁：15mm以上 $\times$ 90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@150mmで日の字に垂木に留め付ける

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする

- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=9\text{mm} \sim 15\text{mm}$ (横置)
- ② 垂木：幅 45mm 以上 $\times$ せい $45\text{mm} \sim 90\text{mm}$ @ 500mm 以下
- ③ 小屋耐力壁：15mm以上 $\times$ 90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
- ④ 転び止め：45mm $\times$ 60mm程度

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 母屋ピッチ：1000mm以下
- ⑤ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
- ⑧ 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
- ⑨ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒先、母屋、棟木の上面に対して2-N75斜め打ち

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする

構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

工事名称	令和7年度(国庫)やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	標準仕様書(10)
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	図面番号	S-10
摘要	管理建築士	設計	製図
検印		設計者氏名	(株)総長設計
		資格者氏名	一級建築士 吉田康平
		登録番号	大臣登録 第376384号
		所在地	浦添市勢理客3-2-24 201

表層地盤改良工法地業特記仕様書

1. 工法概要

本地業は、浅層混合処理工法による地盤改良地業である。

2. 一般事項

- (1) 本仕様書に特記のない事項は「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針-セメント系固化材を用いた
深層・浅層混合処理工法-日本建築センター」（以下「センター指針」）による。

3. 固化材の配合及び使用量

- (1) 改良体の設計基準強度 $F_c=150\text{kN/m}^2$
(2) 地盤改良範囲は、図面による。改良厚さは $t=0.75\text{m}$ とする。
(3) 固化材は、セメント系固化材または普通ポルトランドセメントとし、メーカーの仕様によるものとする。
(4) 固化材の種類は、一般軟弱土とする。
(5) 固化材の配合は、室内配合試験による。※但し、近隣に施工実績がある場合は除く
(6) 尚、配合は試験に使用する固化材は、セメント系固化材とする。また、供試体材齢は7日とする。
①土質安定処理配合試験
JIS A 1216による一軸圧縮試験 試料数＝3 1試料当たり3検体
(7) 特殊な地盤や施工実績の少ない施工機械・施工方法を使用する場合は試験施工を行い、改良体の強度等を確認する。
(8) 施工について質疑が生じる場合は、直ちに監査職員と協議する。

4. 品質管理

- (1) 改良体の供試体（モールドコア・角型供試体）を1区画毎に3箇所採取し、供試体を作成してJIS A 1216による一軸圧縮試験（材齢7日）を行う。
①供試体の採取方法は1区画（小数点切り上げ）として、1区画毎に3箇所とする。
②供試体の本数は、1箇所当たり3本とし、採取位置は監督職員の指示による。
③材齢7日における圧縮強度試験結果は、「品質管理指針」第3編7章品質管理の章を満足しなければならない。

5. 報告書

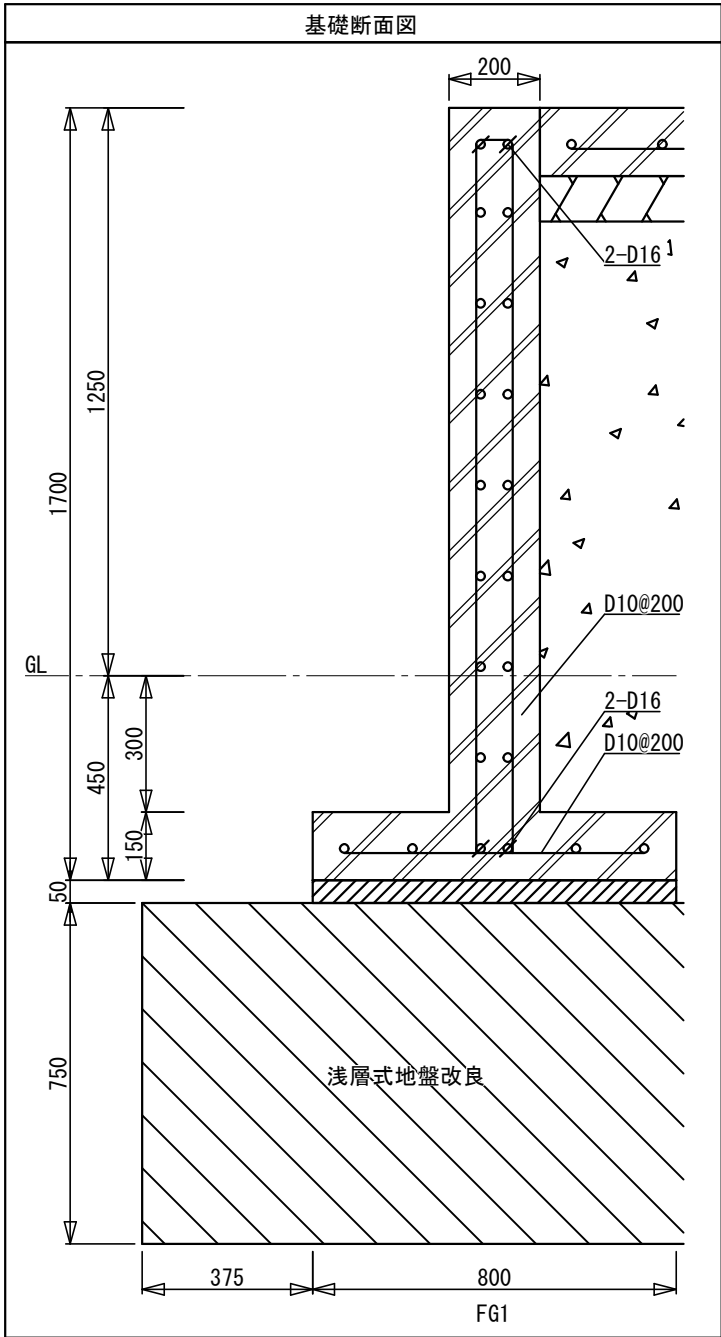
工事完了後、次の項目についてまとめ監督職員に提出し、承諾を受ける。

- (1) 施工日、時間、混合状況及び締め固め状況
(2) 改良範囲、改良厚さ、仕上がり厚さ
(3) 固化材の配合と固化材使用料
(4) 工事写真
(5) その他施工報告書（監督職員からの指示等）

工事名称	令和7年度 国庫 やんばる世界遺産センター修繕工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称 縮 尺	標準仕様書(11)
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	図面番号	S-11
摘 要			
2025 . 10 . 検 印	管理建築士	設 計	製 図
	設計者氏名	一級建築士 吉田康平	設 名 称 (株)翁長設計
	登録番号	大臣登録 第376384号	計 者
	所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201	

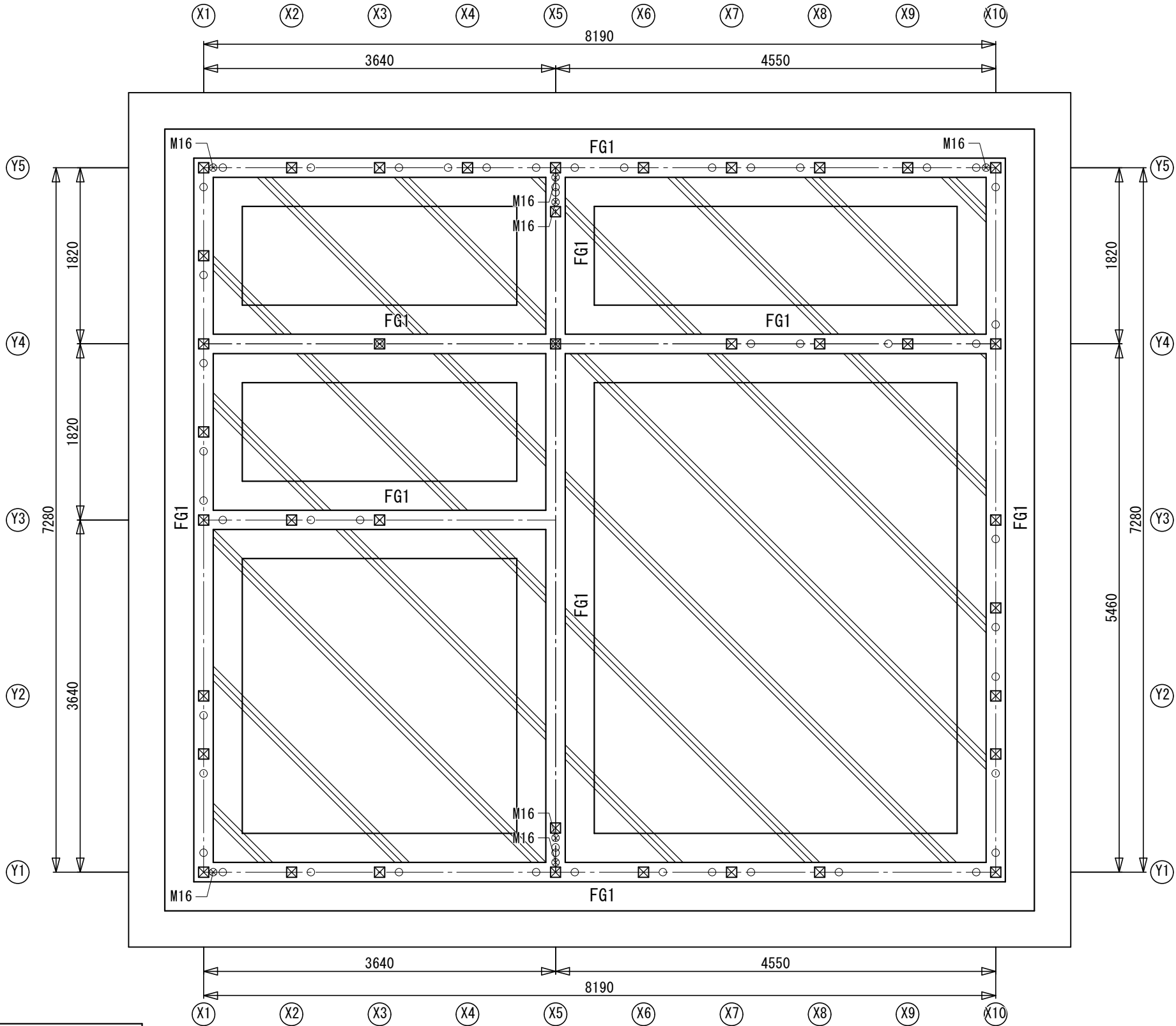
構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

浅層混合処理工法	
改良面積	:84.157㎡
掘削深度	:0.75m
改良土量	:63.11775m3
配合量	:100kg/m3
設計接地圧	30kN/㎡
□ 浅層式地盤改良位置を示す	



部材リスト(基礎)	
材料強度	
捨コンクリート	Fc= 18 N/mm2
基礎コンクリート	Fc= 21 N/mm2
スラブコンクリート	Fc= 21 N/mm2
鉄筋	D16以下: SD295
地耐力	30kN/m2(長期)地盤改良による

スラブ配筋等	
	t=150 スラブ天 GL+1250
FS1	配筋: D10@200(ﾀﾞｲ・ｺﾛ共)ｼﾝｸﾞﾙ
※特記なきスラブはFS1とする。	
ｸﾗｯｼｬｰﾝ ｱ100 防湿ﾌｨﾙﾑ ｱ0.15	



構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

2025	10

工事名称	令和7年度(第1期)やんばる世界遺産センター併設事務所管理工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	基礎伏図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮尺	1/50
摘要		図面番号	S-12
設計	管理建築士	製図	
校印			
設計者	資格者氏名 一級建築士 吉田康平	名称	(株)翁長設計
	登録番号 大臣登録 第376384号		
	所在地 浦添市勢理客3-2-24 201		

<柱脚金物>
< 柱の柱脚金物には
< 〇 〓 > パイプ式独立低柱脚金物LB(P-90)((株)タツミ)同等品以上を使用。

①M12六角ナット
②M12ワッシャー
③M12用偏芯座金
(φ40 t=4.5)

105
▽柱木口
55

2-DP12
LB(本体)
P-90(柱受部品)
アンカーボルトM12
埋め込み長L=400

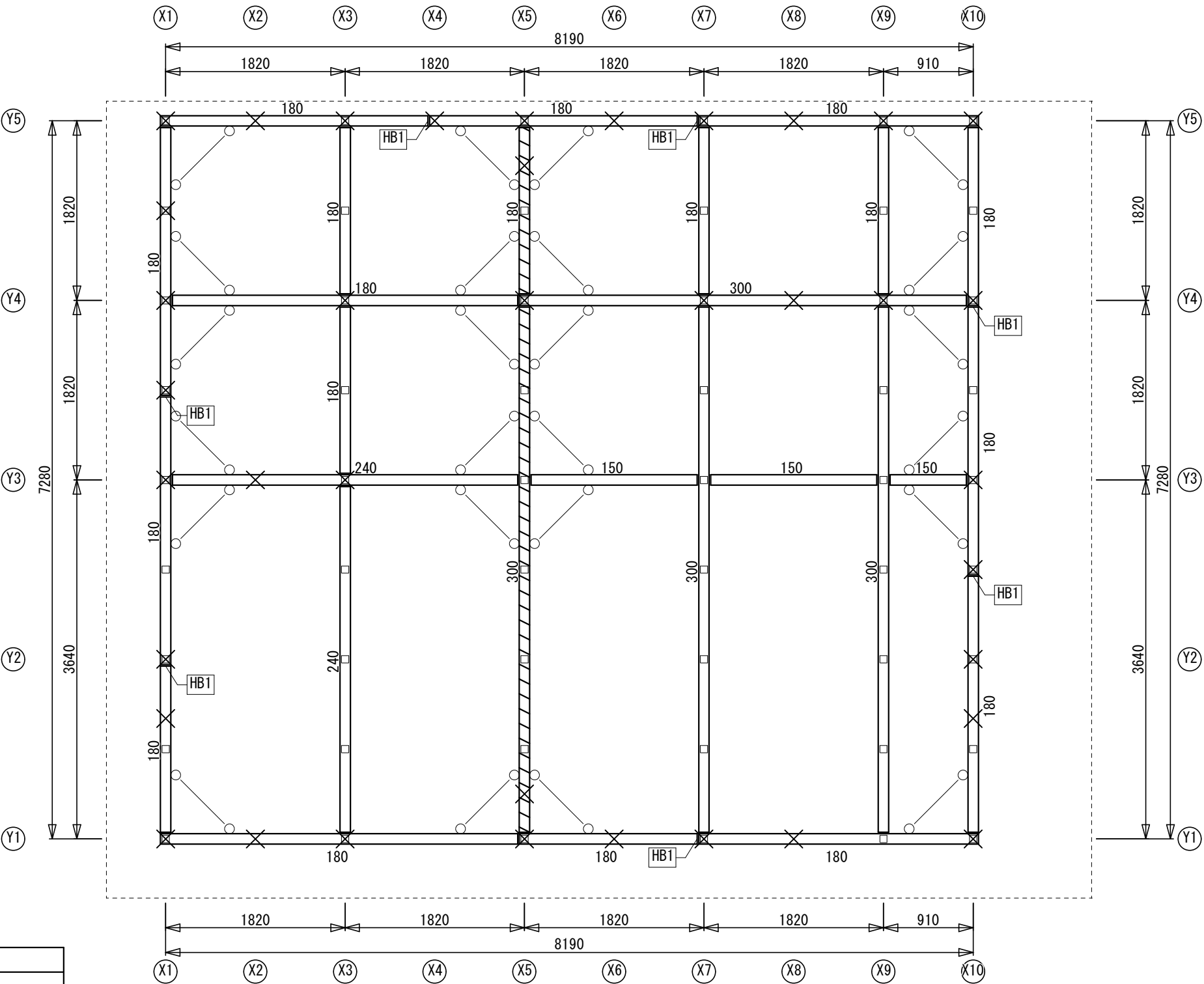
部材リスト(1階床)	
土 台	105×105 材種：ヒノキKD構造用製材 無等級
土台用 アンカーボルト	M12 L=400(フック無し・丸鋼) ○ 土台端部、土台継ぎ手、筋交端部に配置 その他@2000mm以内
土台・柱脚用 アンカーボルト	⊗ M16 L=600 埋め込み長L=360 土台端部・ホールダウン引き寄せ用

構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

2025	10

工事名称	令和7年度(前期)やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	土台伏図
発注機関	沖縄電美自然環境事務所	縮 尺	1/50
備 考		図面番号	S-13
検 印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	(株)総長設計
		資格者氏名	一級建築士 吉田康平
		登録番号	大臣登録 第376384号
		所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201

部材リスト(小屋)	
梁	梁幅は120mmとする。 材種：スギKD構造用製材 無等級 ▨▨▨の梁はベイツKD構造用製材 目視等級区分甲種2級同等以上とする。 梁材をつなぐ時は、標準仕様書に準ずること。 外周部梁継手及び仕口(HB1記載箇所)には短冊金物(1枚)を併用すること。
火 打	90×90 材種：スギKD 無等級構造材

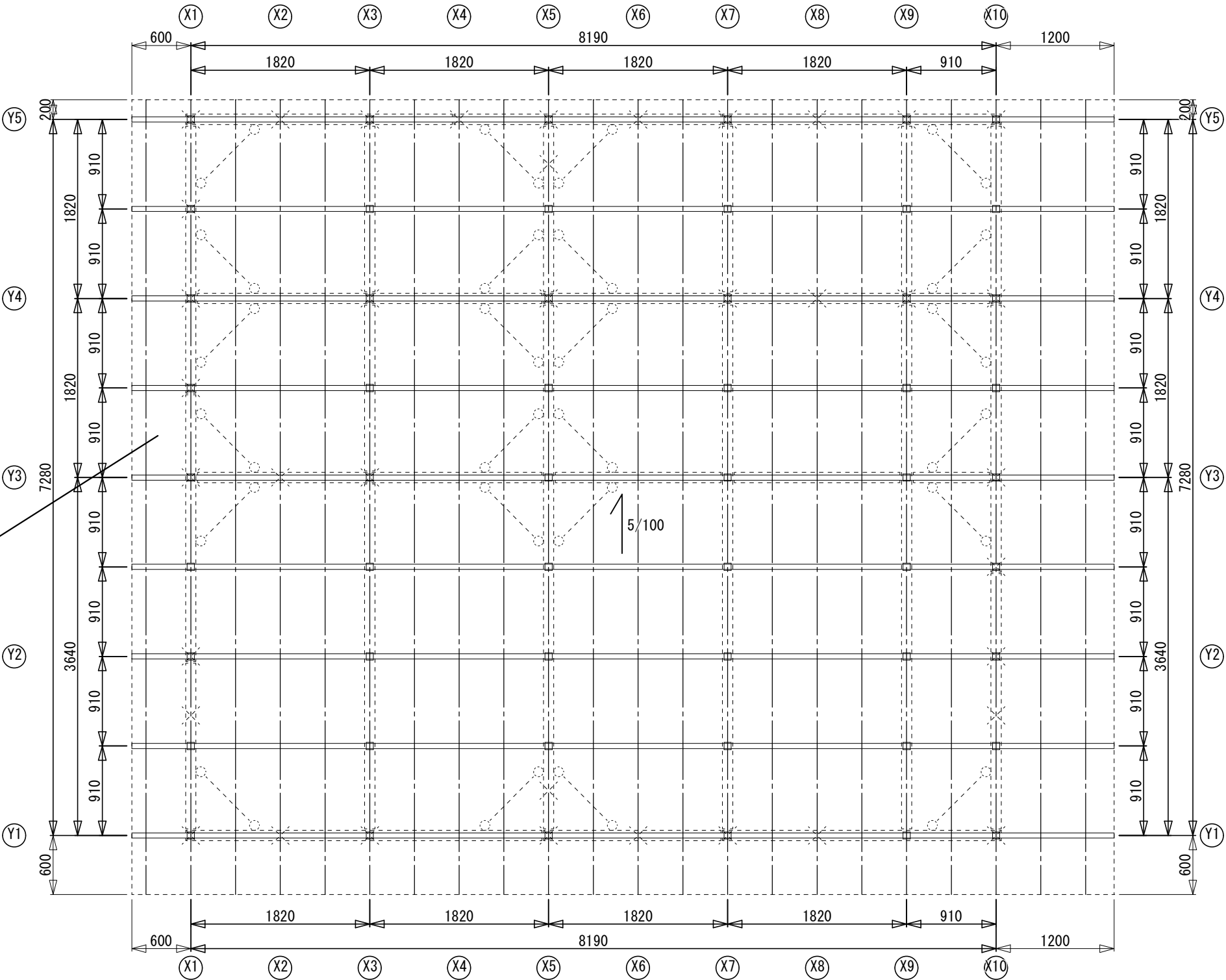


構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

工事名称	令和7年度(前期)やんばる世界遺産センター事業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	小屋伏図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	1/50
備 考		図面番号	S-14
検 印	管理建築士	設 計	名 称 (株)翁長設計
			資格者氏名 一級建築士 吉田康平
			登録番号 大臣登録 第376384号
			所 在 地 浦添市勢理客3-2-24 201

- ＜屋根水平構面＞
- ・屋根葺き材 ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
 - ・構造用合板12mm N50@150以下
 - ・垂木45×90@455
 - ・桁・母屋・棟木にN75-2本斜め打ち
 - ・水下桁 煽り止め金物ST-9

部材リスト(屋根)	
母 屋	105×105 材種：スギKD構造用製材 無等級
小屋束	105×105 材種：スギKD構造用製材 無等級
垂 木	45×90@455 材種：スギKD構造用製材 無等級
柱	下階

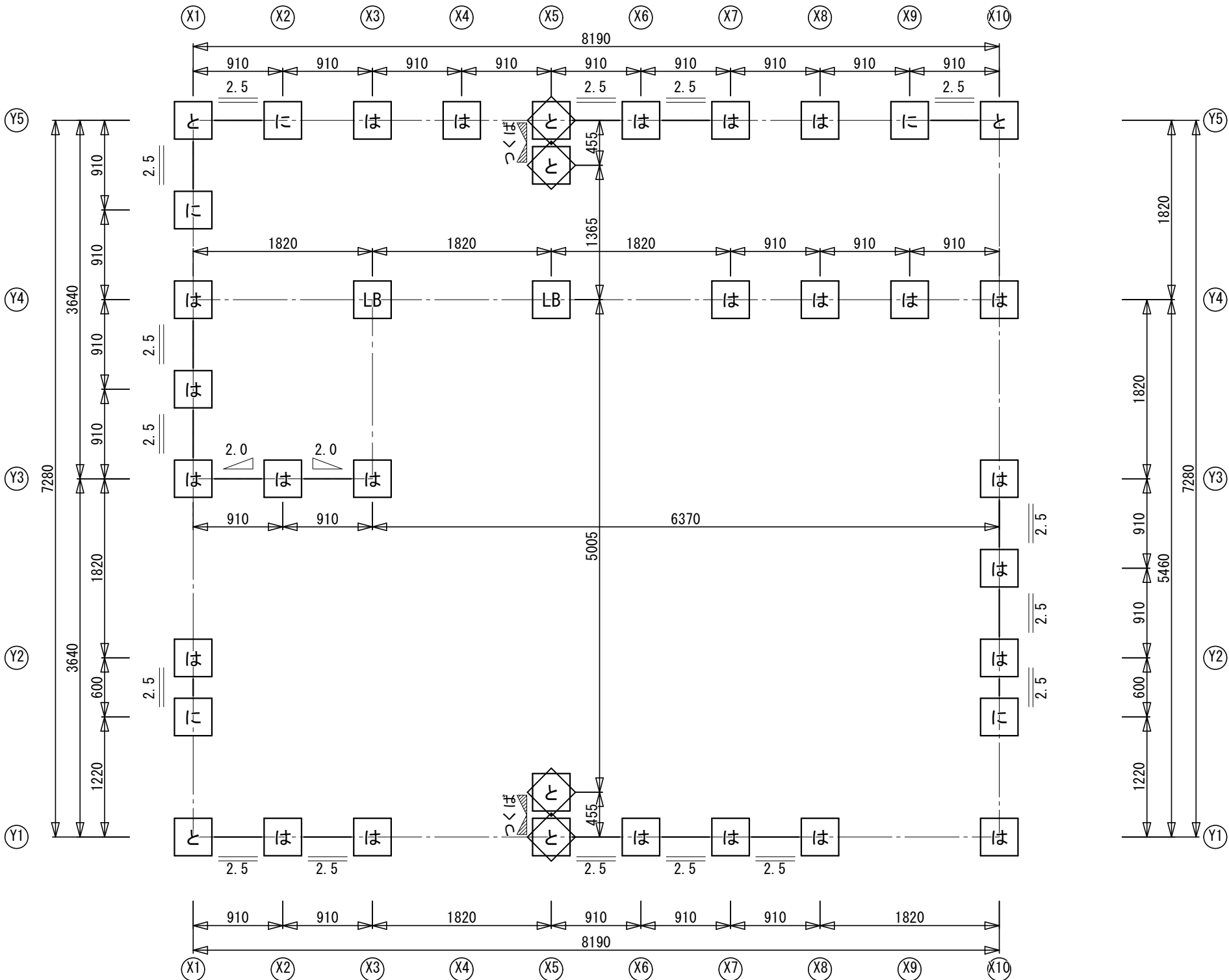


構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県C-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

2025.10.10
捺印

工事名称	令和7年度(前期)やんばる世界遺産センター市役所事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	屋根伏図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	1/50
摘 要	管理建築士	設 計	製 図
設計者	資格者氏名 一級建築士 吉田康平 登録番号 大臣登録 第376384号 所 在 地 浦添市勢理客3-2-24 201	図面番号	S-15

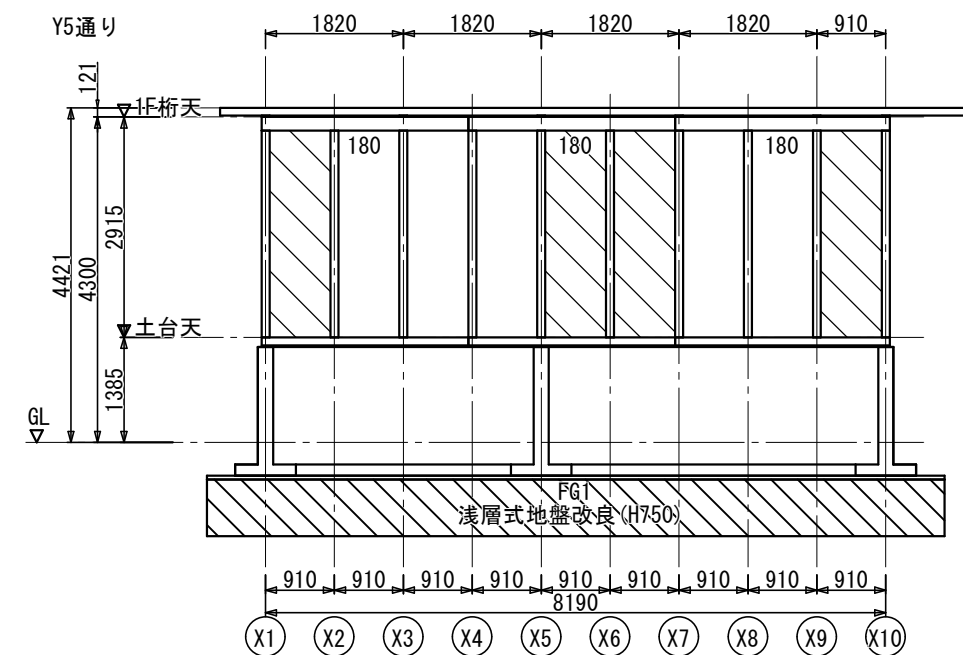
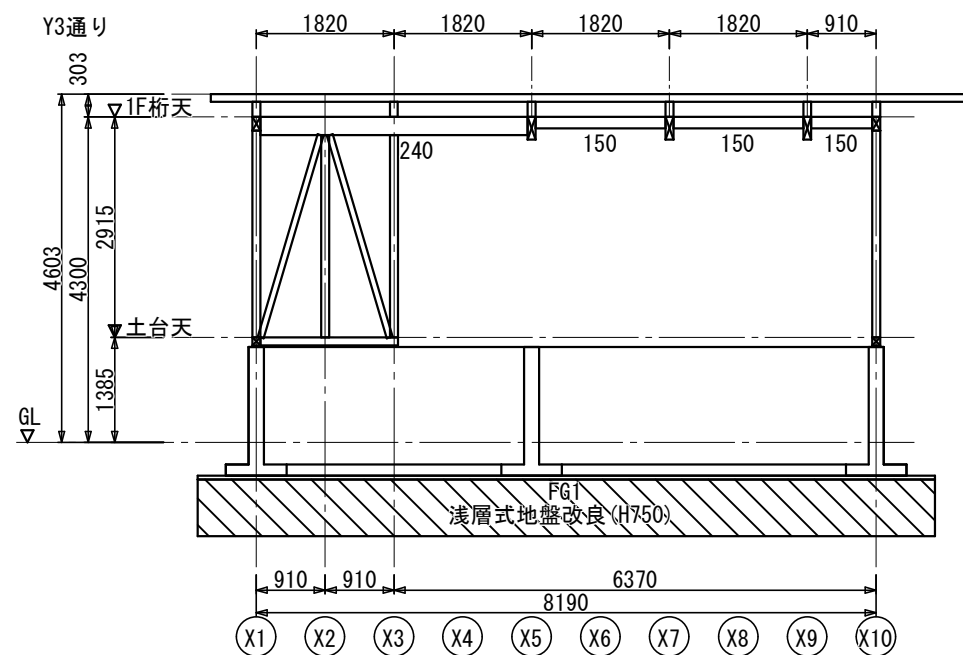
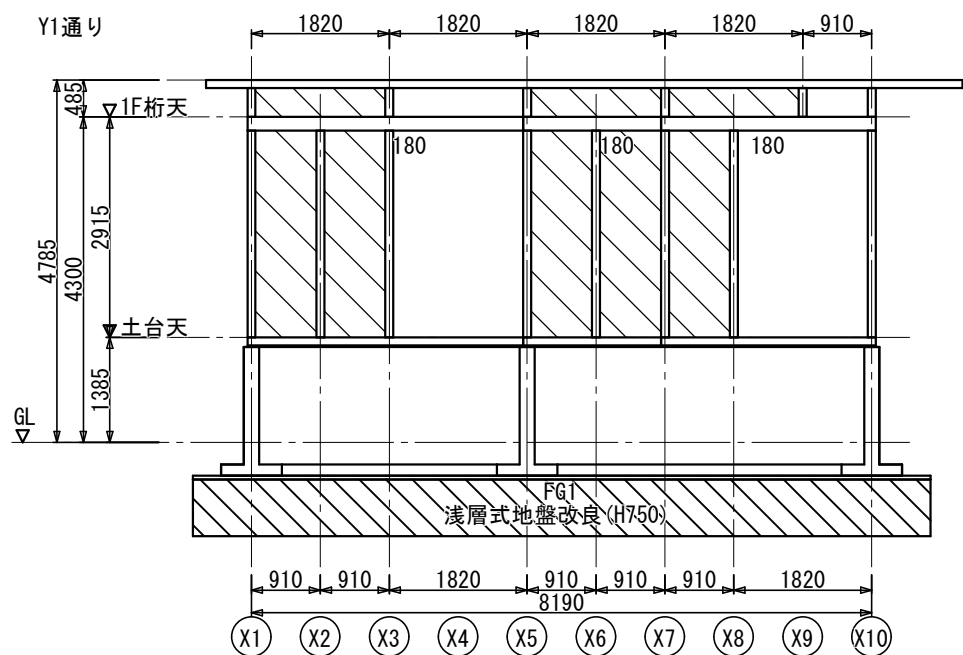
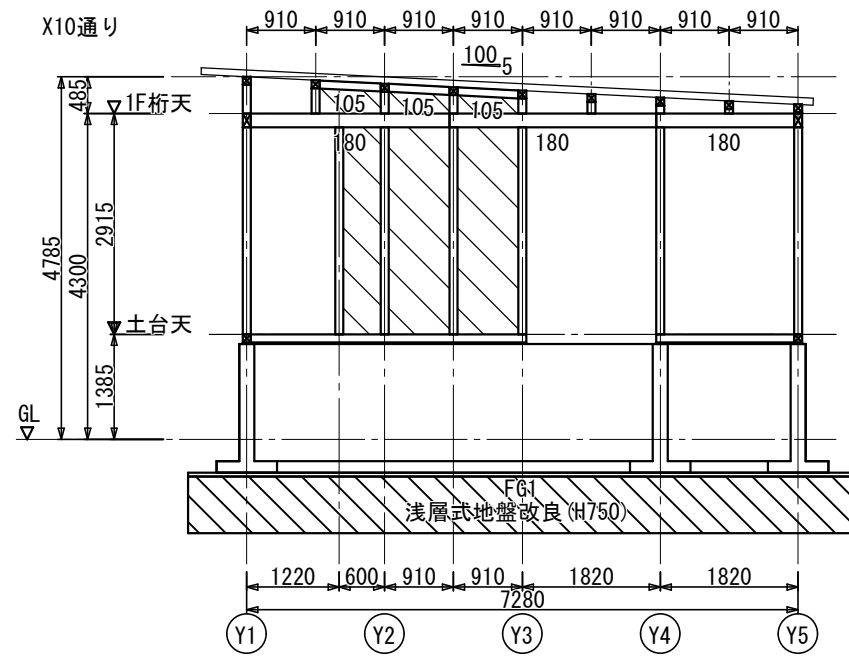
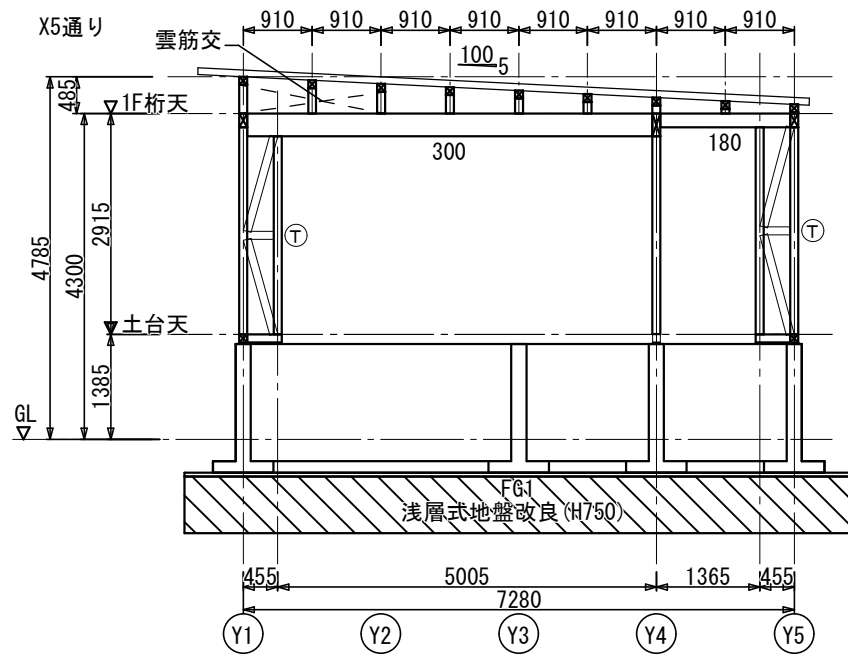
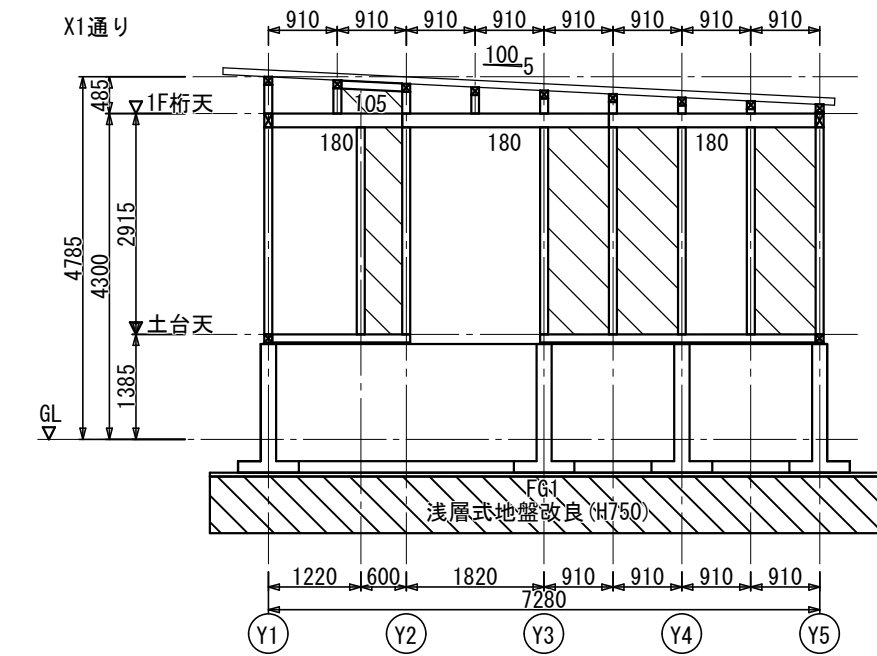
部材リスト（柱壁）	
柱	
	管 柱：105×105 材 種：スギKD構造用製材 無等級
	管 柱：105×105 材 種：スギKD構造用製材 JAS機械等級区分E70
部材リスト	
柱脚	通し柱：柱脚又は柱頭金物記号
・ 	柱勝ち管柱：柱脚金物記号
柱頭金物	管柱：柱脚及び柱頭金物記号 ※金物記号は建設省告示1460号に準ずる
※柱のホゾサイズ：30mm×90mmとする。 ※小屋束端部金物は(は)–山形金物同等を使用 ※（へ）による柱脚土台引き金物とする場合は、 周囲の土台アンカーボルトの座金は50角とする。	
は	山形金物 T字型かど金物 同等品
に	羽子板ボルト引き又は短冊金物 同等品
ほ	羽子板ボルト＋スクリュー釘 又は短冊金物＋スクリュー釘 同等品
へ	10kN用引寄せ金物
と	15kN用引寄せ金物（柱脚15kN用HD金物）
LB	柱脚：パイプ式独立低柱脚金物LB（P-90）（（株）タツミ）同等品 柱頭：「は」 同等品
耐力壁	
	構造用合板 t=9.0（大壁） 外周 釘N50@150打ち 中通り 釘N50@150打ち 壁倍率：2.5倍
	片筋交 45×105 材種：スギKD構造用製材 無等級 端部金物 BP-2（同等品） 壁倍率：4.0倍
	新・つくば耐力壁 筋かい45×105 ベイマツKD 構造材製材 甲種2級（旧JAS一等同等） 筋かい金物＋筋かいビス（TBA-45×8本） ＋柱横架材ビス（TBA-65×9本） 中棧 105×105 同一等級集成材E95-F315 中棧金物＋中棧金物ビス（TBA-45×8本） ＋ドリフトピン（MDP-103×4本） 壁倍率：4.13倍



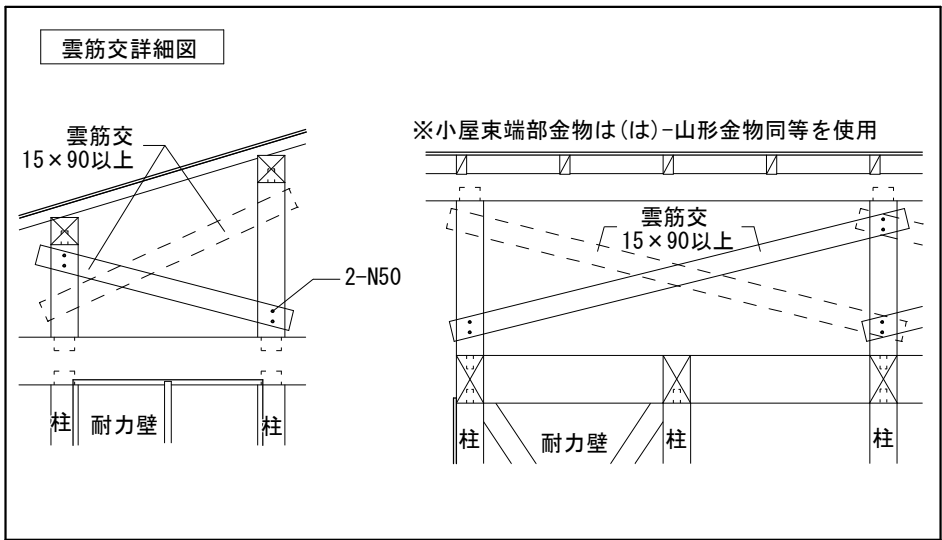
構造設計担当事務所
なな喜建築設計室 一級建築士事務所宮崎県O-5251
久野 奈穂子 一級建築士No. 307851

2025	10

工事名称	令和7年度（編組）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	柱壁伏図
発注機関	沖縄電美自然環境事務所	縮 尺	1/50
描 要		図面番号	S-16
検 印	管理建築士 設 計 製 図	設 名 称	（株）翁長設計
		資格者氏名	一級建築士 吉田康平
		登録番号	大臣登録 第376384号
		所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201



部材リスト (軸組)	
面材耐力壁	構造用合板 t=9.0 (大壁) 外周 釘N50@150打ち 中通り 釘N50@150打ち 壁倍率: 2.5倍
つくば耐力壁	新・つくば耐力壁 筋かい45×105 ベイマツKD 構造材製材 甲種2級 (旧JAS一等同等) 筋かい金物+筋かいビス (TBA-45×8本)+柱横架材ビス (TBA-65×9本) 中棧 105×105 同一等級集成材E95-F315 中棧金物+中棧金物ビス (TBA-45×8本)+ドリフトピン (MDP-103×4本) 壁倍率: 4.13倍
筋交	45×105 材種: スギKD構造用製材 無等級
雲筋交	15×90 材種: スギKD構造用製材 無等級 梁間4m以内 束に釘2-N50平打
柱有効細長比	90.2



工事名称	令和6年度 (環境) やんばる自然環境センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	軸組図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮尺	1/100
摘要	管理建築士	設計	製図
検印			
名称	(株) 総長設計	設計者	資格者氏名 一級建築士 吉田康平
		登録番号	大臣登録 第376384号
		所在地	浦添市勢理客3-2-24 201

電気・機械設備特記仕様書

工事名称： 令和6年度（繰越）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事
工事場所： 沖縄県国頭郡国頭村比地263-1

本工事は、本特記仕様書に記載されている事項により、施工を行うものとする。
本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書（最新年度版）電気設備工事標準図（最新年度版）に準じ、施工するものとする。
又、電気設備技術基準、その他関係諸法令、建築基準法、諸法規に基づき、完全、確実に施工する。

A. 一般事項

- 使用機器及び、資材等はあらかじめ監督員の承認を受けて発注する。
- 本工事に関わる官公庁への諸手続は、全て請負者の負担とする。
- 本設計図書及び特記仕様書に疑問等が生じた場合は、監督員と協議の上決定する。
- 他工事との取り合いは、事前に十分な打ち合わせを行い、完全な施工に努める。
- 本工事に使用する機器及び資材等は、本設計図書、本特記仕様書によるものとし
全て本設計図書に記載されている物と同等品、もしくは同等品以上とする。
- 本工事の完成並びに、諸法規上当然必要と認められるものは、明記なき事項でも工事請負者が、
責任をもって施工し、その費用も負担する。
- 本工事の施工に際して、事前に施工図を提出し監督員の了解を得て施工に当たる。
- 外部に使用するプルボックス類及び外部に接する指示金物及び取り付けボルト、ナット等は全てステンレス製とする。
- 空配管にほ1.6mm以上の鉄線を入線すること。
- 本工事で使用するボックス類は樹脂製を使用する。
- 本工事で使用するプレートは屋内にあっては樹脂製フルカラーを使用し、屋外にあってはステンレス製を使用する
- 異種区画を貫通する配管は1種耐火区画が必要であり、耐火処理を行う事

B. 電気設備工事

1. 電灯幹線設備工事

電灯幹線 1相3線 210V/105V

- 管材は硬質ビニール電線管（VE）及びPF管を使用する
- 既設キュービクル低圧盤の既設ブレカ（MCCB3P100/75AT）より給電し、作業事務所内の電灯分電盤までの配管配線を行う

2. 電灯設備工事

- 配線はVVFケーブルを使用し本部にステップルにて固定する使用する。但し壁埋設部分はPF管にて配管保護を行う
- ジョイント部分はF用ジョイントボックスを使用する。配管部分はアウトレットボックスを使用する
- 点滅器は埋込型とし配管は壁埋設配管とする。配管の天井近くにボックス及びノズルプレート进行、
天井からの露出配線の受け皿として使用する

3. コンセント設備工事

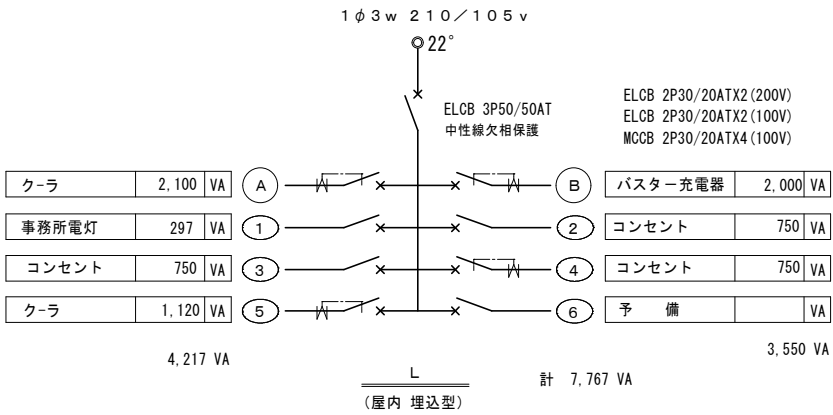
- コンセント器具は壁部分は壁埋込型とし、床部分はフローアコンセントとする
- 管材はPF管を使用する
- 冷房工事における屋外機と屋内機の電源線の渡り配線及び制御線工事は機械工事とする
- 既設パスター作業場のEV自動車用充電器電源は既設作業事務所撤去時に既設分電盤より取り外し、本工事の
完成時に新しい分電盤へのつなぎ込み工事を行う

4. 構内情報通信設備工事

- 電話及びLAN用のフローア受け口を床に設ける
- 天井近くにアウトレットボックス进行、フローア用受け口との間を空配管で結ぶ

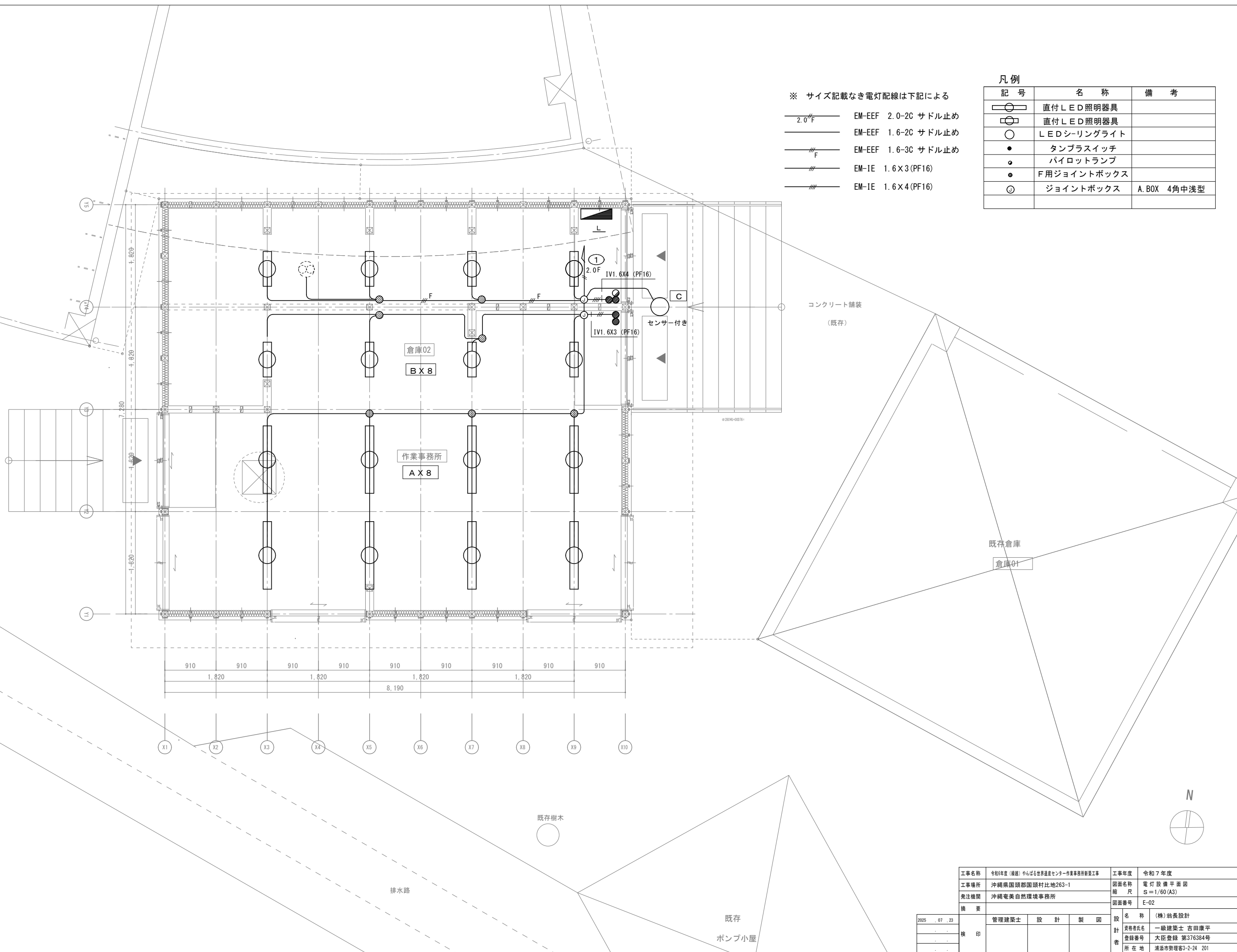
5. 火災報知器設備工事

- 作業事務所の壁面に総合盤を設置し、感知器の取付及び配線工事を行う
- 作業事務所で1警戒区域とする 既設展示棟受信機（P型2級5回線）とレクチャールームの総合盤までは配線は
既設配線（EM-HP 1.2-5P）を再使用して、レクチャールームの総合盤と作業事務所の総合盤間はEM-HP1.2-5P（VE22）
にて配線を行う 尚、既存の警戒番号を調整し、ヨビの窓を作り出来た窓を作業事務所用に使用する。
今回の警戒番号を5番とするする。



照 明 器 具 姿 図			
※メーカー品番は参考とし、同等以上の製品を使用する			
A	LED直付け器具	4,000 L m	B LED直付け器具 L E D 1,600 L m
消費電力25W		消費電力11.6W	
Pana XLX440NENU LE9		Pana XLX210NENC LE9	
C	軒下用シーリングライト	730 L m	8.1W
段調光型 センサー付き			
Pana LGWC51541LE1			

工事名称	令和6年度（繰越）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	特記仕様書・照明器具姿図・分電盤図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	NO SCALE
摘 要		図面番号	E-01
2025 . 07 . 23 検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称 (株) 鈴長設計	資格者氏名	一級建築士 吉田康平
		登録番号	大臣登録 第376384号
		所 在 地	浦添市勢理客3-2-24 201

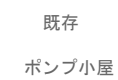
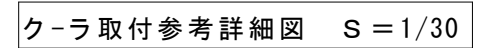
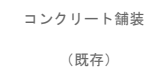


※ サイズ記載なき電灯配線は下記による

- EM-EEF 2.0-2C サドル止め
- EM-EEF 1.6-2C サドル止め
- EM-EEF 1.6-3C サドル止め
- EM-IE 1.6X3(PF16)
- EM-IE 1.6X4(PF16)

凡 例		
記 号	名 称	備 考
	直付LED照明器具	
	直付LED照明器具	
	LEDシーリングライト	
	タンブラスイッチ	
	パイロットランプ	
	F用ジョイントボックス	
	ジョイントボックス	A. BOX 4角中浅型

工事名称	令和7年度（第2期）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県国頭郡国頭村比地263-1	図面名称	電 灯 設 備 平 面 図
発注機関	沖縄奄美自然環境事務所	縮 尺	S=1/60(A3)
摘 要	図面番号 E-02		
	管理建築士	設 計	製 図
検 印	設 計 者 氏 名 (株) 翁長設計		
	登録番号 一級建築士 吉田康平		
	所在地 大田登録 第376384号 浦添市勢理客3-2-24 201		



2025	07	23

工事名称		令和6年度（補選）やんばる世界遺産センター作業事務所新築工事		工事年度	令和7年度
工事場所		沖縄県国頭郡国頭村比地263-1		図面名称	空調設備平面図
発注機関		沖縄電業自然環境事務所		縮尺	M=1/60 (A3)
摘要				図面番号	M-02
3	捺印	管理建築士	設計	製	図
				設計者氏名	(株)翁長設計 一級建築士 吉田康平
				登録番号	大臣登録 第376384号
				所在地	湯浜市理髪3-2-24 201